博　多　１４８

－博多遺跡群第 194 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1266 集

２０１５

福岡市教育委員会

博　多　１４８

－博多遺跡群第 194 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1266 集

遺跡略号　HKT － 194
調査番号　１２２１

２０１５

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。その中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する博多遺跡群の発掘調査報告書は予備校寮建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では弥生時代から近代までの遺構を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2015 年 3 月 25 日

福岡市教育委員会

教育長　酒井龍彦

例言

□本報告書は博多区御供所町 1－1 の予備校寮建設工事に伴って 2012 年 10 月 9 日から 2013 年 3 月 15 日にかけて発掘調査を行った博多遺跡群第 194 次調査の報告書である。

□本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の屋山洋が担当した。

□遺構実測は浅岡俊也・久住猛夫・屋山が、写真撮影は屋山が、遺物実測と製図等を濱石正子・副田則子・相原聡子・池田祐司・屋山が担当した。

□本書で用いた方位は磁北である。

□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

□貿易陶磁の分類は大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－(2000 年)太宰府市教育委員会を参照した。

遺跡調査番号	１２２１	遺 跡 番 号	0121	分布地図番号	天神 49
調 査 地 地 番	福岡市博多区御供所町１－１				
開 発 面 積	1023 ㎡	調 査 面 積	439 ㎡	調 査 原 因	予備校寮建設
調 査 期 間	20121009 ～ 20130315		担 当 者	屋山　洋	

本文目次

Ⅰ．はじめに …… 1
Ⅱ．調査の記録 …… 4
１．調査の経過 …… 4
２．調査の概要 …… 4
３．Ⅰ区の遺構と遺物 …… 4
１）溝 …… 4
２）井戸 …… 4
３）土杭 …… 12
４）粘土貼付土杭 …… 26
５）その他の遺構 …… 28
６）基檀A・B …… 35
７）石垣遺構 …… 42
８）池状遺構 …… 42
４．Ⅱ区の遺構と遺物 …… 49
１）溝 …… 49
２）井戸 …… 50
３）土杭 …… 51
４）炉 …… 69
５）柱穴 …… 69
６）土壙墓・木棺墓 …… 69
７）近世甕棺墓 …… 73
８）その他の遺物 …… 75
５．動物遺存体 …… 84
６．小結 …… 85

挿図目次

第 1 図　遺跡分布図 (1/25,000) …… 2
第 2 図　調査地点位置図 (1/4,000) …… 2
第 3 図　調査地点周辺図 (1/250) …… 3
第 4 図　Ⅰ区 1 面全体図 (1/80) …… 5
第 5 図　Ⅰ区 2 面全体図 (1/80) …… 6
第 6 図　Ⅰ区 3 面全体図 (1/80) …… 7
第 7 図　SD1013 実測図 (1/40) …… 8
第 8 図　Ⅰ区井戸実測図 1 (1/40・1073 は 1/60) …… 9
第 9 図　SE1073 出土遺物実測図 (1/3) …… 10
第 10 図　Ⅰ区井戸実測図 2(1/60・2200 は 1/40) …… 11
第 11 図　Ⅰ区土坑実測図 1(1/20・1046 は 1/40・1020 上は 1/30) …… 13
第 12 図　Ⅰ区土坑出土遺物実測図 1(1/4) …… 14
第 13 図　Ⅰ区土坑実測図 2(1/20) …… 15
第 14 図　Ⅰ区土坑出土遺物実測図 2(1/4) …… 16
第 15 図　Ⅰ区土坑実測図 3(1/20・2012 は 1/30) …… 17
第 16 図　Ⅰ区土坑実測図 4(1/20・2074 は 1/30) …… 19
第 17 図　Ⅰ区土坑出土遺物実測図 3(1/4) …… 20
第 18 図　Ⅰ区土坑実測図 5(1/20)・遺物実測図 4(1/3) …… 21
第 19 図　Ⅰ区土坑実測図 6(1/40) …… 22
第 20 図　Ⅰ区土坑実測図 7(1/40) …… 23
第 21 図　Ⅰ区土坑実測図 8(1/40) …… 24
第 22 図　粘土貼付土坑実測図 1(1/40) …… 25

第 23 図　粘土貼付土坑実測図 2(1/40・2192 は 1/30) …… 26
第 24 図　弥生〜古代遺構実測図 (1/30・3002 は 1/20) …… 27
第 25 図　SK3002 出土遺物実測図 (1/3) …… 28
第 26 図　基壇 A・B 上石列実測図 (1/40) …… 29
第 27 図　基壇 A・B 基礎石列実測図 (1/60) …… 30
第 28 図　基壇 A・B 土層実測図 (1/60) …… 31
第 29 図　SK1037(1/10)・基壇出土遺物実測図 (1/3・1/4) …… 32
第 30 図　石組み (SK2169) 実測図 (1/60) …… 33
第 31 図　石組み (SK2168)・SX2181 土層実測図 (1/60) …… 34
第 32 図　SX2181 出土瓦実測図 1(1/4) …… 36
第 33 図　SX2181 出土瓦実測図 2(1/4) …… 37
第 34 図　SX2181 出土瓦実測図 3(1/4) …… 38
第 35 図　SX2181 出土瓦実測図 4(1/4) …… 39
第 36 図　SX2181 出土瓦実測図 5(1/4) …… 40
第 37 図　SX2181 出土磚実測図 (1/4) …… 41
第 38 図　SX2181 出土鴟吻実測図 1(1/3) …… 43
第 39 図　SX2181 出土鴟吻実測図 2(1/3) …… 44
第 40 図　SX2181 出土鴟吻実測図 3(1/3) …… 45
第 41 図　SX2181 出土墨書土器実測図 1(1/3) …… 46
第 42 図　SX2181 出土墨書土器実測図 2(1/3) …… 47
第 43 図　SX2181 出土墨書土器実測図 3(1/3) …… 48
第 44 図　SX2181 出土墨書土器実測図 4(1/3) …… 49
第 45 図　Ⅱ区 1 面全体図 (1/80) …… 52
第 46 図　Ⅱ区 2 面全体図 (1/80) …… 53
第 47 図　Ⅱ区 3 面全体図 (1/80) …… 54
第 48 図　Ⅱ区溝実測図 1(1/40) …… 55
第 49 図　Ⅱ区溝実測図 2(1/40) …… 56
第 50 図　Ⅱ区井戸実測図 1(1/60) …… 57
第 51 図　Ⅱ区井戸実測図 2(1/60・6050 は 1/40) …… 58
第 52 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 1(1/4) …… 59
第 53 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 2(1/4) …… 61
第 54 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 3(1/4) …… 62
第 55 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 4(1/4) …… 63
第 56 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 5(1/4) …… 64
第 57 図　Ⅱ区土坑実測図 1(1/20) …… 65
第 58 図　Ⅱ区土坑実測図 2(1/20) …… 66
第 59 図　Ⅱ区土坑実測図 3(1/20・5115 は 1/40) …… 67
第 60 図　Ⅱ区土坑実測図 4(1/20・5244 は 1/40) …… 68
第 61 図　Ⅱ区土坑実測図 5(1/40・5316 は 1/20) …… 70
第 62 図　Ⅱ区土坑実測図 6(1/40) …… 71
第 63 図　Ⅱ区土坑実測図 7(1/40) …… 72
第 64 図　Ⅱ区土坑実測図 8(1/40) …… 73
第 65 図　Ⅱ区土坑出土遺物実測図 1(1/4) …… 74
第 66 図　Ⅱ区土坑出土遺物実測図 2(1/4) …… 75
第 67 図　Ⅱ区土壙墓実測図1(1/20・4107 は 1/10) …… 76
第 68 図　Ⅱ区土壙墓実測図 2(1/20・　と 4157 は 1/10) …… 77
第 69 図　近世甕棺墓実測図 1(1/10) …… 78
第 70 図　近世甕棺墓実測図 2(1/10) …… 79
第 71 図　近世甕棺墓実測図 3(1/10) …… 80

第 72 図　板碑線刻文字拓本 ･･ 81
第 73 図　近世墓石 1 ･･ 82
第 74 図　近世墓石 2 ･･ 83
第 75 図　その他の出土遺物 (1/3) ･･ 84
第 76 図　1 面遺構配置図 (1/200) ･･ 86
第 77 図　2 面遺構配置図 (1/200) ･･ 87
第 78 図　3 面遺構配置図 (1/200) ･･ 88
第 79 図　近世絵図 ･･ 89

表目次

表 1 動物遺存体一覧 ･･････････････････････ 85
表 2 報告遺構遺物一覧 1 ･･････････････････ 91
表 3 報告遺構遺物一覧 2 ･･････････････････ 92
表 4 報告遺構遺物一覧 3 ･･････････････････ 93
表 5 報告遺構遺物一覧 4 ･･････････････････ 94

図版目次

図版 1　1. Ⅰ区1面全景　2. Ⅰ区2面全景 ･･ 95
図版 2　1. Ⅰ区3面全景　2. Ⅱ区1面全景 ･･ 96
図版 3　1. Ⅱ区2面全景　2. Ⅱ区3面全景 ･･ 97
図版 4　1. SE1073　2. SE2015 土層　3. SE2163　4. SE2188 井筒　5. SE2200　6. SK1007 ･････････ 98
　　7. SK1010　8. SK1039
図版 5　1. SK1020 上層　2. SK1020 下層　3. SK1042　4. SK1090　5. SK1091　6. SK1108 ･････････ 99
　　7. SK1151　8. SK2001
図版 6　1. SK2003　2. SK2012　3. SK2017　4. SK2017 土層　5. SK2048　6. SK2075 ･････････････ 100
　　7. SK2098　8. SK2100 上層
図版 7　1. SK2100 下層　2. SK2117　3. SK2117 遺物出土状況　4. SK2118 ･･････････････････････ 101
　　5. SK2118 鉄滓出土状況　6. SK2121　7. SK2150 土層　8. SK2164 土層
図版 8　1. SK2017　2. SK2165・2166　3. SK2165・2166 土層　4. SK2173　5. SK2174 ･････････････ 102
　　6. SK2176　7. SK3009　8. 粘土貼付土坑群 (SK1057・1067・1116・1123) 南東から
図版 9　1. SK1057 土層　2. SK2001　3. SK2191　4. SK3001　5. SK3002　6. SK3008 ･････････････ 103
　　7. 基壇 A・B と SS1121　8. 基壇B基礎 1115
図版 10　1. 基壇 B 裾部貼石　2. 1115 石組み断面　3. 基壇 A 盛土　4. SX1037 ･･････････････････ 104
　　5. 基壇土層 A 中央　6. 基壇土層 A 西端　7. 基壇 A 基礎 1126　8. 基壇 B 南西側端部
図版 11　1. SK2012 遺物出土状況　2. SK2012 土層　3. SX2181　4. SX2181 土層　5. SW2168 ･･････ 105
　　6. SW2169　7. SD4002
図版 12　1. SE5001　2. SE5001 井筒切合い　3. SE5003　4. SE5114 土層　5. SE5197 ･････････････ 106
　　6. SE5231　7. SE6001　8. SE6016 土層
図版 13　1. SE6023　2. SE6057　3. SE6068　4. SK4011　5. SK4024　6. SK4058　7. SK4102 ･･････ 107
　　8. SK4121
図版 14　1. SK4140　2. SK4157　3. SK4163　4. SK5013　5. SK5015 土層　6. SK5059　7. SK5115 ･･･ 108
　　8. SK5116 土層
図版 15　1. SK5117　2. SK5149　3. SK5176　4. SK5206　5. SK5230　6. SK5244　7. SK5281 ･･････ 109
　　8. SK5282
図版 16　1. SK5281　2. SK6006 土層　3. SK6011　4. SK6059　5. SK6062　6. SK5320 炉 ･････････ 110
　　7. SP5151 焼土出土状況　8. SP5171 焼土出土状況
図版 17　1. SK4064　2. SK4106　3. SK4107　4. SK4107 銅銭出土状況　5. SK4147　6. SK4157 ･････ 111
　　7. 5302 遺物出土状況 (北東から)　8. 墓石転用状況
図版 18　1. SK4093　2. SK4094　3. SK4094 底板出土状況　4. SK4095　5. SK4101　6. SK4152 ･････ 112
　　7. SK4153　8. SK4155

Ⅰ．はじめに

１　調査に至る経緯

平成 22 年（2010 年）7 月 16 日付けで学校法人金澤学園から博多区御供所町１－１の予備校寮建設に伴う埋蔵文化財有無の事前調査依頼（22 － 2 － 367）が教育委員会埋蔵文化財第 1 課 (現経済観光文化局埋蔵文化財審査課)に提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である博多遺跡群内に位置しており、当地の一部が以前事前審査依頼が提出された (3-2-212、13-2-2412・284、15-2-1039) 際に確認調査も行われており、遺構の存在は確認されていた。今回は 8 月 10 日に追加部分の確認調査を行い、その結果を元に原因者側と協議を行い、平成 24 年 (2012 年) 10 月 9 日から平成 25 年 (2013 年) 3 月 15 日の期間で発掘調査を行うこととなった。調査期間中はプレハブや水道の設置など原因者及び関係各位の多大なご協力を頂いた。記して感謝したい。

２　調査の組織

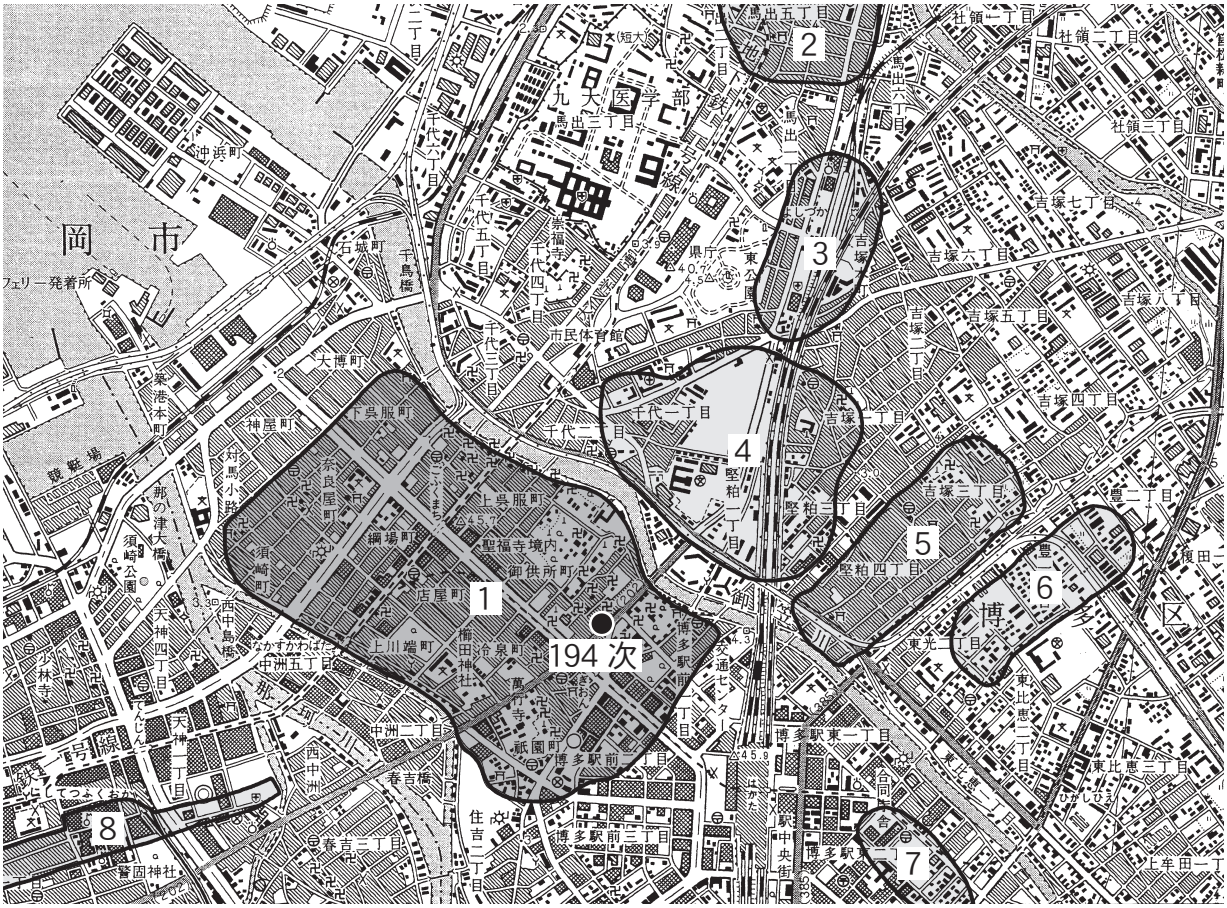
調査主体　福岡市教育委員会 (発掘調査　平成 24 年度　：整理報告　平成 26 年度)
調査統括　福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課
埋蔵文化財調査課長　宮井善朗　(平成 24 年度)
常松幹雄　(平成 26 年度)
同課調査第 2 係長　常松幹雄　(平成 24 年度)
同課調査第 1 係長　吉武　学　(平成 26 年度)
庶務　埋蔵文化財審査課管理係　川村啓子　(平成 24・26 年度)
調査担当　埋蔵文化財調査課　屋山　洋

技能員　朝岡俊也 (調査)　濱石正子　相原聡子 (整理)
作業員　石川洋子　内野信代　大坂布由子　工藤幸男　香月隆　河原明子　篠原俊夫
芹川淳子　田中昭子　田中トミ子　堤正子　北条こず江　吹春憲治　桑原美津子
増田ゆかり　中村桂子　中村尚美　岡部安正　中村健三　竹内武俊　林春治郎
鷲津真二郎　高手與志子　山田ヤス子　新垣誠　梶原慎司　穂園さやか　堀出幸
整理作業員　坂口龍子　副田則子

３　調査区の立地と環境

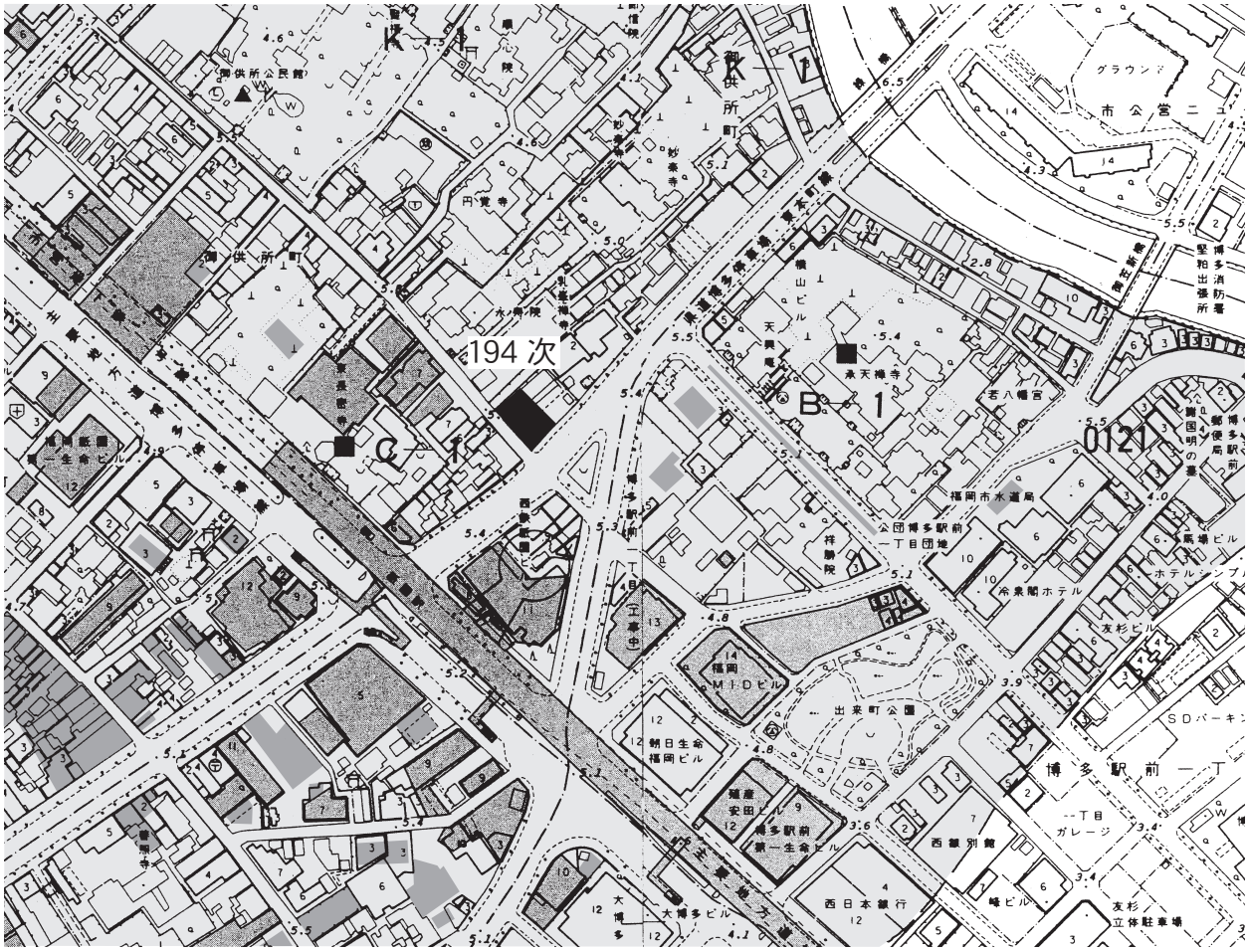
博多遺跡群は那珂川と御笠川によって運ばれた土砂によって形成された砂丘上に位置する。砂丘は大きく南北 2 つの砂丘に分かれるが、北側を中世の呼び名を元に沖ノ濱、南側を便宜上博多濱と呼ぶ。内陸側の博多濱では弥生時代中期から遺構が見られるようになり 7 世紀には方 1 町の官衙が築かれ後世の貿易都市としての芽生えが始まる。その後 13 世紀中頃には砂丘を縦断するメインストリートができ、それを軸にした街区が形成され、博多遺跡群は都市としての景観を持ち始めることになる。今回報告する 194 次調査区は博多濱の中でも南東端に位置し、国体道路に沿う砂丘上では弥生時代中期の遺構や推定 56 m の前方後円墳である博多 1 号墳が築かれるなど博多遺跡群でも古い時期の遺構が分布する地域である。また鎌倉時代には聖福寺と承天禅寺が建てられ、現在に至っている。

1. 博多遺跡群
2. 箱崎遺跡
3. 吉塚本町遺跡
4. 堅粕遺跡
5. 吉塚遺跡
6. 豊遺跡
7. 駅東生産遺跡
8. 福岡城肥前堀

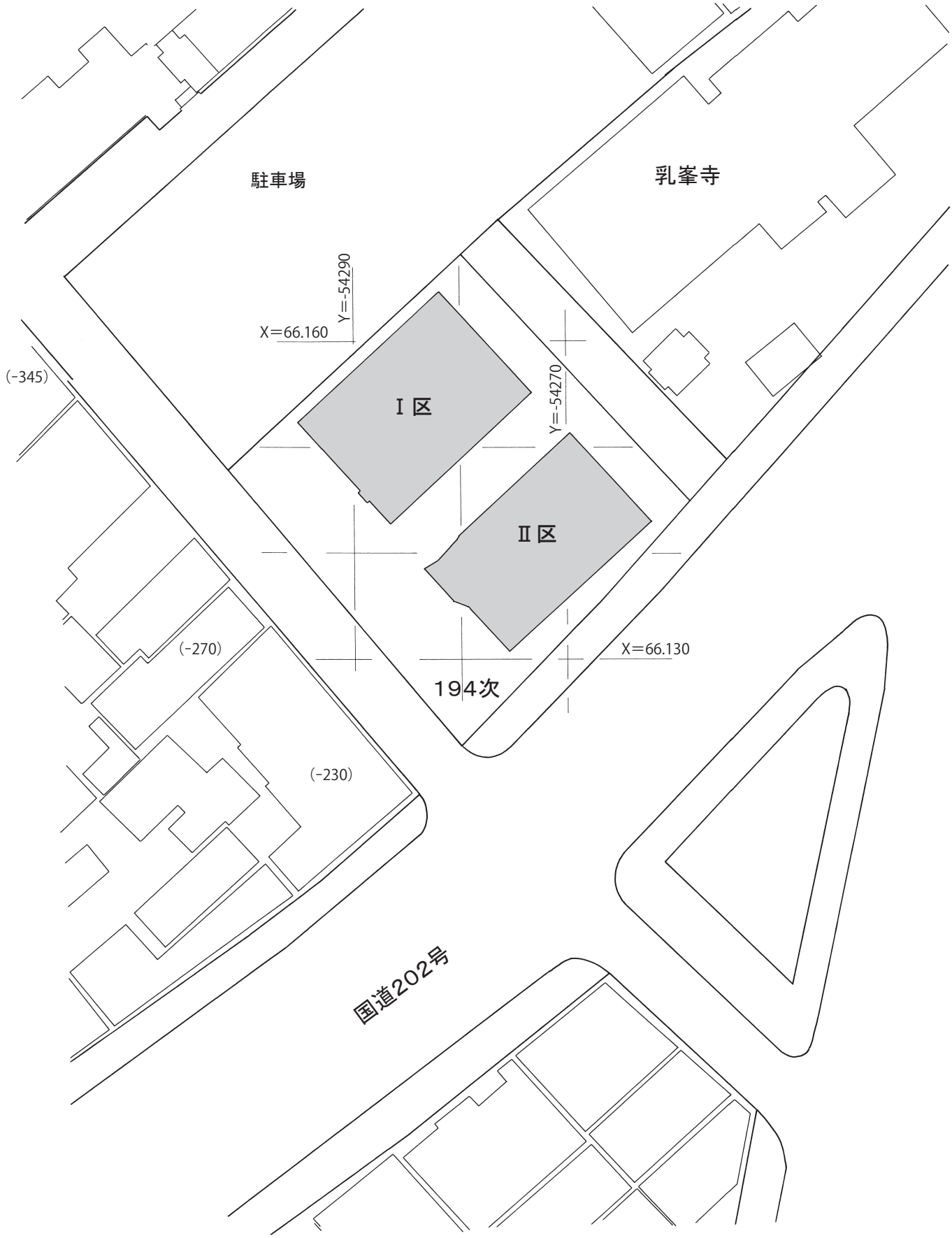


第１図　遺跡分布図 (1/25,000)

□は博多遺跡群の範囲(2015年10月現在)



第２図　調査地点位置図 (1/4,000)



(　　)の数字は確認調査による砂丘面までの深さ

0　10cm

第3図　調査地点周辺図 (1/250)

Ⅱ．調査の記録

１．調査の経過

申請地の面積は1023㎡である。敷地全体が開発対象であるが、駐車場など掘削を伴わず埋蔵文化財に影響を及ぼさない部分は調査対象地からはずし、建物基礎により破壊される399㎡を調査対象とした。実際には以前の建物基礎により矢板が打てない部分があり、それにより調査面積は439㎡となった。建物基礎は2ヶ所に分かれており北西側をⅠ区、南東側をⅡ区とし、Ⅰ区から発掘調査を開始した。調査はⅠ・Ⅱ区とも調査面を3面設定した。まず事前の確認調査の結果から近代の攪乱を受けている表土から深さ1.5ｍまでを重機ですき取り、その面を第1面とした。標高は4.4ｍを測る。第2面は標高3.8ｍ、第3面は砂丘面上で標高3.3ｍに設定した。調査は10月6日から原因者側で表土の鋤取りを行った後、10月9日に機材の搬入を行い、翌10日から12月19日までⅠ区の調査を行った。各調査面間の掘り下げは手掘りであるが、途中1126等の石組みが出土したため実測等に時間を取られ、3日程度の予定が7日程かかっている。12月21日～26日まで原因者側が打って返しや矢板の設置を行い、12月27日からⅡ区の調査を開始した。3月8日に機材の撤去をしたが、発掘作業が終わらなかったため、10日まで調査を行った。その後整理事務所で18日まで土器洗いを行い、すべての作業を終了した。

２．調査の概要

第1面では14世紀から近世の遺構を主とする。遺構の密度が薄いのは第79図にあるように寺院境内もしくは畑として使用されたためと思われる。第2面は12～14世紀の遺構を主とし遺構密度が濃い。中でも柱穴状遺構が多く出土したが、これは『聖福寺古図古図』で聖福寺と承天禅寺の中間地点に建物が密集して描かれているのと一致する。この時期にはⅠ区基壇A・Bなど特殊な建造物があり、その周辺から鉄滓が多く出土している事から、寺院に伴う工房等が並んでいた可能性も考えられる。第3面は1・2面から掘り込まれた井戸や土坑等による削平でほとんど砂丘面が残っていなかったが、弥生時代中期の竪穴式住居の可能性があるSK3001や古代の墳墓と思われるSK3008など弥生時代中期～古代を主とする。

本報告で出土遺物についてはほとんど触れることができなかったので報告した遺構に関してはP91～94の表を参照して頂きたい。

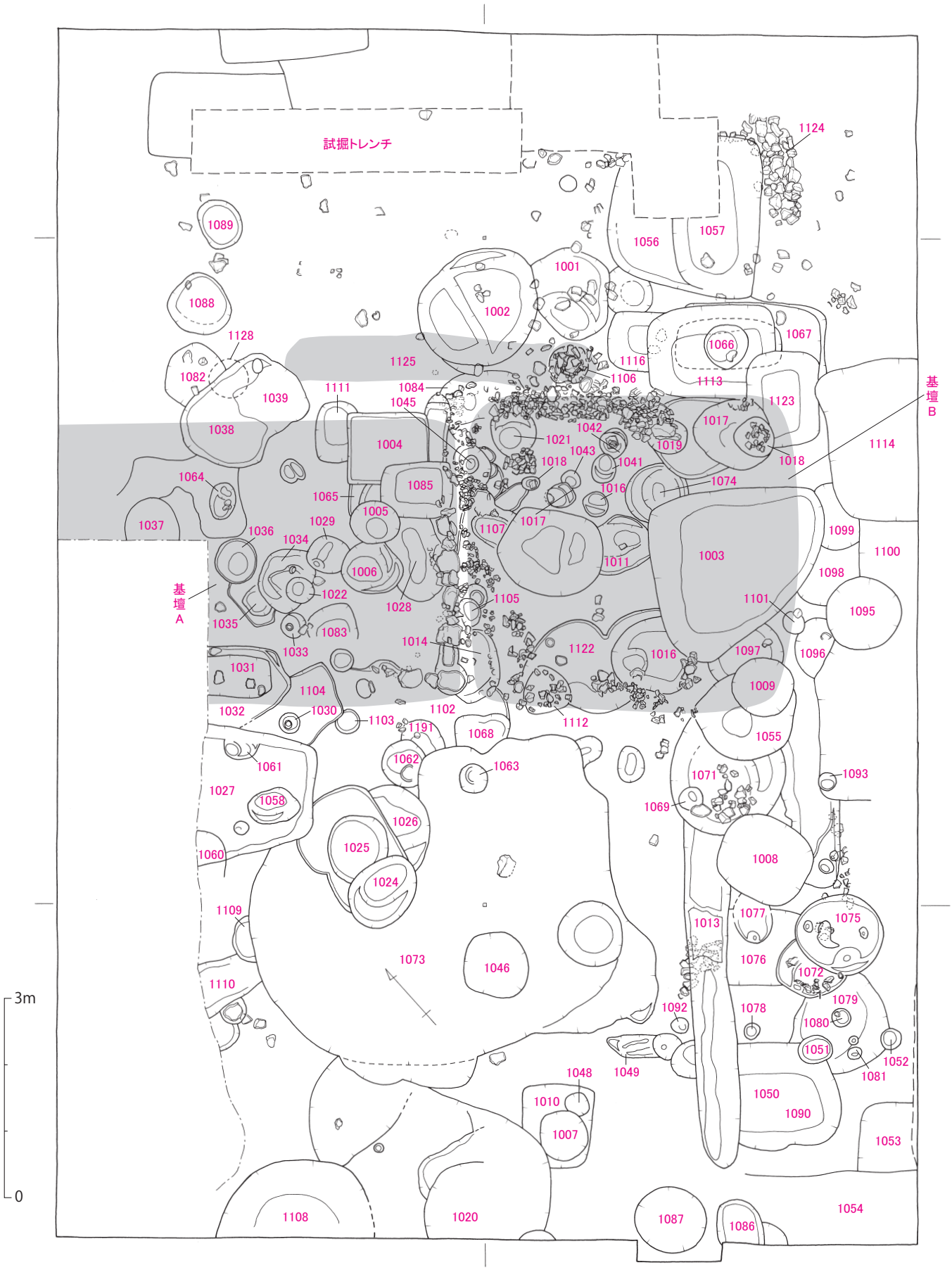
３．Ⅰ区の遺構と遺物

1）溝

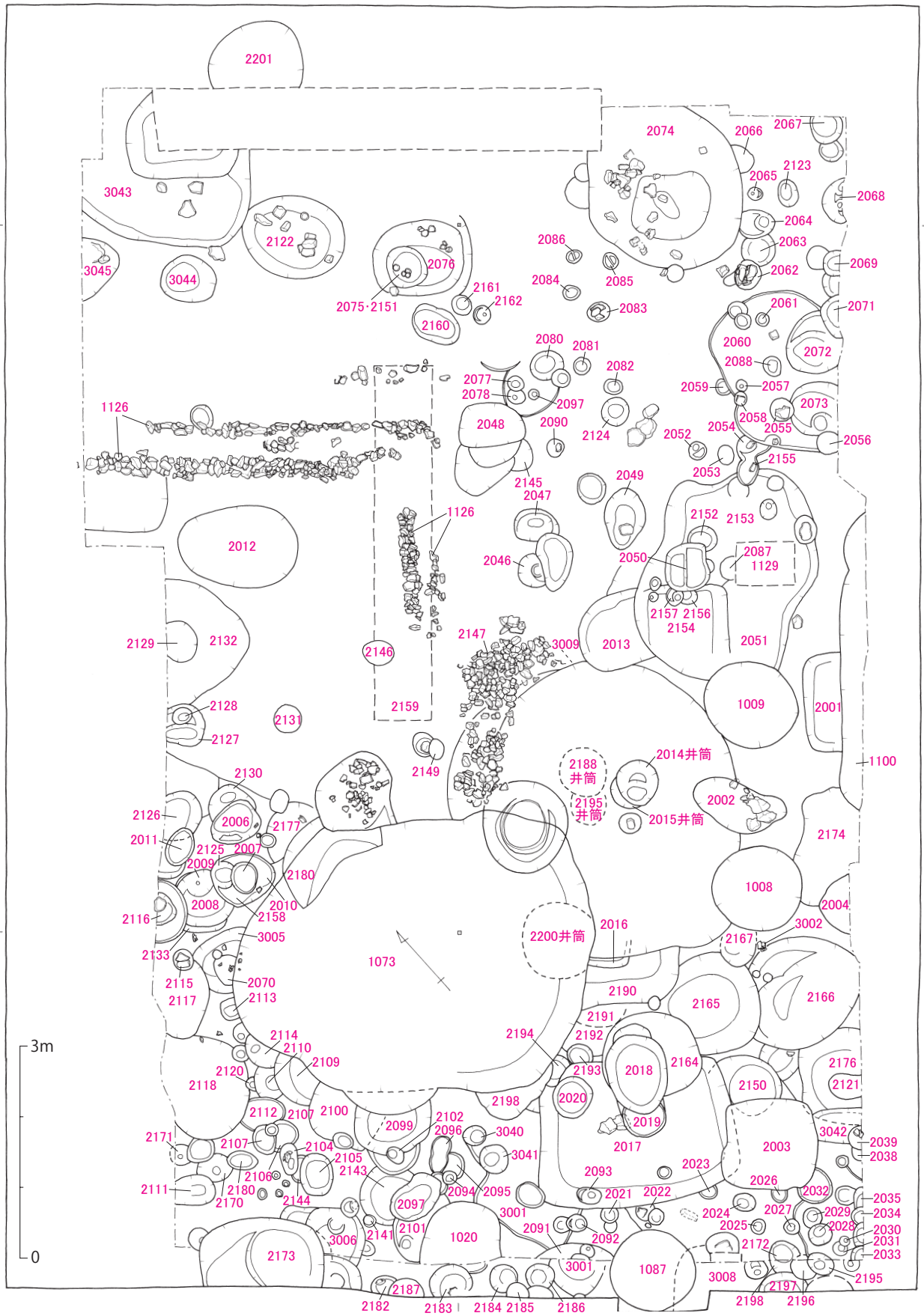
SD1013（第7図）　調査区南側に位置し、SK1071に切られる。方位はN-45°-Eを測り、現地割りに並行する。現状で長さ5.5ｍ、最大幅69㎝、深さ22㎝を測り断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色を呈する。16世紀頃と考えられる。

2）井戸

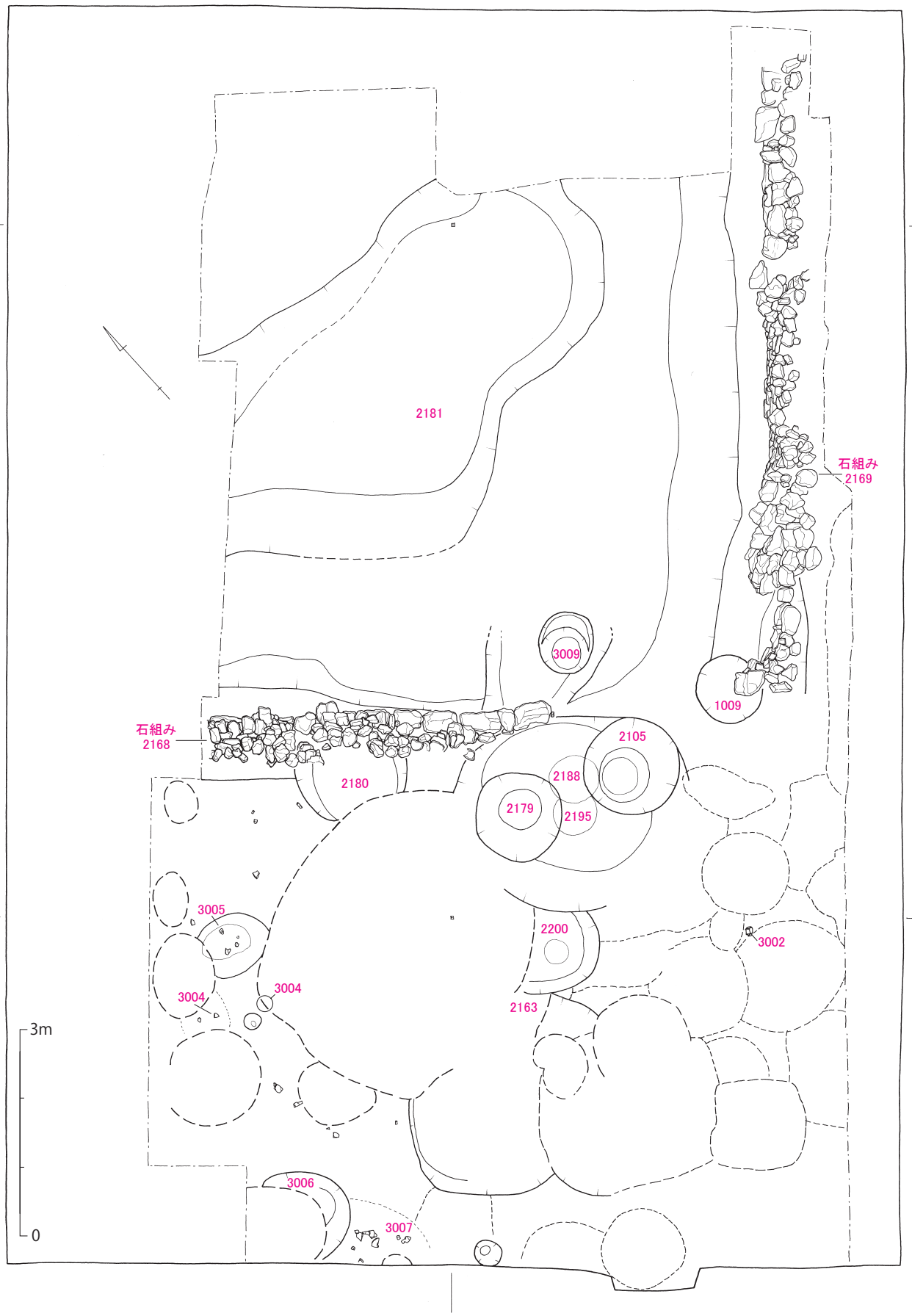
SE1073（第8図）　調査区の中央西寄りに位置する。SE2015・SK2100などを切る。平面形は隅丸方形を呈す。長径4.25ｍ、短径4.1ｍを測る。検出面から1.9ｍ程垂直に掘り下げて平坦面を作り、その南端を径2.1ｍ、深さ1.6ｍの逆台形型に掘り込み井筒を据える。底径は54㎝で底面から23㎝上の壁面に段をつけ井筒を乗せている。井筒は最下部10㎝程がわずかに遺存していた。井筒径は81㎝を測る。底面標高は1.05ｍであるが湧水はな



第４図　Ⅰ区１面全体図（1/80）



第５図　Ⅰ区２面全体図（1/80）



第 6 図　Ⅰ区 3 面全体図 (1/80)

かった。14 世紀と考えられる。(出土遺物第 9 図 001 ～ 026)。001 ～ 013 が井筒から、014 ～ 022 が掘方から、023 ～ 026 が上層から出土した。014 は青白磁製仏像の左胸から肘近辺で首から提げた数珠を連ねた瓔珞が見える。胎土は白色で釉や調整はやや雑な感じを受ける。

SE2015(第 10 図) 調査区中央南寄りに位置する。SE1073 に切られる。平面形は南北に長い楕円形を呈し、方位 N-43°-E を測る。長径 4.2 m、短径 3.5 m、検出面からの深さ 3.31 mを測る。井筒径は 54 cmで木質は遺存してなかったが、土層では検出面近くまで確認できた。途中の平坦面はなく断面が V 字状を呈するが、底面まで下げたところ更に 4 個の井筒があり (SE2179、2188、2195)、これらの掘込みにより平坦面が削平されたと思われる。底面標高は 0.55 mを測るが湧水はなかった。14 世紀代と考えられる。

SK2163(第 10 図)SE1073 の検出面から 1.9 m下の平坦面で井筒を確認した。井筒掘方は径 1.65 m、平坦面からの深さ 82 cmを測る。掘方断面は逆台形を呈し底径は 50 cm、底面から 8 cm上の壁面に段を作り、井筒を乗せている。井筒径は 72 cmを測る。木質はなく痕跡のみ確認した。底面標高は 1.16 mを測り、湧水はない。13 世紀と考えられる。

SE2179(第 8 図) SK2015 の底面近くで検出した。平面形は円形を呈す。径 1.3 m、検出面からの深さ 80 cmを測る。井筒は底面から 15 cm浮いて埋置されている。SE1073 同様底面から 13 cm上の壁面に段があるが井筒径より大きいため乗せることはできない。井筒の木質は痕跡のみ確認した。井筒径は 66 cmを測る。底面標高は 1.3 mを測る。遺物は掘方から白磁皿Ⅸ類が出土した。13 世紀後半から 14 世紀前半頃と考えられる。

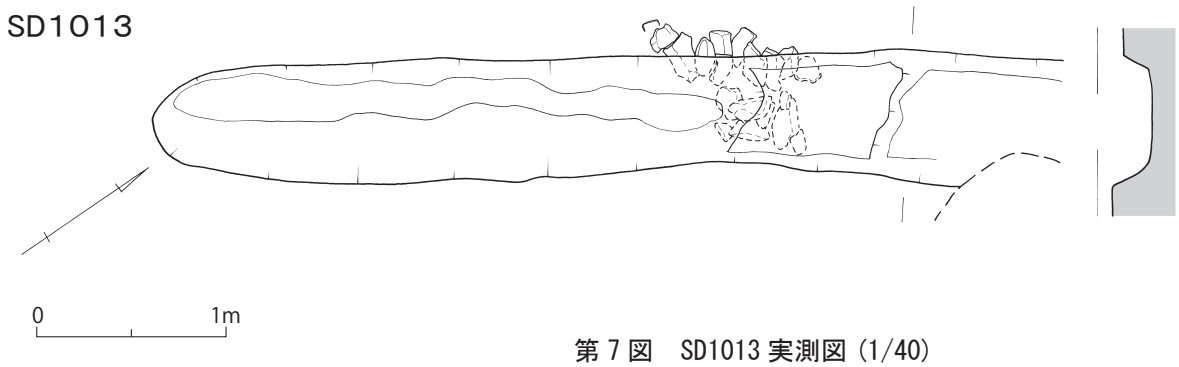
SE2188(第 8 図) SE2015 の底面近くで確認した。2015 に切られる。井筒掘方は径 74 cmを測る。井筒径は 64 cmで底面から 11 cm浮いて埋置している。木質は痕跡のみ確認した。底面標高は 1.06 mを測り、湧水はない。13 世紀前半と考えられる。

SE2195(第 8 図) SE2015 の底面近くで確認した。4 基の中で最も古い。井筒掘方は切り合いのため不明である。井筒は径 64 cmを測り、底面から 12 cm浮いていた。底面標高は 1.03 mで湧水はない。13 世紀後半から 14 世紀前半と考えられる。

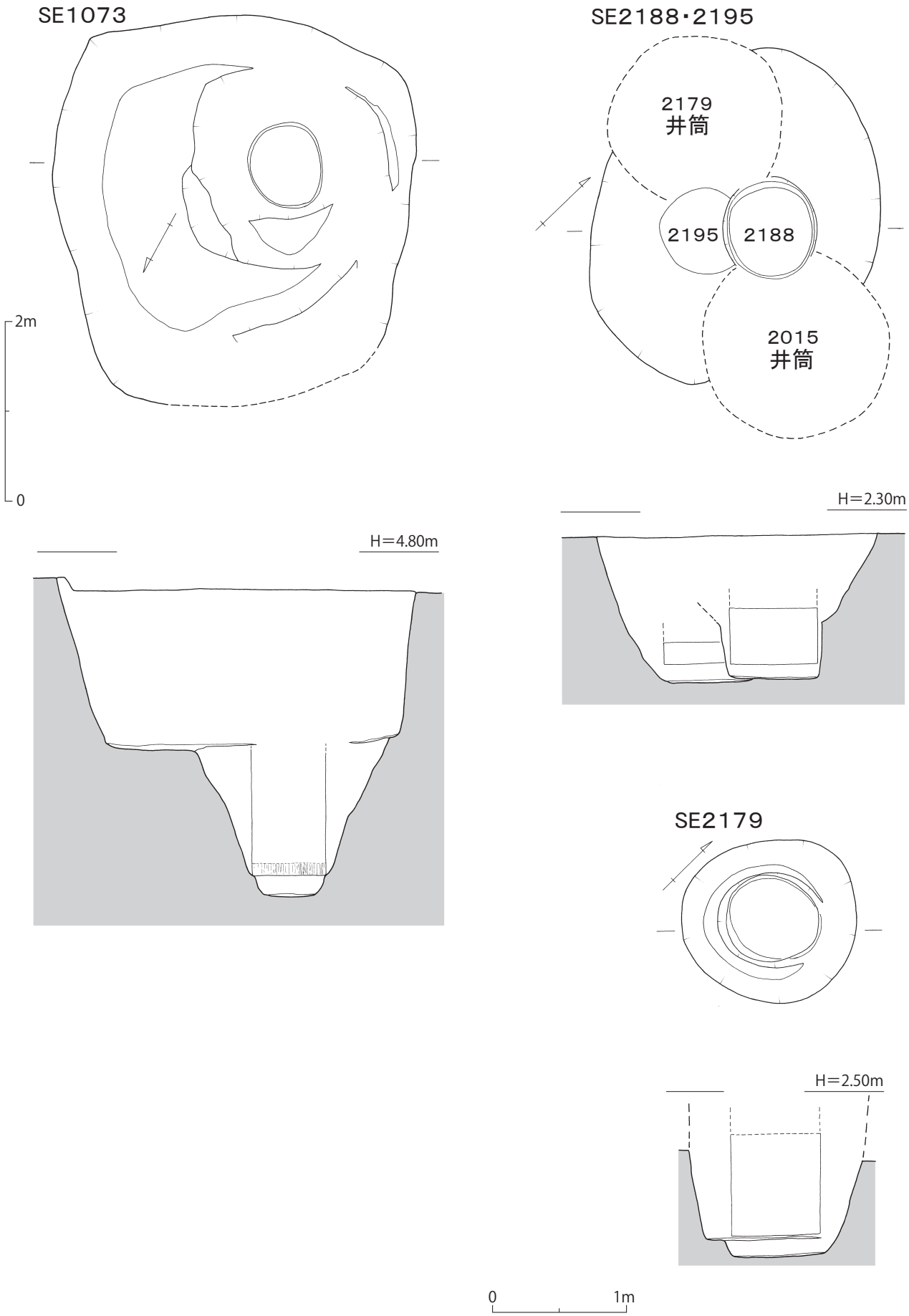
SE2200(第 10 図) SE1073 と 2015 の狭間に位置し、両方に切られる。平面形は円形を呈し径 1.5 m、遺存高 1.5 mを測る。1.35 m掘り下げた時点で径 93 cmの平坦面を作り、それから径 42 cm、深さ 12 cm掘り下げ井筒を埋置している。井筒径は 32 cmで木質は痕跡のみ確認した。底面標高は標高 1.23 mで湧水はない。12 世紀後半頃と考えられる。

3) 土坑

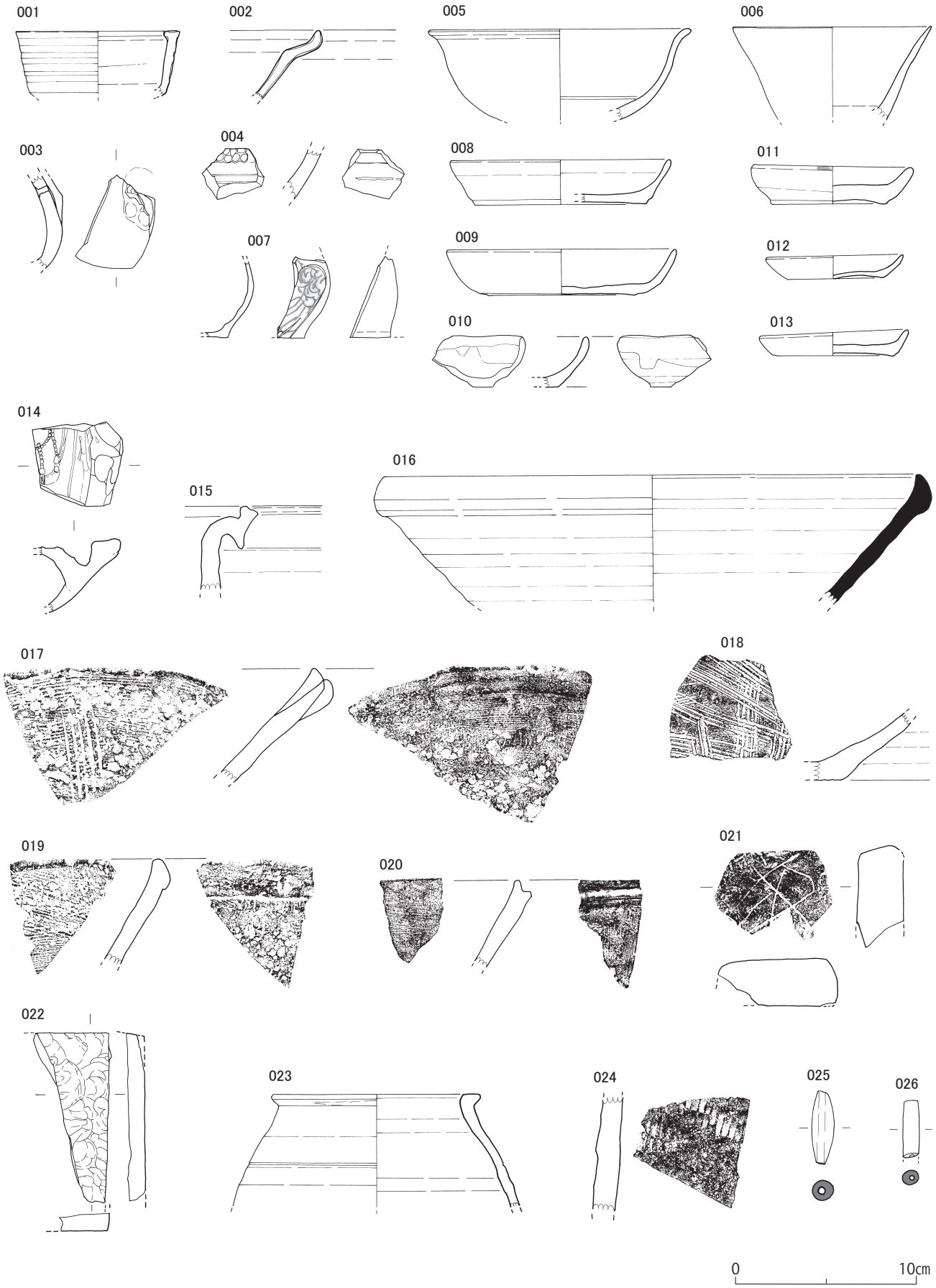
SK1007(第 11 図) 調査区南西隅に位置し、SK1010 を切る。円形に近く径 77 cm、深さ16 cmを測る。断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色で炭化物を含む。13 世紀頃と考えられる。



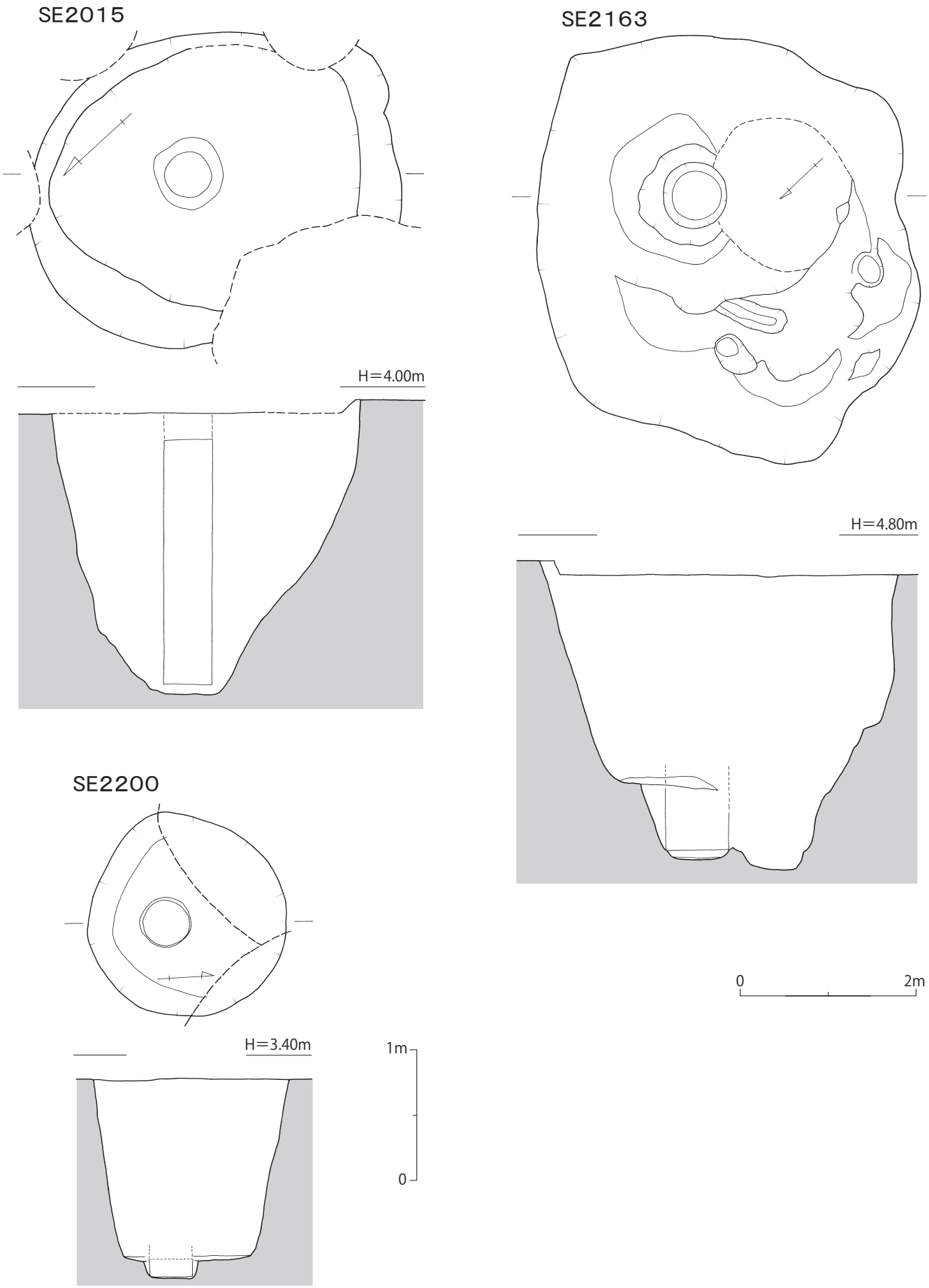
第 7 図 SD1013 実測図 (1/40)



第 8 図　Ⅰ区井戸実測図 1（1/40・1073 は 1/60）



第 9 図　SE1073 出土遺物実測図 (1/3)



第 10 図　Ⅰ区井戸実測図 2(1/60・2200 は 1/40)

瓦質鉢、土師坏、土師皿 2 枚、銅銭 1 枚が出土した。遺物は第 12 図 027 ～ 034 が出土した。

SK1010（第 11 図） 調査区南西隅に位置する。SK1007・1020 に切られる。平面形は長方形を呈し主軸は N-76°-E を測る。長径 125 ㎝、短径 108 ㎝、検出面からの深さ 28 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。底面の四隅近くで礎石状の石が出土した。13 ～ 14 世紀頃と考えられる。遺物は第 12 図 035 ～ 041 が出土した。

SK1020 上層（第 11 図） 調査区南西隅に位置する。SK1010 を切る。遺構の西半が調査区外に延び平面形は不明である。現状で東西 1.8 m、南北 1.85 m、検出面からの深さ 54 ㎝を測る。埋土は白色粘土層と炭化物層の互層である。底面西側に柱穴状の掘方があるが、下層の遺構である可能性がある。土師坏、土師皿と鉄滓が出土した。14 世紀頃と考えられる。遺物は第 12 図 043 ～ 061 が出土した。

SK1020 下層（第 11 図） 調査区の南西隅に位置する。1020 上層の下層で検出した。別遺構の可能性があるので分けて報告する。平面形は不整長方形で主軸は N-45°-E を測る。現状で東西 90 ㎝、南北 114 ㎝、深さ 16 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。土師坏・皿がまとまって出土した。14 世紀頃と考えられる。遺物は第 12 図 062 ～ 069 が出土した。

SK1039（第 11 図） 調査区北端近くに位置し、SK1038 を切る。平面形は菱形に近く主軸は N-36°-W を測る。長径 126 ㎝、短径 90 ㎝、深さ 29 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。土師坏と鉄滓が出土した。土師坏は外面口縁に「器」の墨書有り。16 世紀頃と考えられる。

SK1042（第 13 図） 調査区東側に位置する。平面形は円形で径 46 ㎝、深さ 43 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。底面直上で根石と思われる長さ 18 ㎝、厚さ 5 ㎝の石が出土した。底面から 35 ㎝上で完形の坏が 1 枚と蓋状の破片が 1 枚出土した。14 世紀と考えられる。

SK1046（第 11 図） 調査区中央西寄りに位置し SE1073 を切る。平面は円形に近く、径 102 ㎝、検出面からの深さ 46 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。1 辺 60 ㎝の礫が出土した。礎石を廃棄したものと思われる。15 ～ 16 世紀頃と考えられる。

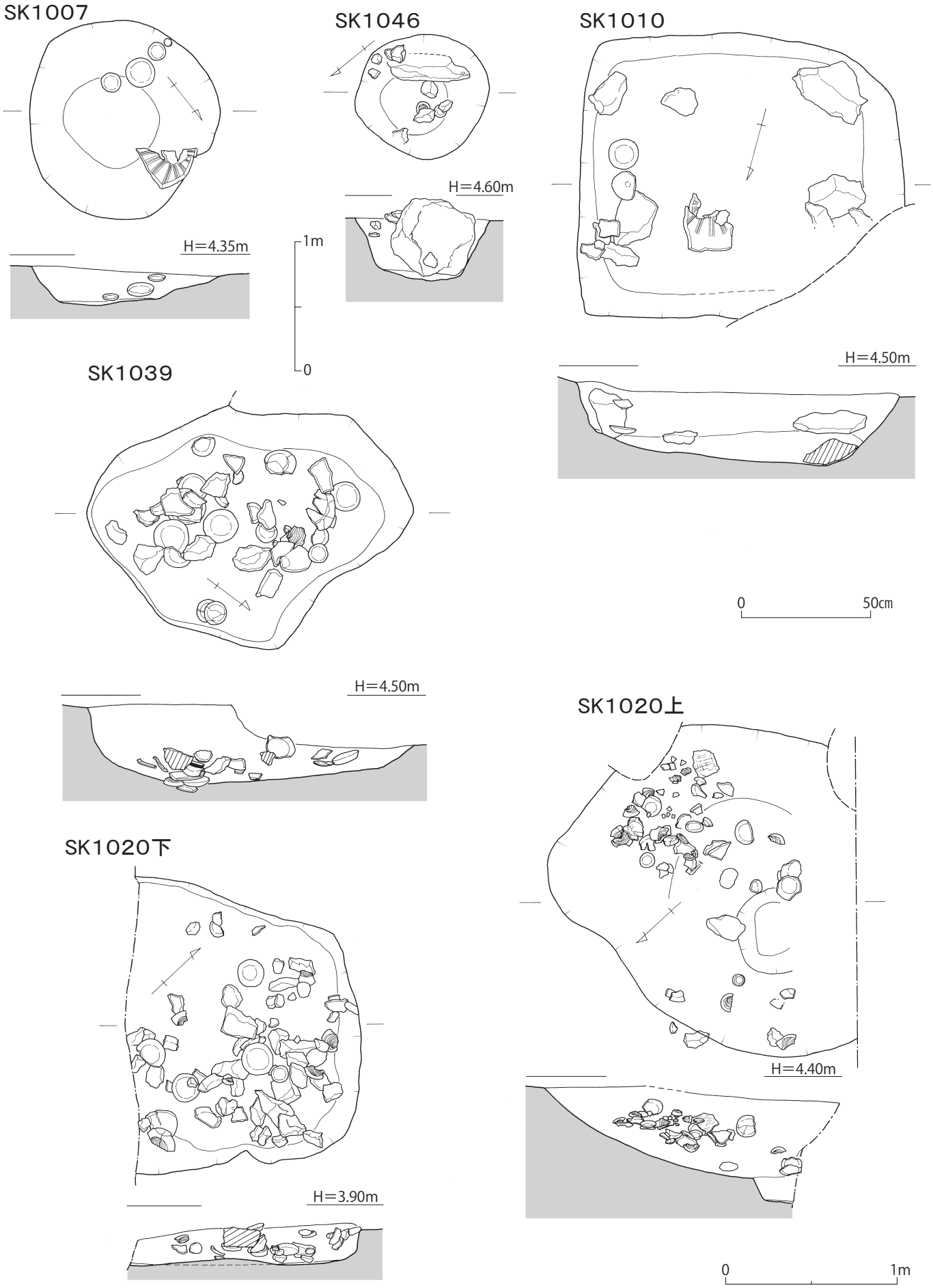
SK1050（第 13 図） 調査区南隅に位置し、SD1013 に切られる。平面形は隅丸長方形で北東辺がふくらむ。主軸は N-47°-W を測る。長径 146 ㎝、短径 139 ㎝、検出面からの深さ 38 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。埋没途中で天目碗や土師坏・皿等が廃棄されている。13 ～ 14 世紀頃と考えられる。遺物は第 14 図 071 ～ 087 が出土した。

SK1082（第 13 図） 調査区北端近くに位置し SK1038 に切られる。平面形は円形と思われ、径 96 ㎝、検出面からの深さ 15 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。銅銭の他、不明青銅製品が出土した。遺物は 13 世紀であるが 14 世紀の遺構の上に乗っており 15 ～ 16 世紀頃と考えられる。遺物は第 14 図 091・092 が出土した。

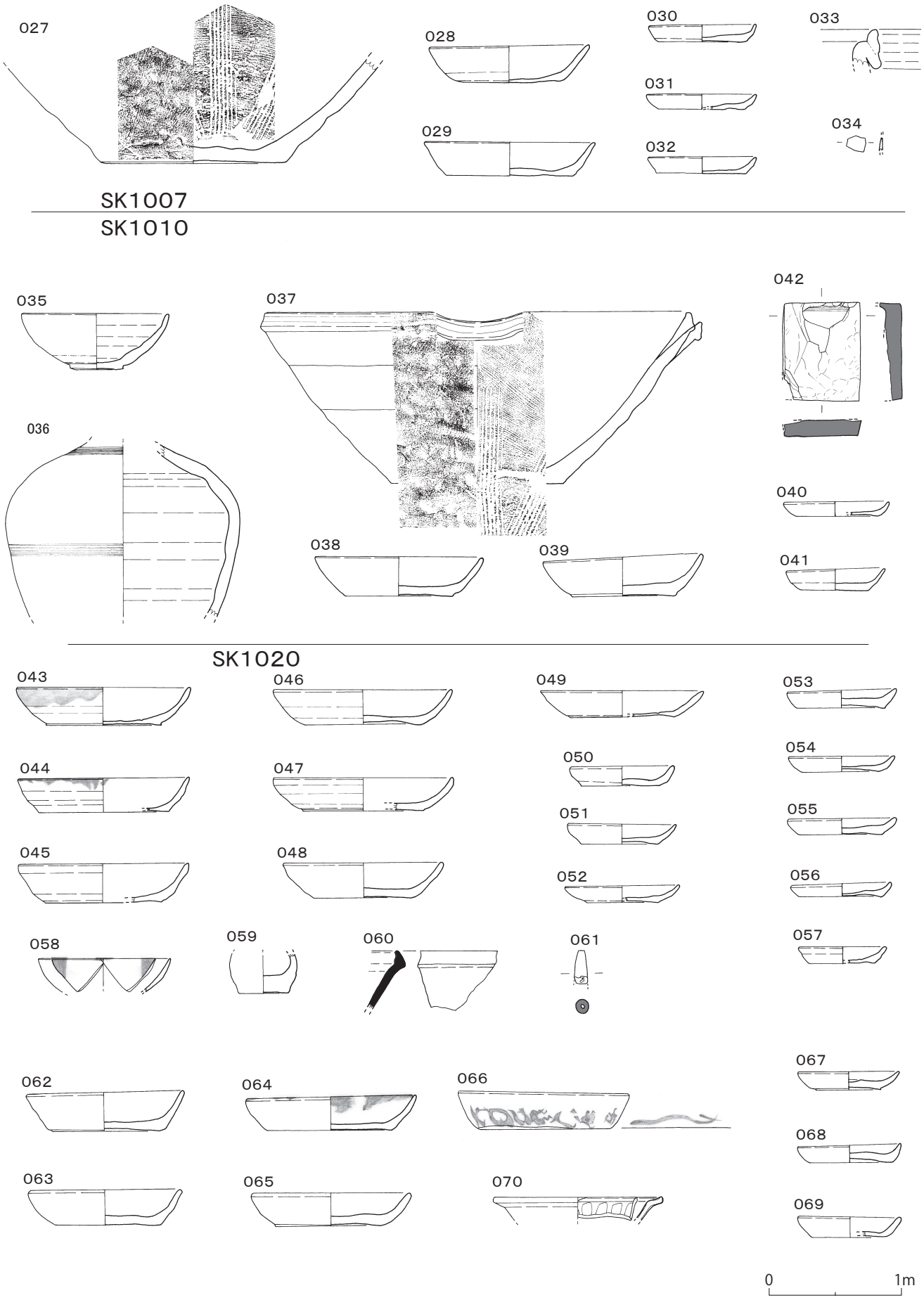
SK1091（第 13 図） 調査区中央やや西寄りに位置し、SE1073、SK1062 に切られる。平面形は円形で径 67 ㎝、検出面からの深さ 26 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。土師坏、羽口が出土した。近世と思われる染付小片が 1 点出土した。紛れ込みか。その他の遺物は第 14 図 093~095 等である。13 世紀から 14 世紀頃と思われる。

SK2002（第 15 図） 調査区調査区南東側に位置し、SE2015 を切る。平面形は南北に長い不整楕円形で主軸は N-30°-W を測る。長径 136 ㎝、短径 70 ㎝、深さ 27 ㎝を測る。南側で 20 ～ 30 ㎝の礫が、北側で土師坏と鉄滓が出土した。14 世紀後半頃と考えられる。

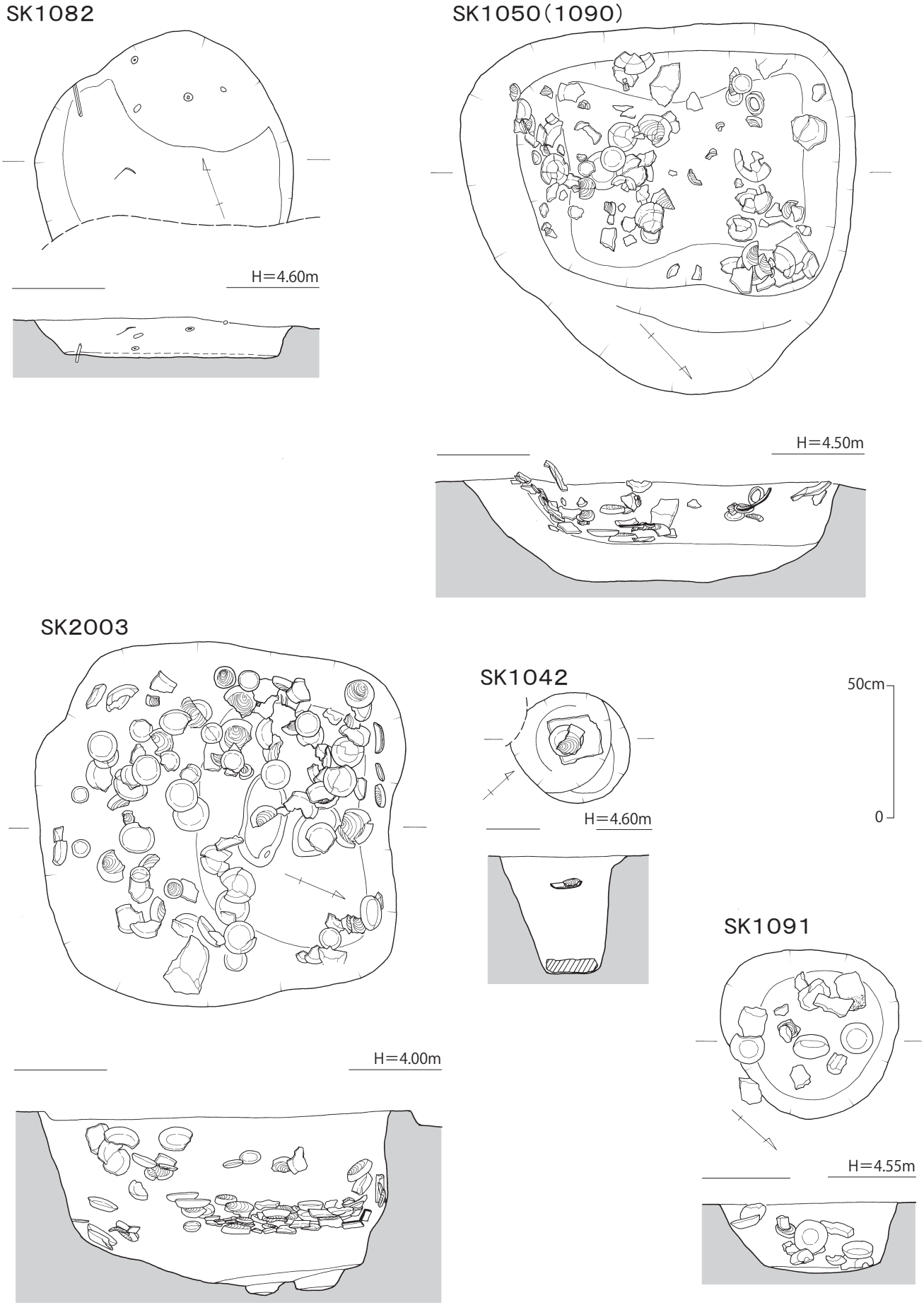
SK2003（第 13 図） 調査区南隅に位置し SK2017・2150 を切る。平面形は隅丸方形で主軸は N-23°-W を測る。長径 137 ㎝、短径 130 ㎝、深さ 66 ㎝を測る。断面は逆台形を呈し、



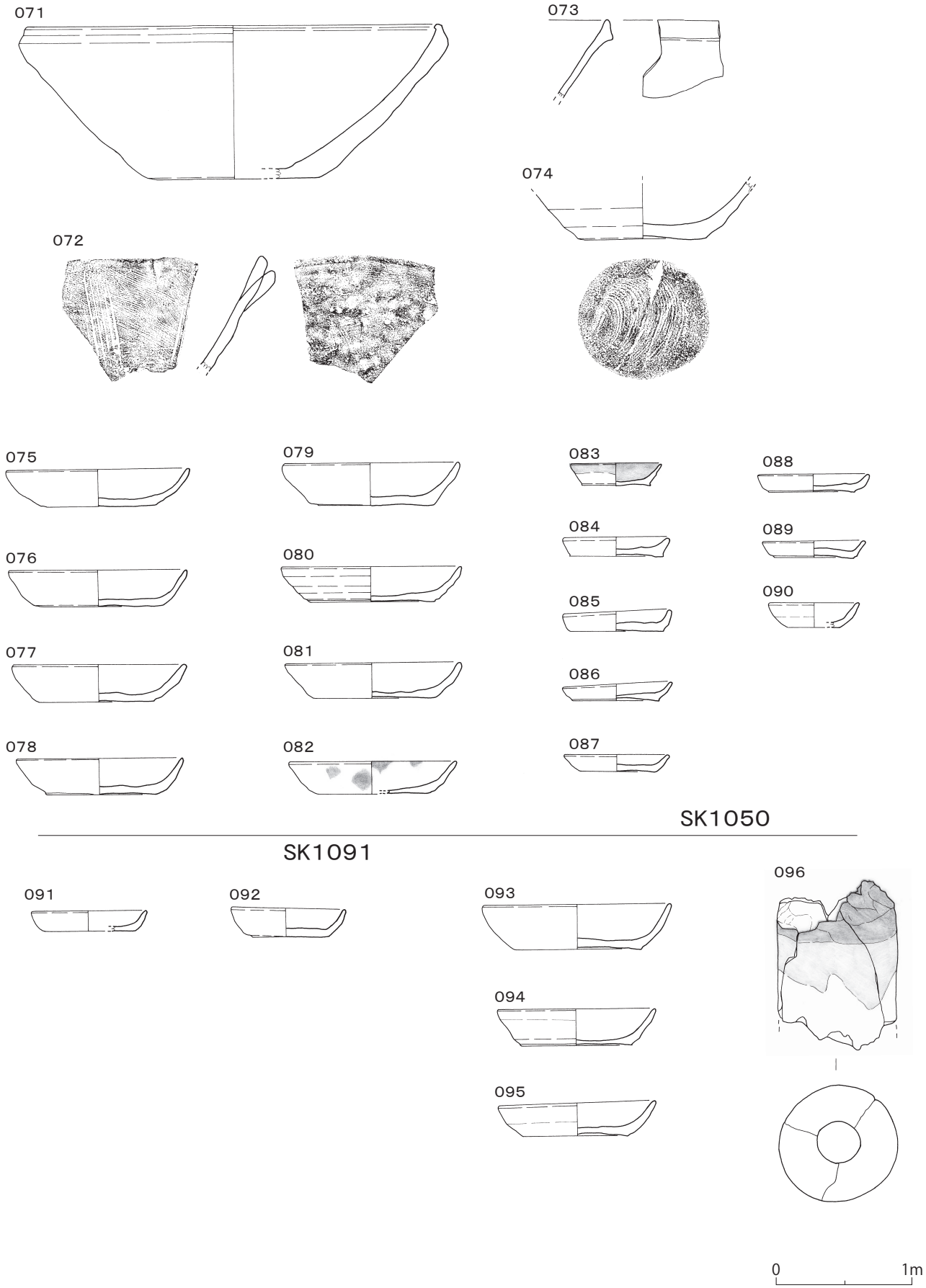
第 11 図　Ⅰ区土坑実測図 1(1/20・1046 は 1/40・1020 上は 1/30)



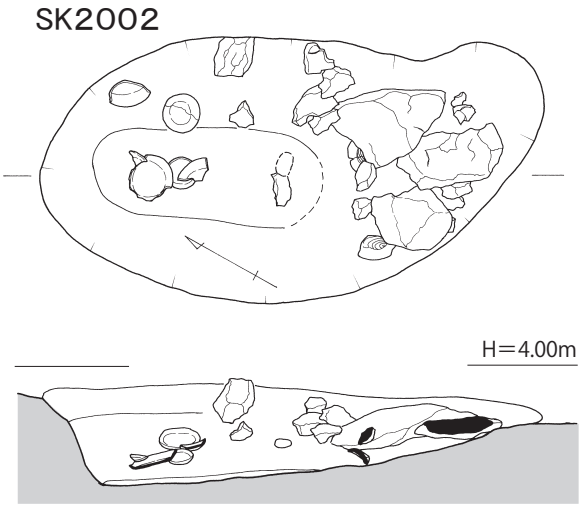
第 12 図　Ⅰ区土坑出土遺物実測図 1(1/4)

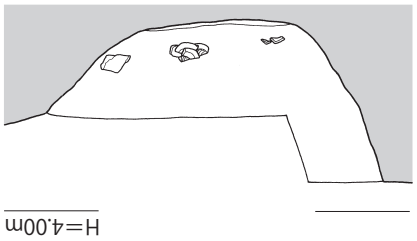


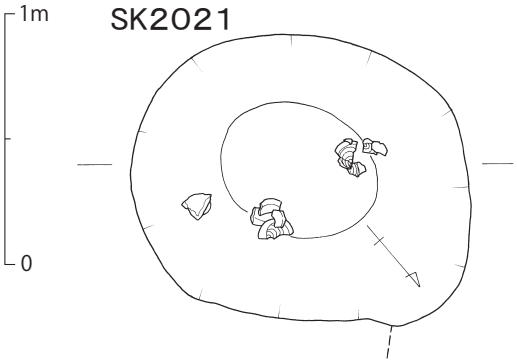
第 13 図　Ⅰ区土坑実測図 2(1/20)

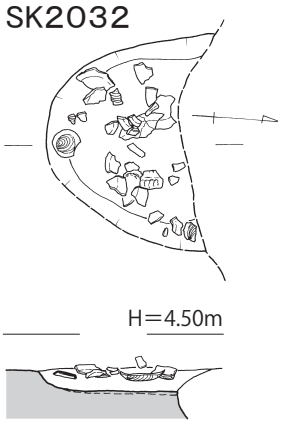


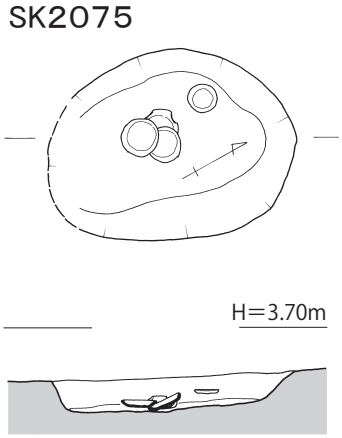
第 14 図　Ⅰ区土坑出土遺物実測図 2(1/4)

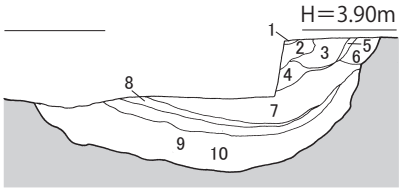




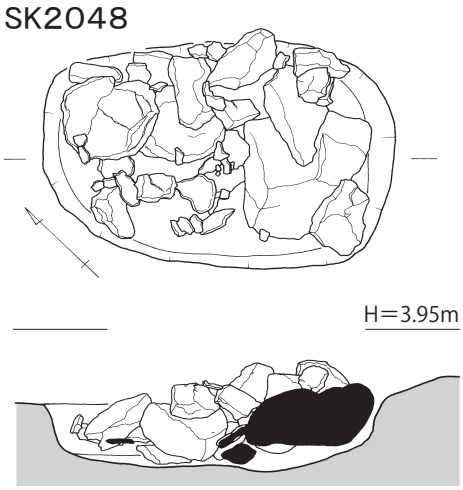


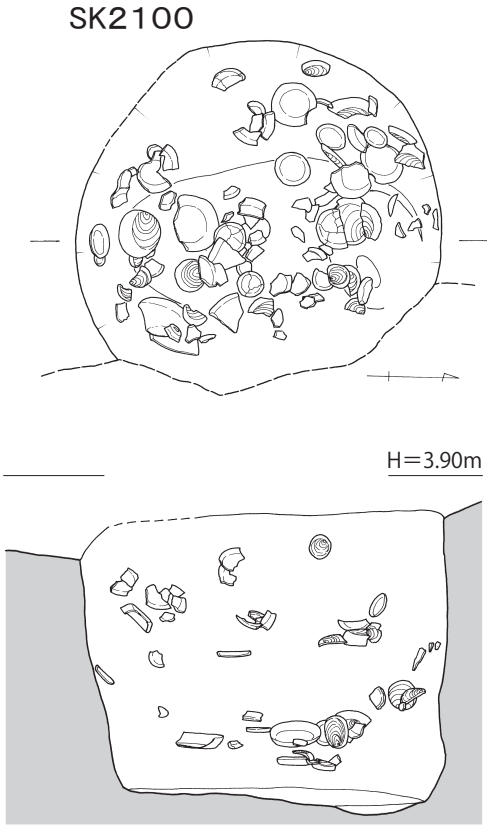






SK2012
1 暗茶褐色土
2　黄褐色粘質土　粗砂を多量に含む
3　暗黄褐色土　1㎝以下の黄褐色粘土ブロックがびっしり詰まっている
4　暗褐色土　炭化物小片含む
5　黄色粘土
6　黄褐色砂
7　灰黄褐色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
8　灰褐色土　こまかく砕いた多量の土師坏・皿片が出土
9　黄白色粘土　黄白色粘土は赤変しており炉壁片と思われる
10　黄色砂　灰褐色土をわずかに含む





0　50㎝

第 15 図　Ⅰ区土坑実測図 3(1/20・2012 は 1/30)

底面北側に深さ 5 ㎝程の掘り込みが 2 個みられる。埋没途中で土師坏と皿を多量に廃棄している。土師坏は底部が 1/2 以上残る個体が 70 枚程出土した。14 世紀頃と考えられる。

SK2012（第 15 図）　調査区中央から北寄りに位置する。基壇 A の盛土中に掘られた祭祀土坑である。平面形は楕円形を呈し主軸は N-50°-W を測る。長径 133 ㎝、短径 112 ㎝、深さ 66 ㎝を測り断面は逆台形を呈す。埋土は黄褐色粘質土を主とし、薄い層状に貼り付けるように埋めている（第 28 図土層 A 右端）。底面から 20 ㎝上で図の 8 層中に土師坏・皿を砕いた細片（第 29 図 140 ～ 148）と図 29 の 139 の土製品が出土した。139 は淡褐色を呈し、一部に赤色顔料の痕跡が残る。径 7 ㎝、高さ 1.5 ㎝の饅頭型に粘土帯を十字に貼り付けつまみ状にしている。実際つまみとしては先が細く、短いため持ちづらい。これは今まで類例をみないが地鎮具と思われる。13 世紀後半～ 14 世紀前半頃と考えられる。

SK2032（第 15 図）　調査区南隅に位置し SK2003 に切られる。平面形は楕円形と思われ主軸は N-3°-W を測る。現状で南北 46 ㎝、東西 57 ㎝、深さ 8 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。土師坏・皿片が多く出土した。中世と考えられる。

SK2048（第 15 図）　調査区中央から東寄りに位置する。平面形は楕円形を呈し主軸は N-43°-W を測る。長径 93 ㎝、短径 59 ㎝、深さ 29 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。
土坑内に多量の礫が詰まっていた。14 世紀頃と考えられる。

SK2074（第 16 図）　調査区の東端に位置し、遺構の東半が調査区外に延びる。平面形は円形を呈し径 2.2 m、深さ 70 ㎝を測る。断面は V 字形を呈す。埋土は灰黄褐色土、暗灰褐色土などがレンズ状に堆積している。15 世紀後半頃と考えられる。

SK2075（第 15 図）　調査区北東隅に位置し SK2070 を切る。平面形は楕円形を呈し主軸は N-30°-E を測る。長径 67 ㎝、短径 49 ㎝、深さ 7 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。底面から土師皿が 4 枚まとまって出土した。中世に属すると考えられる。

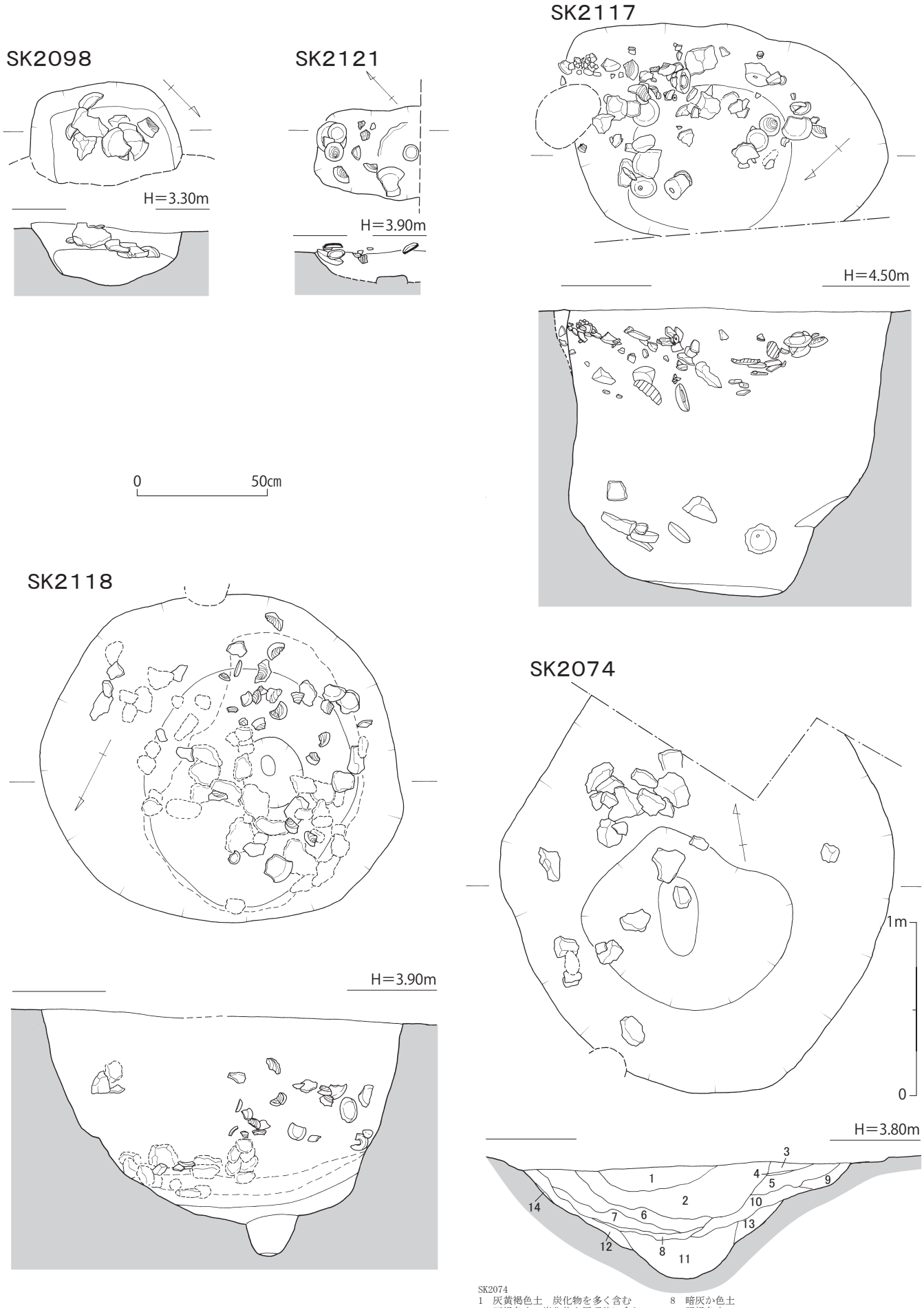
SK2098（第 16 図）　調査区西側に位置し、SE1073 に切られる。主軸は N-43°-W を測る。現状で長径 58 ㎝、短径 39 ㎝、深さ 25 ㎝を測る。断面は逆台形に近い。底面から浮いた状態で土師坏と皿が出土した。15 ～ 16 世紀頃と考えられる。

SK2100（第 15 図）　調査区西端に位置し SE1073 に切られる。平面形は円形を呈し径 98 ㎝、深さ 80 ㎝を測る。断面は箱型を呈す。底面北端が若干窪む。埋没中に須恵質鉢や土師坏・皿が廃棄されている。14 ～ 15 世紀頃と考えられる。

SK2117（第 16 図）　調査区西端に位置し、遺構の西半を攪乱に切られる。平面形は楕円形を呈し主軸は N-42°-E を測る。長径 121 ㎝、深さ 109 ㎝を測る。断面は逆台形に近い。底面近くで須恵器鉢や土師坏、穿孔のある壺底部が、また上層から土師坏・皿や土錘などが出土した。14 世紀頃と考えられる。

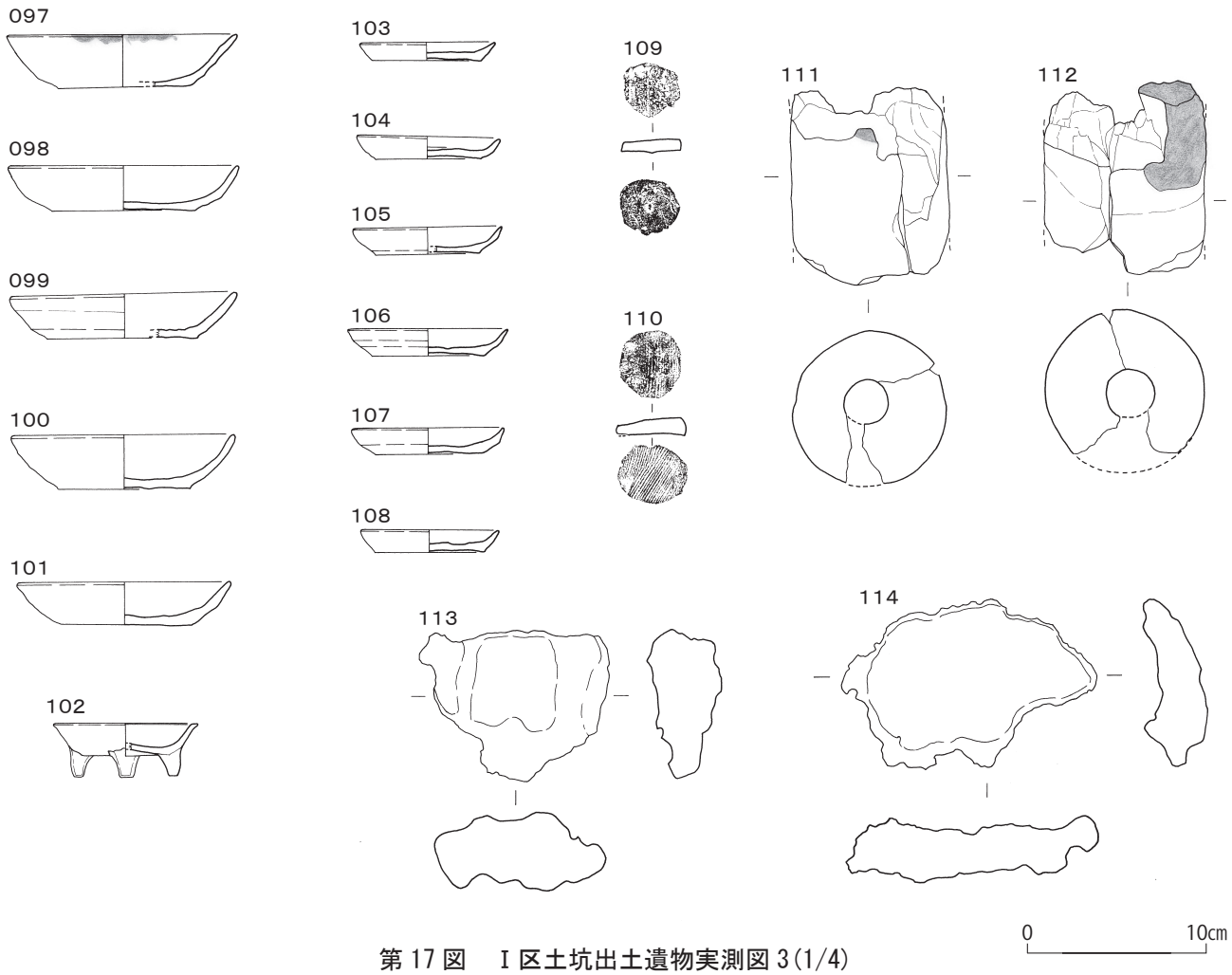
SK2118（第 16 図）　調査区西隅に位置し、SK2118 に切られる。平面形は楕円形を呈し主軸は N-66°-E を測る。長径 138 ㎝、短径 124 ㎝、深さ 83 ㎝を測る。断面は半円形を呈し、底面中央に径 19 ㎝、深さ 14 ㎝の掘り込みがある。底面から 12 ㎝上に細かな鉄滓の層があり。その上に椀型滓と土師坏 30 枚以上、土師皿 50 枚以上が廃棄されていた。製鉄関連の祭祀土坑で 12 世紀後半頃と考えられる。遺物は第 17 図 097 ～ 114 が出土した。

SK2121（第 16 図）　調査区南隅に位置し SK2176 を切る。遺構の南半が調査区外に延びる。平面形は楕円形と思われ主軸は N-43°-W を測る。現状で長径 42 ㎝、短径 36 ㎝、深さ 10 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。土師坏と皿が出土した。中世と考えられる。



SK2074
1　灰黄褐色土　炭化物を多く含む
2　灰褐色土　炭化物を層理状に含む
3　灰褐色土
4　炭化物層
5　灰褐色土
6　暗灰黄褐色土
7　灰黄褐色土
8　暗灰か色土
9　明褐色土
10　灰褐色土　黄白色砂を左下げリの薄い層状に含む
11　暗灰褐色土
12　黄色粘質土
13　灰色土　褐色砂を左下がりの薄い層状に含む
14　炭化物層

第 16 図　Ⅰ区土坑実測図 4(1/20・2074 は 1/30)



第 17 図　Ⅰ区土坑出土遺物実測図 3(1/4)

SK2174（第 18 図）　調査区南東隅に位置し、遺構の東半が調査区外に延びる。現状で東西 67 ㎝、南北 60 ㎝、検出面からの深さ 71 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。埋土は炭化物を含む黒褐色シルトと黄灰褐色シルトが何層もレンズ状に堆積する。中層付近に土師坏と皿が廃棄された状態で出土した。13 世紀頃と考えられる。

SK2176（第 18 図）　調査区南隅に位置し SK3042 に切られ、遺構の南東側が調査区外に延びる。現状で長径 135 ㎝、短径 63 ㎝、深さ 57 ㎝を測る。断面はフラスコ型を呈す。上～中層で土師坏が出土した。14 世紀頃と考えられる。遺物は第 18 図 115 ～ 128 が出土した。

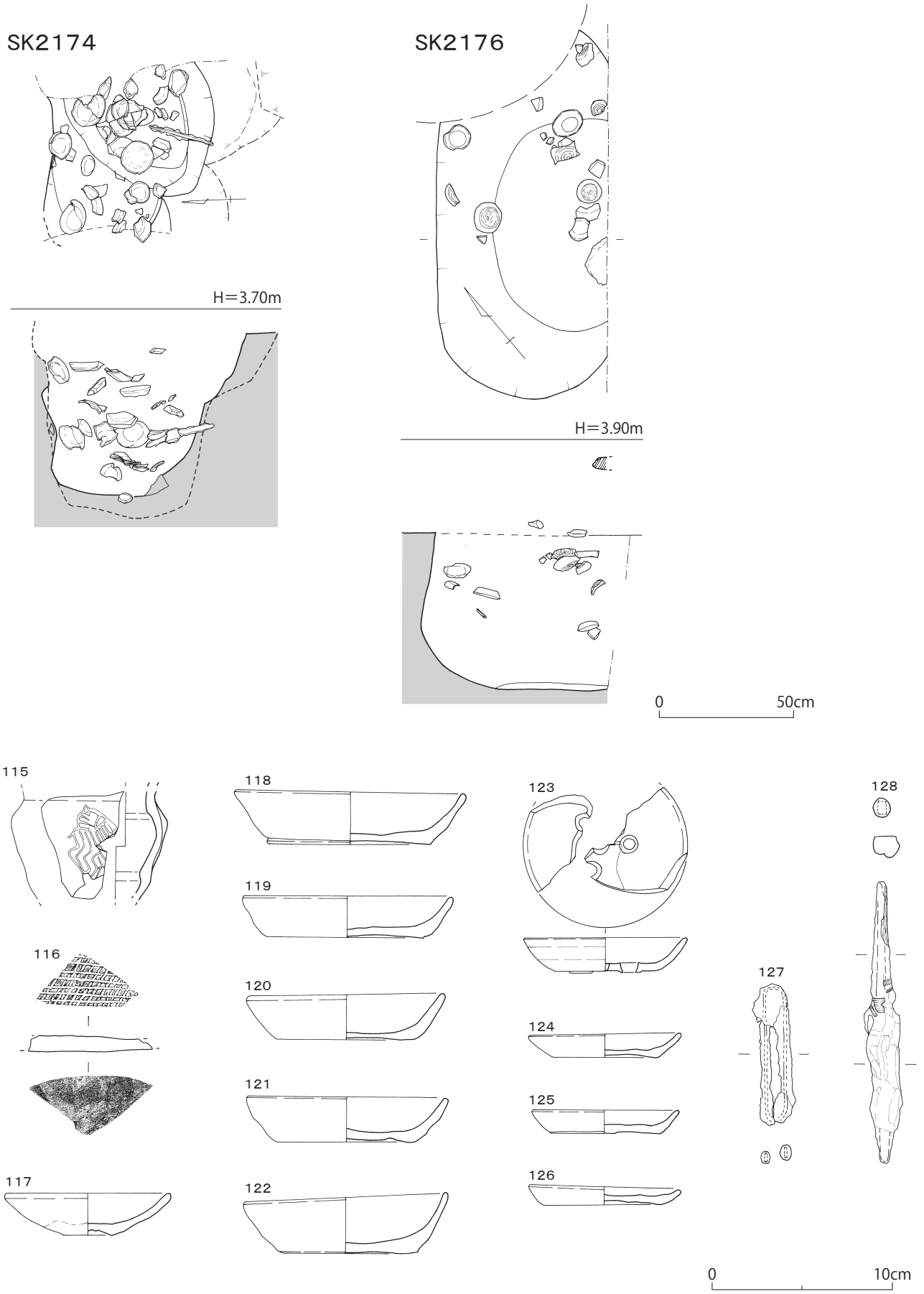
SK1055（第 19 図）　調査区中央から南東寄りに位置し SE1009 に切られる。平面形は不整円形を呈す。径 1.4 m、深さ 52 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。近世後半頃と考えられる。

SK1071（第 19 図）　SK1055 に切られる。平面形は楕円形で主軸は N-60°-E を測る。長径は推定 2 m、短径 173 ㎝、深さ 50 ㎝を測る。断面は逆台形を呈し、底面に礫が張り付いた状態で出土した。時期不明である。

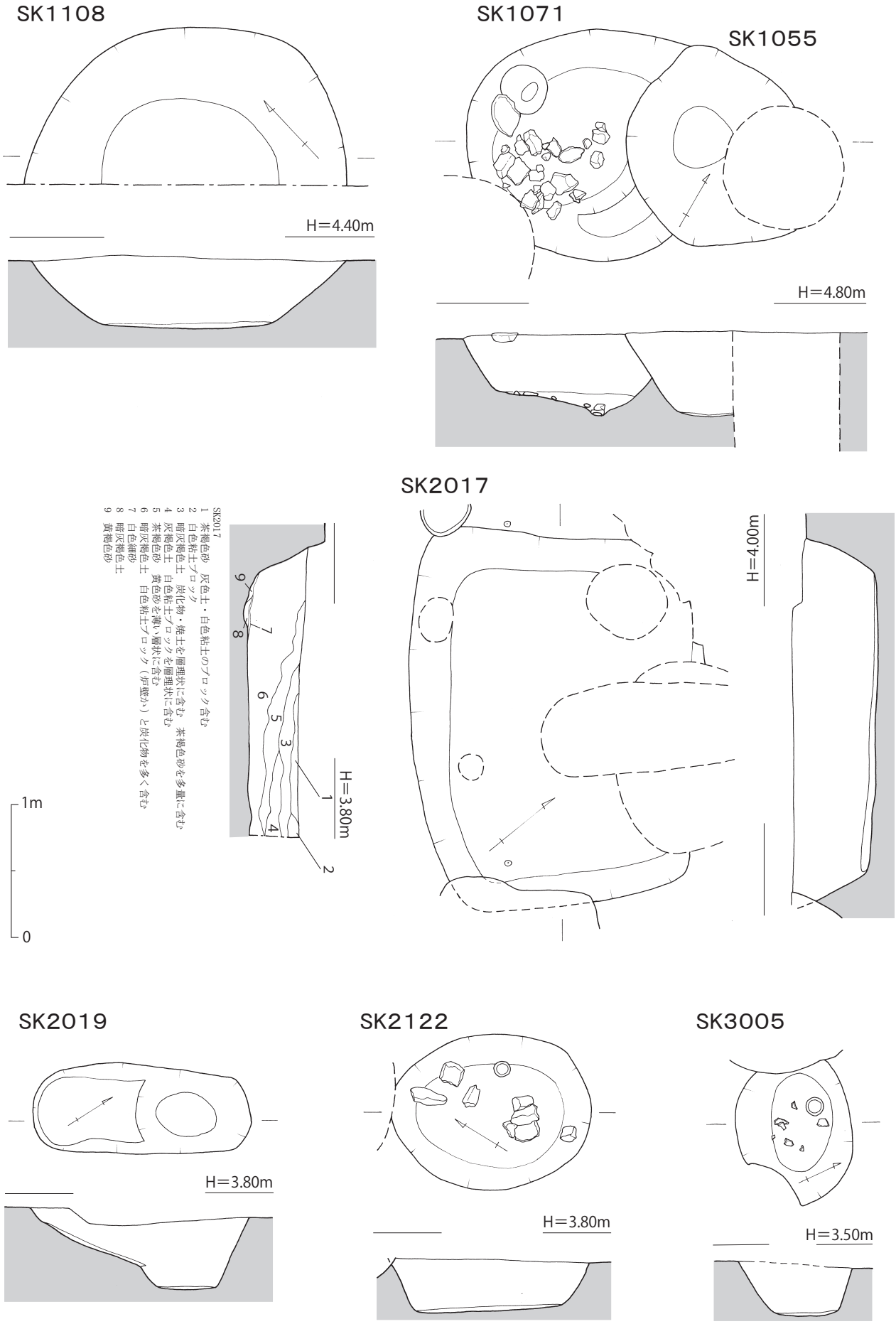
SK1108（第 19 図）　調査区西隅に位置する。遺構の西半が調査区外に延びる。平面形は円形に近く径 2.35 m、深さ 53 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。13 世紀後半頃と考えられる。

SK2017（第 19 図）　調査区南隅に位置し SK2019、2164 に切られる。平面形は長方形を呈し主軸は N-50°-W を測る。長径 281 ㎝、短径 208 ㎝、深さ 63 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。半地下式竪穴住居もしくは倉庫か。13 世紀末から 14 世紀前半と考えられる。

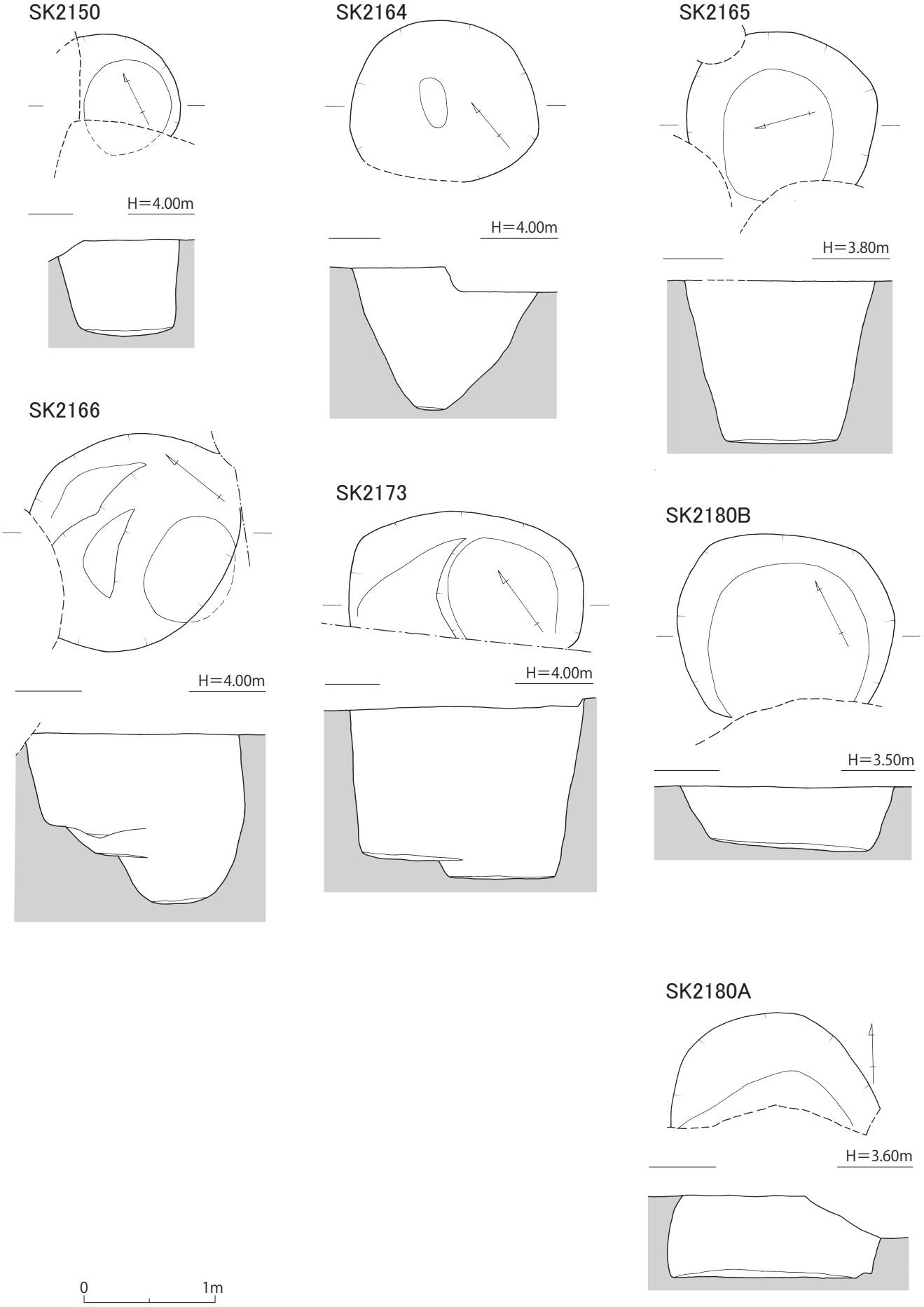
SK2019（第 19 図）　調査区南隅に位置し、SK2017 を切る。平面形は楕円形を呈し主軸



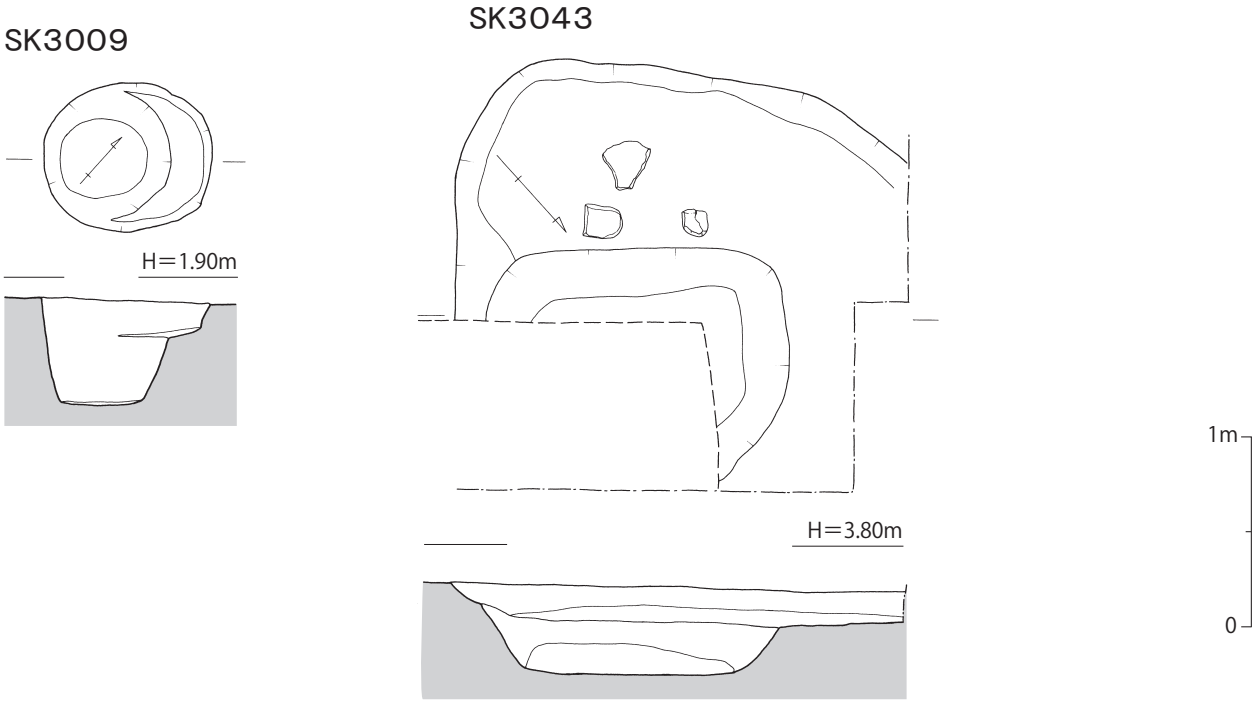
第 18 図　Ⅰ区土坑実測図 5(1/20)・遺物実測図 4(1/3)



第 19 図　Ⅰ区土坑実測図 6(1/40)



第 20 図　Ⅰ区土坑実測図 7(1/40)



第 21 図　Ⅰ区土坑実測図 8(1/40)

はN-32°-Eを測る。長径163㎝、短径65㎝、深さ62㎝を測る。底面は北側が深く、南側は斜面である。古代末から中世初頭と考えられる。

SK2122（第19図）　調査区北隅に位置する。平面形は楕円形を呈し主軸はN-32°-Wを測る。長径148㎝、短径116㎝、深さ41㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。中世と考えられる。

SK2150（第19図）　調査区南隅に位置し、SK2003・2017に切られる。平面形は円形と推定され、現状で東西76㎝、南北91㎝、深さ71㎝を測る。断面は箱形を呈す。13世紀中頃から14世紀初頭と考えられる。

SK2164（第20図）　調査区南隅に位置し、2019に切られる。平面形は円形に近く、長径152㎝、短径123㎝、深さ107㎝を測る。断面はV字を呈す。遺物は出土していない。

SK2165（第20図）　調査区南隅に位置し、SK2164に切られる。平面形は円形に近く長径155㎝、短径143ｍ、深さ123㎝を測る。断面は逆台形を呈す。

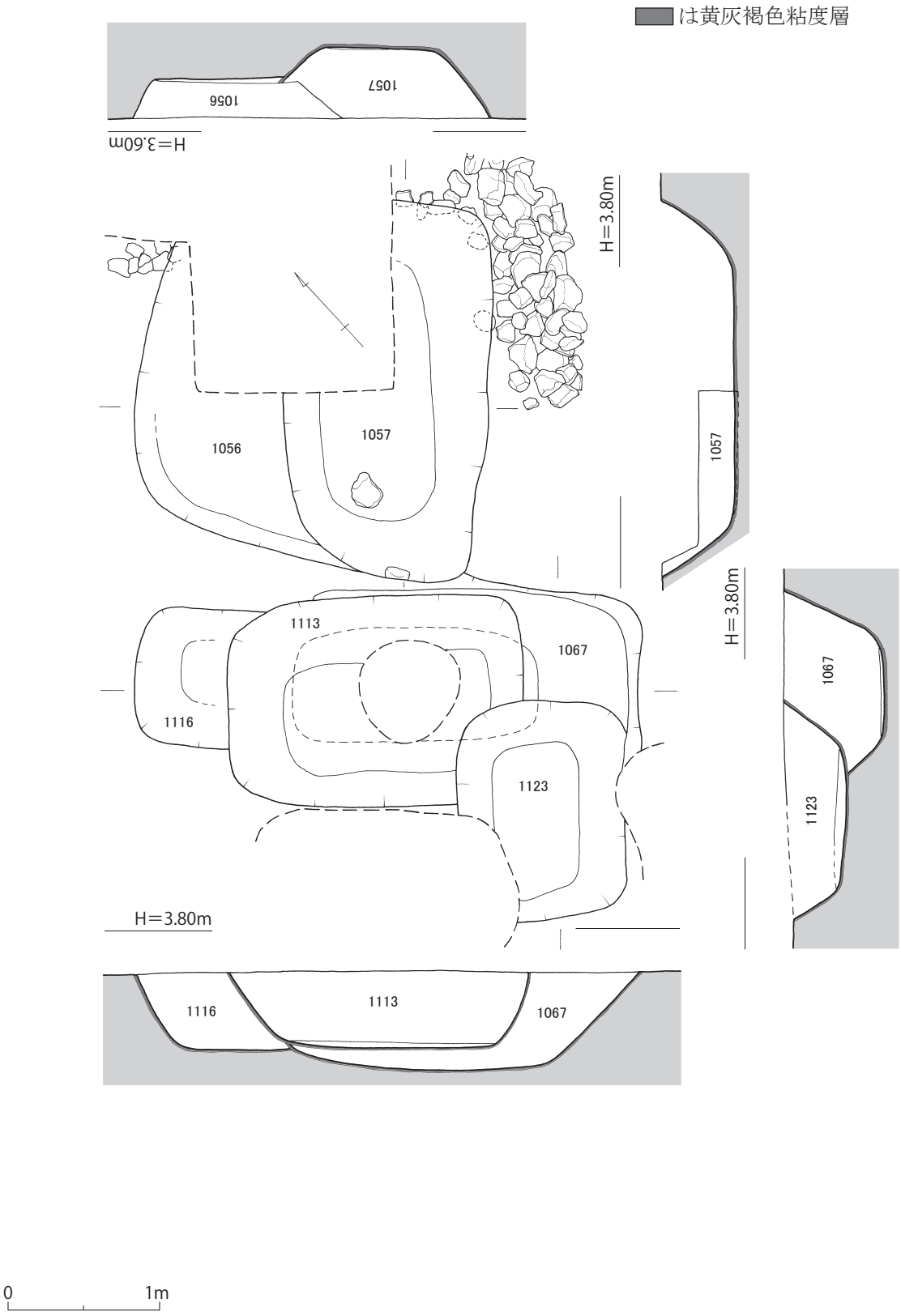
SK2166（第20図）　調査区南東端に位置しSK2165に切られる。平面形は円形に近く南北153㎝、東西180㎝、深さ126㎝を測る。断面は北側に2ヶ所テラス状の平坦面がつく。上層で土師皿が出土した。12世紀末から13世紀と考えられる。

SK2173（第20図）　調査区西隅に位置し、遺構の西半が調査区外に延びる。平面形は楕円形を呈し主軸はN-54°-Wを測る。長径174㎝、検出面からの深さ131㎝を測る。断面は箱形で西側に平坦面が付く。13世紀から14世紀頃と考えられる。

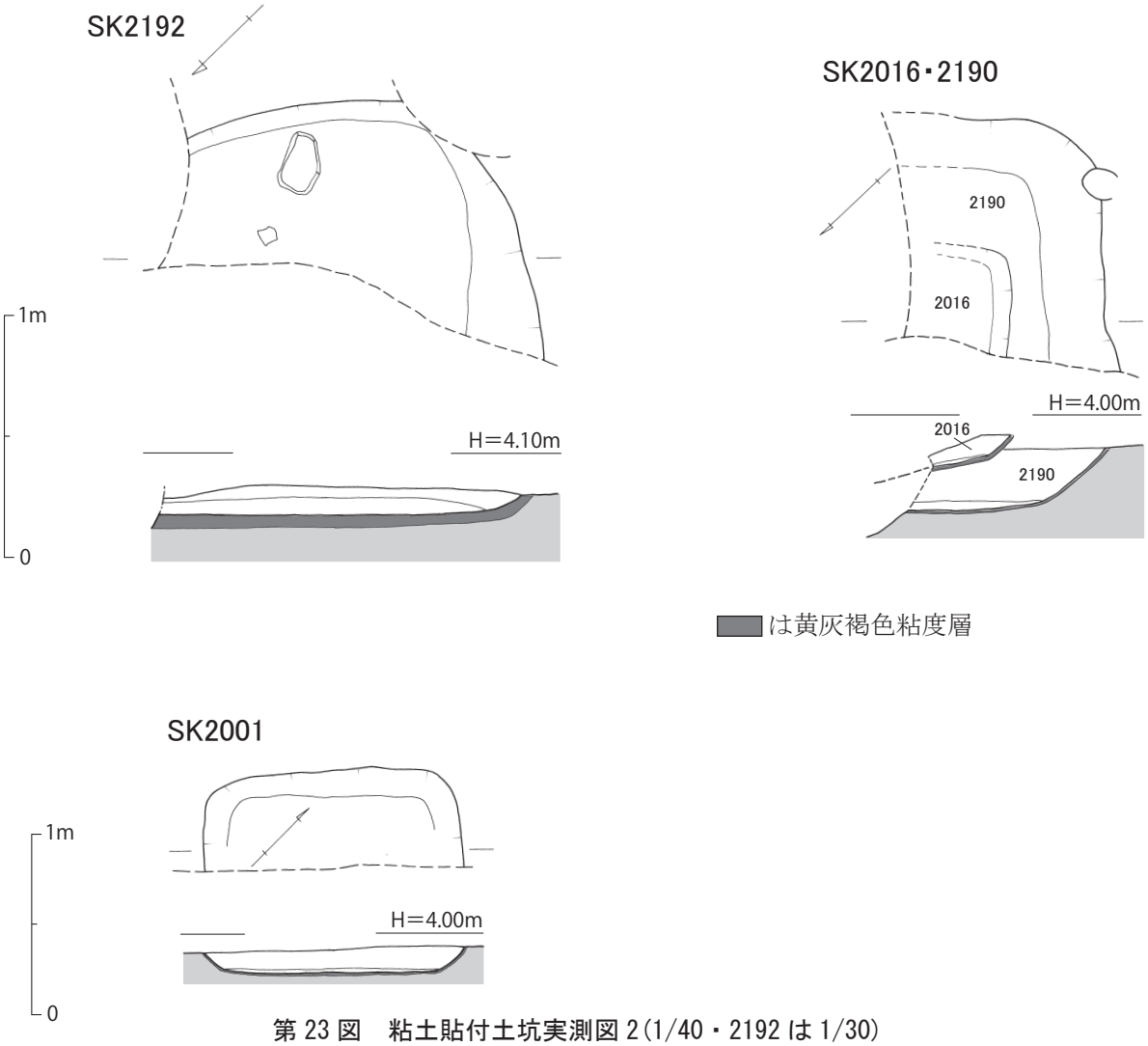
SK2180上（第20図）　調査区中央西寄りに位置し、SE1073に切られる。平面形は円形を呈し径163㎝、深さ49㎝を測る。断面は逆台形を呈す。古代末から中世初頭と考えられる。

SK2180下（第20図）　2180の下層に位置する。SE1073に削平されて規模等は不明である。遺存高62㎝を測る。2180上と同時期か。

SK3005（第19図）　調査区西端に位置しSE1073に切られる。平面形は楕円形を呈し主軸はN-65°-Wを測る。推定長径1.1ｍ、短径83㎝、深さ37㎝を測る。断面は逆台形を呈す。



第 22 図　粘土貼付土坑実測図 1(1/40)



第 23 図　粘土貼付土坑実測図 2(1/40・2192 は 1/30)

弥生時代中期の甕の破片が多く出土した。

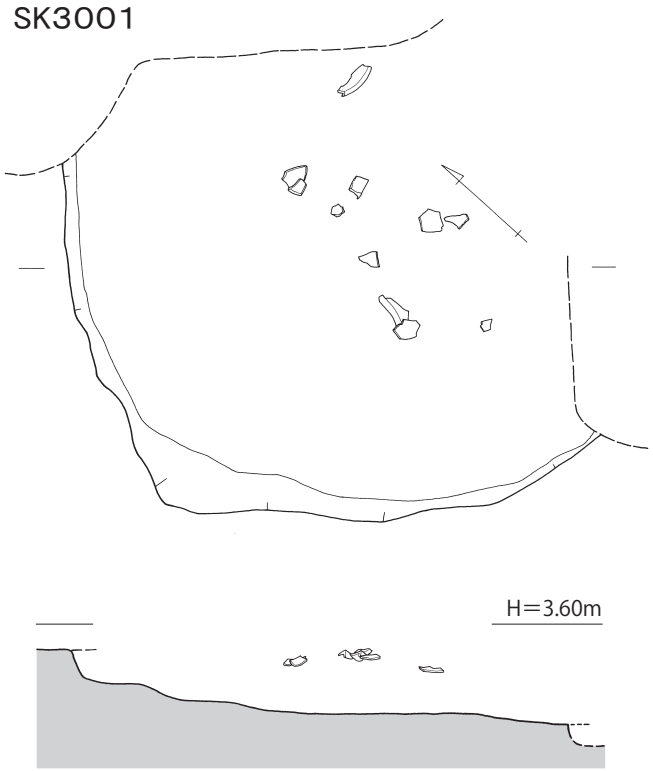
SK3009（第 21 図）　調査区中央の SX2181 底面で検出した。平面形は楕円形を呈し主軸は N-47°-E を測る。長径 88 ㎝、短径 78 ㎝、深さ 57 ㎝を測る。底面中央に礫が詰まっていた。南西側は井戸が多数存在し。3009 も井筒の可能性がある。底面標高は 1.32 ｍを測る。12 世紀後半頃と考えられる。

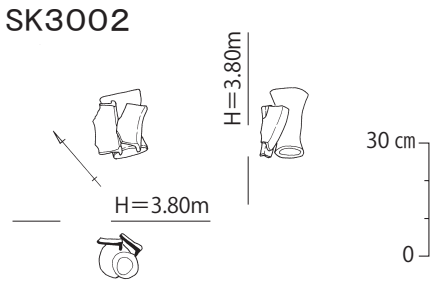
SK3043（第 21 図）　調査区の北端に位置する。2 辺が調査区外に延び、平面形等は不明である。現状で南北 236 ㎝、短径 216 ㎝、深さ 49 ㎝を測る。断面は西側にテラス状の平坦面が付く。12 世紀後半頃と考えられる。

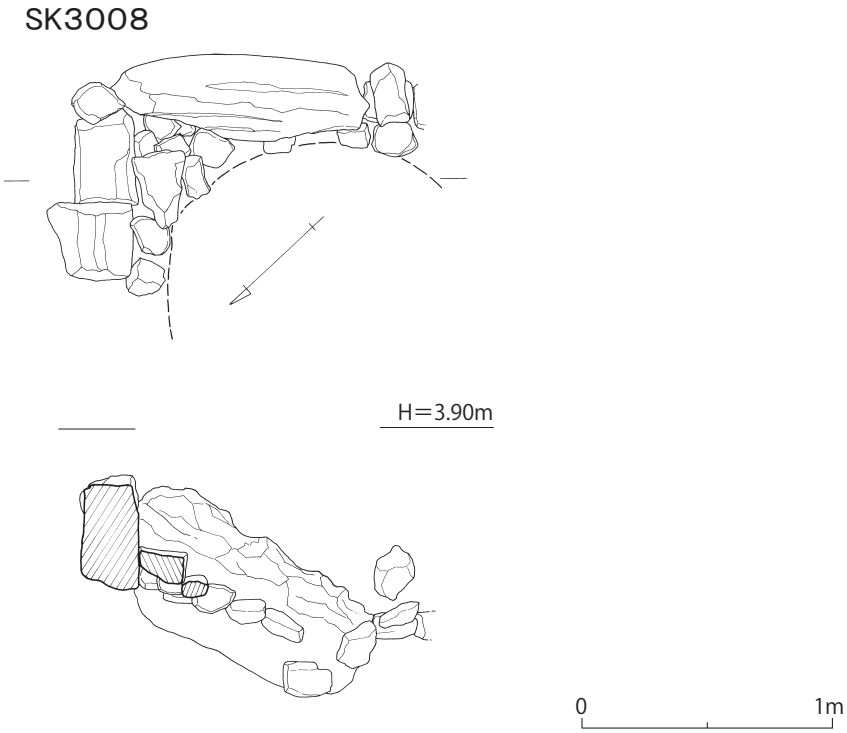
4) 粘土貼付土坑　Ⅰ区で壁面に厚さ１～２㎝の黄灰褐色粘土を貼付けた土坑を確認した。1 面東端では図 22 で報告する 6 基が集中して出土した。同じ場所で何度も作り直しており、主軸方向もほぼ同じである。図化できて報告するのは 8 基であるが、遺構検出時に他の遺構に切られた粘土壁の痕跡が多く見られ、本来はかなりの数が存在したものと思われる。

SK1057（第 22 図）　調査東端に位置する。平面形は長方形で主軸は N-43°-E を測る。長径 245 ㎝、短径 131 ㎝、深さ 46 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。16 世紀頃と考えられる。

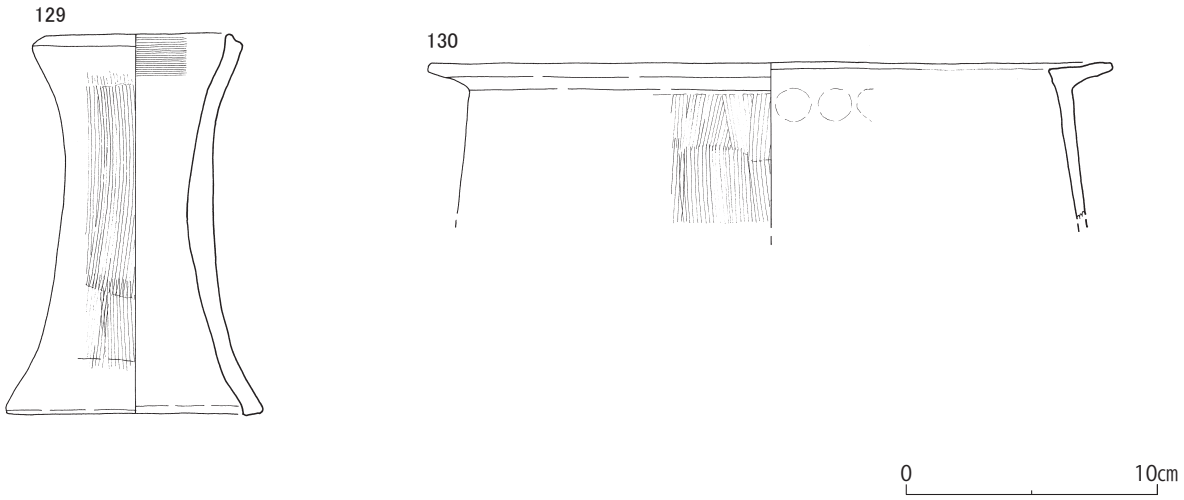
SK1067（第 22 図）　粘土貼付土坑である 1113・1123 に切られる。平面形は長方形で主軸は N-47°-W を測る。長径 256 ㎝、短径およそ 1.4 ｍ、検出面からの深さ 63 ㎝を測る。断







第 24 図　弥生～古代遺構実測図 (1/30・3002 は 1/20)



第 25 図　SK3002 出土遺物実測図 (1/3)

面は逆台形を呈す。16 世紀頃と考えられる。

SK1116（第 22 図）　1123 に切られる。平面形は長方形を呈し主軸は N-47°-W を測る。長径は不明、短径 91 ㎝、深さ 49 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。16 世紀頃と考えられる。

SK1123（第 22 図）　1113・1067 を切り基壇 B の基礎石列である 1018 に切られる。平面形は長方形で主軸は N-43°-E を測る。長径 146 ㎝、短径 107 ㎝、深さ 38 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。遺物は出土していない。

SK2001（第 23 図）　調査区東辺中央に位置する。平面形は楕円形で主軸は N-43°-E を測る。長径 142 ㎝、深さ 12 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。14 世紀前後と考えられる。

SK2016（第 23 図）　調査区中央南よりに位置し、SE2015 に切られ詳細は不明である。平面形は長方形と思われ、遺存長は 47 ㎝× 53 ㎝で深さ 16 ㎝を測る。中世と考えられる。

SK2190（第 23 図）　SK2016 の下層に位置する。平面形は長方形と思われるが、詳細は不明である。主軸は N-43°-E を測る。遺存長は 126 × 125 ㎝、深さ 31 ㎝を測る。断面は逆台形を呈す。確実に中世に降る遺物は出土していない。

SK2192（第 23 図）　SK2190 の南側に位置し 2190 に切られる。平面形は隅丸長方形と思われ、遺存長は 1.45 × 1.2 m、深さ 12 ㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。13 世紀頃と考えられる。

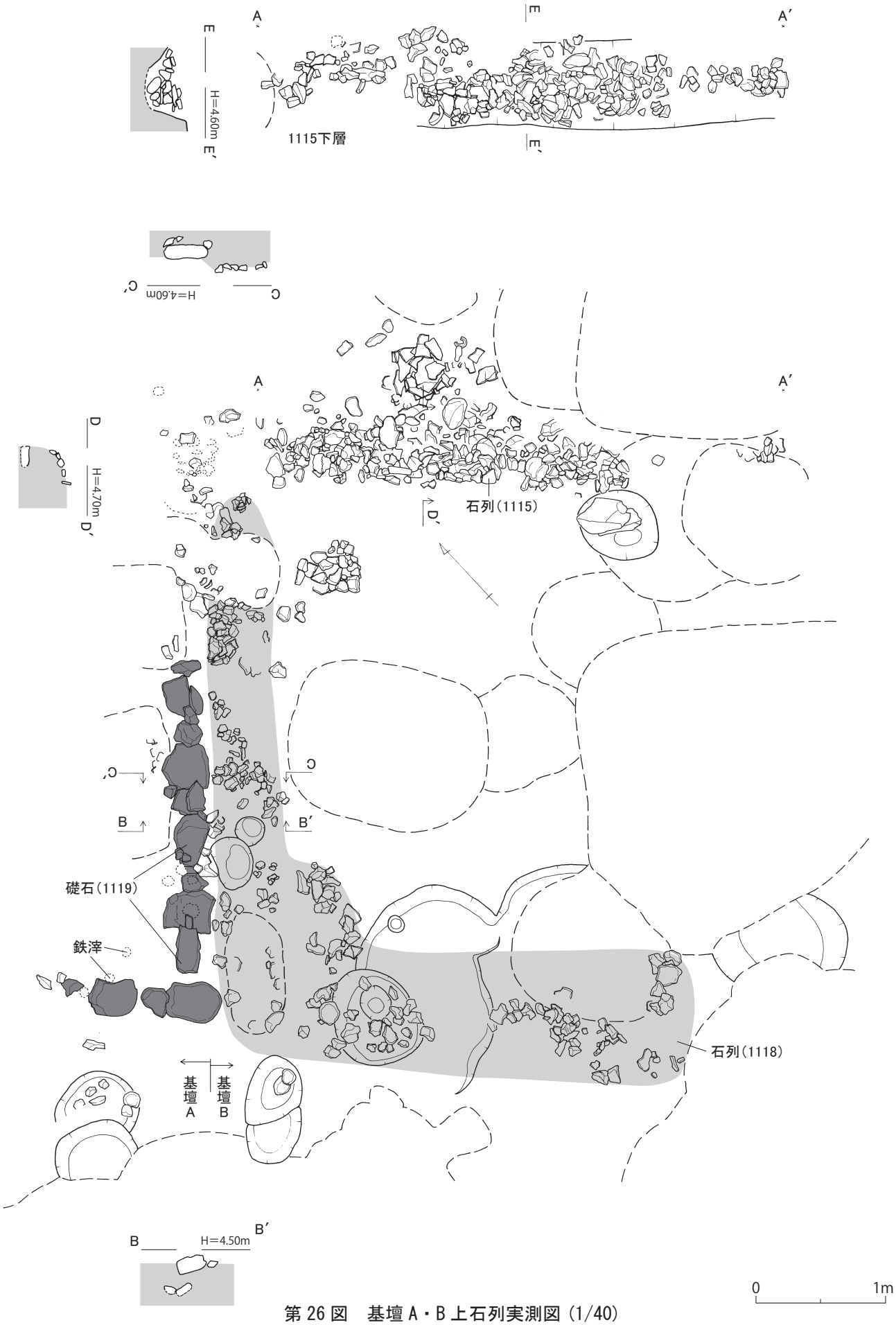
5) その他の遺構

SK3001（第 24 図）　調査区南西隅に位置し、SE1073、SK2017 に切られる。平面は円形を呈し推定径 2.5 m、深さ 28 ㎝を測る。上層で弥生時代中期の甕片が多く出土した。竪穴式住居の可能性が高いと考えられる。

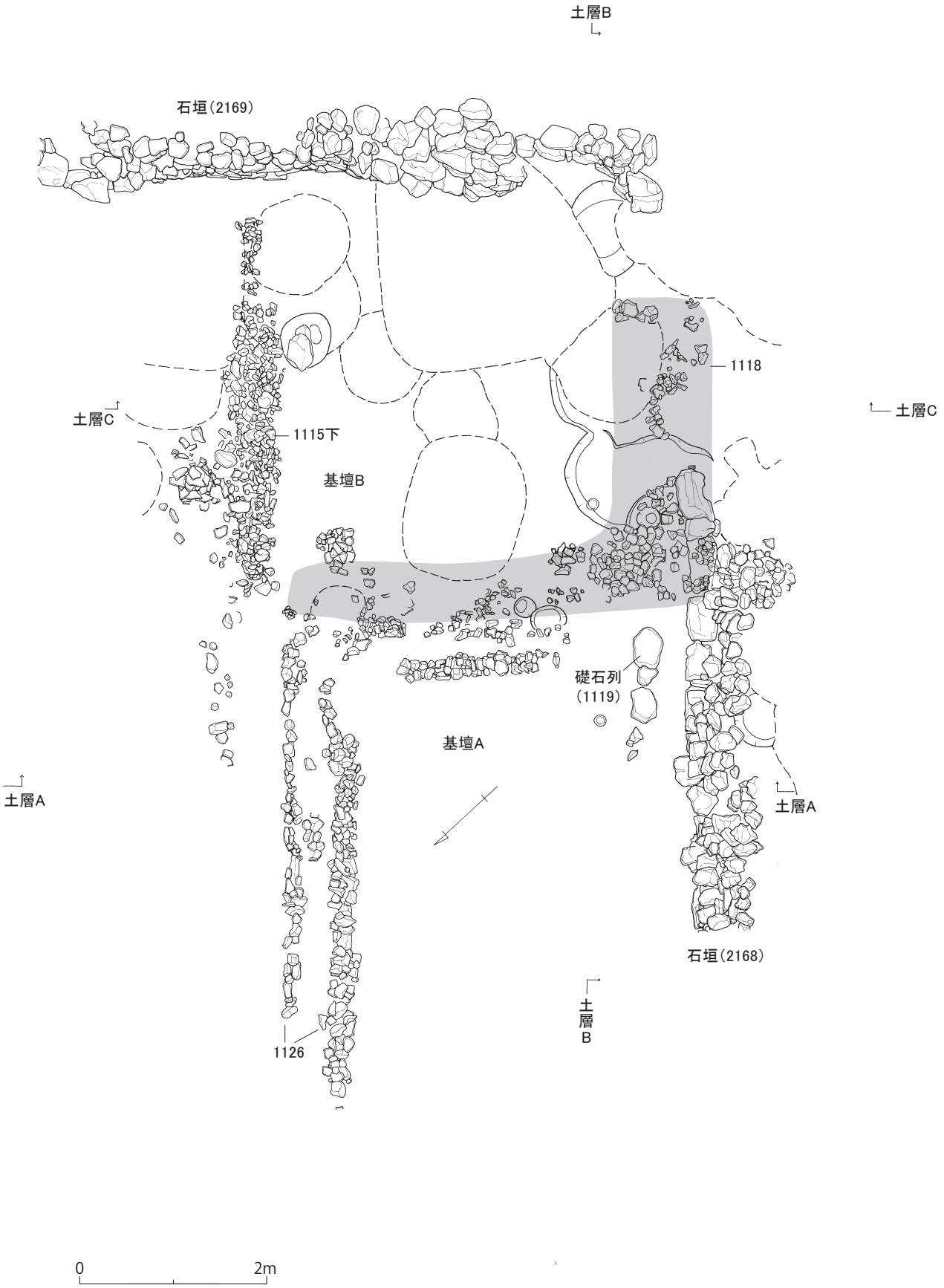
SK3002（第 24 図）　調査区南東隅に位置する。土坑群に周囲を切られ掘り込み等は不明である。器台を横たえ、上に甕の破片を被せた状態で検出した。祭祀関連遺構である。出土遺物（第 25 図 129・130）。129 は器台である。口径 8.3 ㎝、器高 15.1 ㎝を測る。

130 は甕の口縁部である。129 の器台の上を覆うように出土した。破片は 2 点で同一個体と思われるが接合しない。弥生時代中期である。

SK3008（第 24 図）　調査区南隅に位置し、遺構の南半が調査区外に延びる。西側を近代瓦組井戸に切られている。小型の石室で主軸は N-43°-E を測る。側面は 110 × 51 ㎝の板石を使用し、北側の小口には 30 ～ 40 ㎝前後の角礫を使う。底面には 10 ～ 20 ㎝の礫を敷く。底面が南側に向かって 25 ～ 30°程傾斜しているのが通常の埋葬施設とは異なる。須恵器

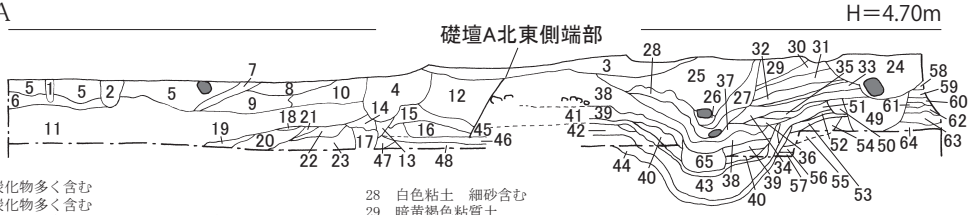


第 26 図　基壇 A・B 上石列実測図 (1/40)



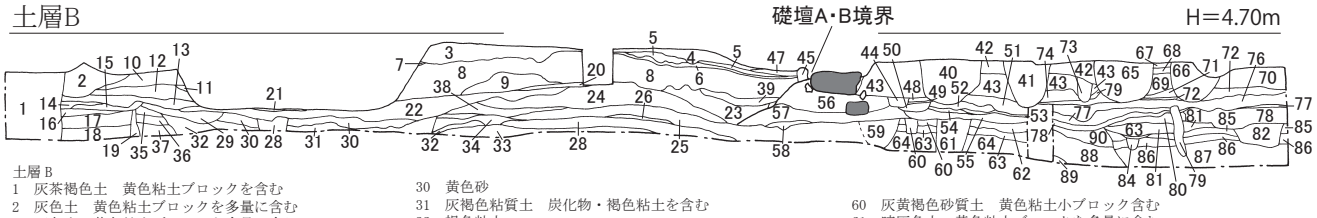
第 27 図　基壇 A・B 基礎石列実測図 (1/60)

土層A



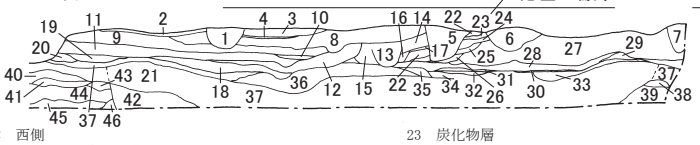
土層A
1　暗褐色土
2　灰茶褐色土
3　灰褐色土　炭化物多く含む
4　暗褐色土　炭化物多く含む
5　暗褐色土　炭化物を多量に、焼土をわずかに含む
6　黄褐色粘土
7　灰褐色土　黄色砂含む
8　暗灰褐色土　炭化物多量、焼土を少量含む
9　暗灰褐色土
10　暗灰褐色土　黄色粘土ブロック含む
11　暗褐色土　炭化物・焼土・土師皿を多く含む
12　暗灰褐色土
13　灰色土　黄色砂含む
14　灰褐色土　焼土を少量含む
15　黒褐色土
16　暗灰褐色土
17　灰褐色砂質土　焼土ブロック含む
18　黄色粘土
19　茶褐色砂
20　明褐色粘土
21　暗灰褐色土
22　灰褐色土　褐色砂含む
23　暗灰褐色土　炭化物・焼土ブロックを多量に含む
24　暗褐色土　炭化物含む
25　灰褐色粘質土　黄色粘土・炭化物を多量に含む
26　灰褐色土　炭化物含む
27　暗黄褐色粘土　黄色粘土ブロックを多く含む。炭化物含む
28　白色粘土　細砂含む
29　暗黄褐色粘質土
30　灰褐色砂質土
31　黄褐色粘土　粗砂多く含む
32　暗灰褐色砂質土　粗砂多く含む
33　黄色粘質土　粗砂多く含む
34　暗灰褐色砂質土　黄色粘土含む
35　明褐色粗砂
36　黄色粘土
37　灰褐色砂質土　黄色粘土・炭化物を多く含む
38　黄褐色粘土　粗砂多く含む
39　灰褐色砂質土　黄色粘土・炭化物を多く含む
40　黄褐色粘土　粗砂多く含む
41　黄色粘土　炭化物少量含む
42　黄色粘土　黄色砂小量含む
43　黄褐色砂
44　暗褐色土　炭化物小片多く含む
45　暗灰褐色土
46　黒褐色土　炭化物小量含む
47　暗灰褐色土　褐色粘土ブロック含む
48　暗灰褐色土　炭化物・焼土ブロックを多量に含む
49　暗黄色粘土　炭化物を小量含む
50　暗黄色粘土　炭化物小片・焼土含む
51　灰黄褐色粘質土
52　黄色粘土
53　灰色砂質土
54　暗黄色粘土
55　暗黄色粘土
56　暗褐色土
57　暗褐色土
58　暗黄色粘土　灰褐色土を多く含む
59　灰色砂質土　炭化物小片多く含む
60　暗灰色粘土　焼土粒・炭化物粉を層理状に含む
61　黄色粘土
62　暗黄色粘土　灰色土を多く含む
63　黄色粘土
64　暗灰色粘土
64　暗黄褐色土　黄色粘土ブロック・炭化物・焼土を含む

土層B



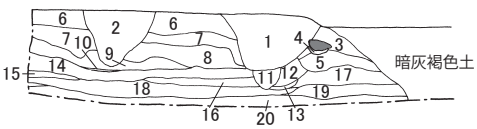
土層B
1　灰茶褐色土　黄色粘土ブロックを含む
2　灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
3　灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
4　灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
5　茶褐色砂
6　褐色粗砂
7　黄色粘土
8　茶褐色砂　灰色砂質土を含む
9　黄色砂
10　茶褐色砂　基壇B盛土
11　暗褐色砂質土
12　黄白色粘土
13　灰褐色砂質土　黄色粘土と炭化物を小量含む
14　黄色粘土　焼土ブロックを含む
15　茶褐色砂
16　灰色砂質土
17　淡褐色砂質土
18　灰色砂質土
19　黄褐色土
20　炭化物層
21　黄白色粘土
22　灰色砂質土　黄色粘土ブロック・粗砂を多量に含む
　　炭化物小量含む
23　灰色土　炭化物多く含む
24　淡褐色砂　1～2㎝の小礫を含む
25　灰褐色砂質土
26　黄白色細砂
27　黄色砂
28　灰色砂質土　黄色粘土ブロック・炭化物を層理状に含む
29　灰茶褐色砂質土
30　黄色砂
31　灰褐色粘質土　炭化物・褐色粘土を含む
32　褐色粘土
33　灰褐色砂質土
34　灰色砂質土
35　淡褐色砂
36　黄白色細砂
37　灰褐色砂質土
38　灰色砂質土　炭化物・黄色粘土ブロックを多量に含む
39　暗灰色砂質土　炭化物を薄い層状に含む。焼土ブロック含む
40　灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
41　灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
42　灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
43　淡明褐色粘土　炭化物を小量含む
44　灰褐色砂質土　黄色粘土ブロックを多く含む
45　黄褐色粘土　粗砂を多く含む
46　灰褐色砂質土　黄色粘土ブロックを多く含む
47　黄褐色粘土　粗砂多く含む
48　暗黄褐色土
49　褐色粗砂
50　黄色粘土
51　暗灰褐色土
52　黄白色粘土
53　茶褐色砂
54　褐色粘土
55　黒褐色砂質土　炭化物小片含む
56　淡明褐色粘土
57　暗褐色土　黄色粘土・炭化物を小量含む
58　明褐色粘土
59　明褐色砂質土　炭化物小片含む
60　灰黄褐色砂質土　黄色粘土小ブロック含む
61　暗灰色土　黄色粘土ブロックを多量に含む
62　灰色砂質土　黄色粘土ブロックを層理状に含む
63　黄色粘土
64　暗褐色砂質土
65　暗灰色粘土
66　暗灰色粘土
67　灰黄褐色砂質土　黄色粘土ブロックを含む
68　灰褐色砂質土
69　黄白色粘土
70　灰黄褐色砂質土　黄色粘土ブロック・粗砂を多量に含む
71　灰黄褐色砂質土　黄色粘土ブロックを多量に含む
72　黄白色粘土
73　褐色土
74　灰黄褐色砂質土　黄色粘土ブロックを多く含む
75　淡明褐色粘土　粗砂多く含む
76　暗灰黄褐色砂質土　黄色粘土ブロック・炭化物を多く含む
　　土師皿片を多く含む
77　明褐色粗砂
78　暗黄褐色粘質土
79　白色粗砂
80　黄色砂
81　暗灰色土　黄色粘土ブロックを層理状に含む
82　灰黄褐色土　黄色粘土ブロックを多く含む
83　焼土層
84　灰褐色土
85　灰褐色砂質土　炭化物小片を小量含む
86　黄白色粘土
87　暗灰色土　明褐色粘土を層理状に含む
88　暗灰色土
89　暗灰色土
90　灰黄褐色粘質土

土層C西側



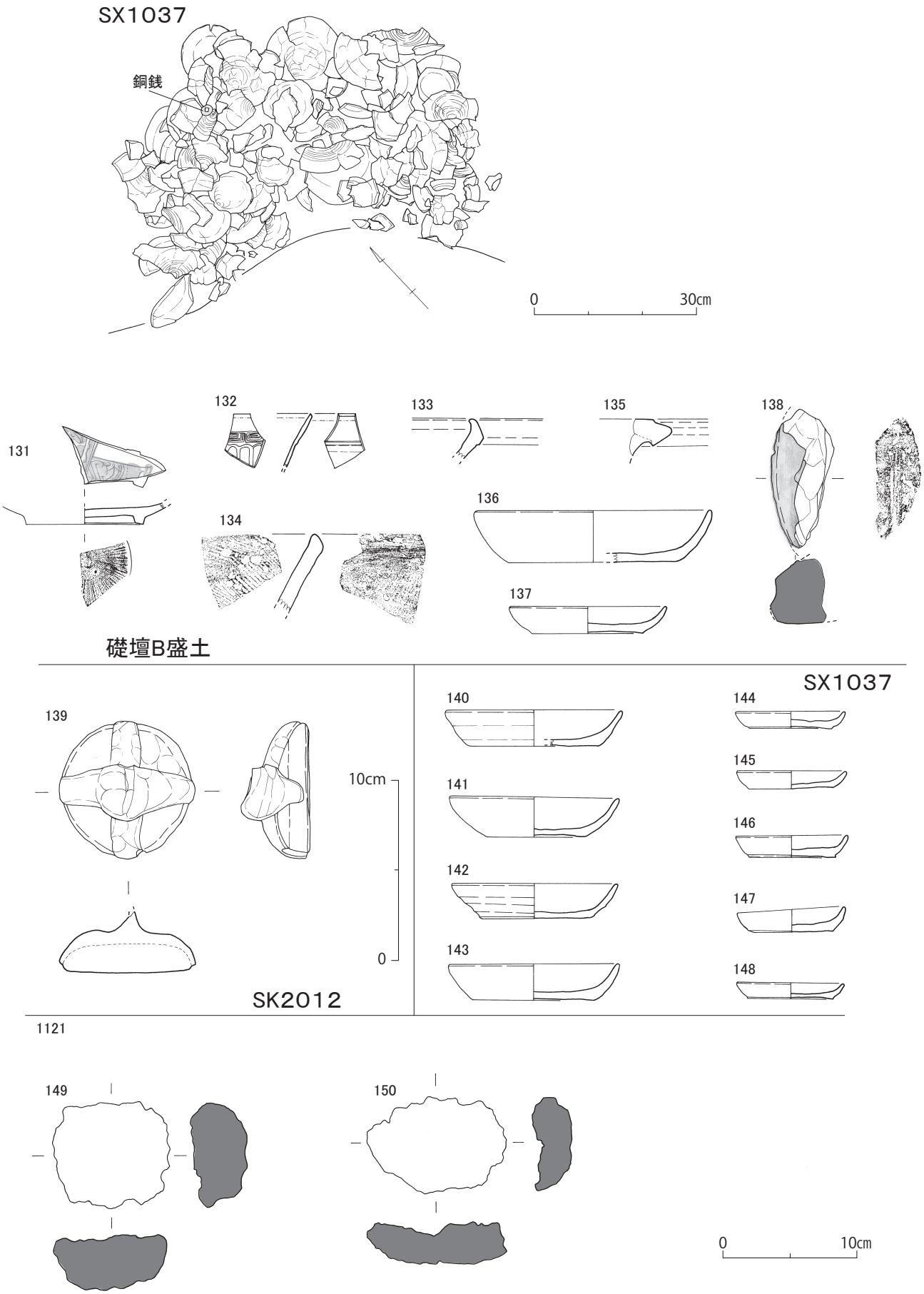
土層C　西側
1　灰色土　粗砂を多量に含む
2　暗褐色砂
3　黄白色粘土　粗砂多く含む
4　炭化物層
5　灰褐色砂質土　黄褐色粘土ブロックを多く含む
6　黄褐色粘土小ブロックを多量に含む
7　黄褐色粘土小ブロックを多量に含む
8　黄白色粘土　粗砂を多く含む
9　灰色粗砂
10　灰色粘土
11　暗灰砂質土
12　黄白色細砂
13　灰色砂質土　黄色粘土ブロック含む
14　灰色砂質土
15　灰色砂質土　炭化物含む
16　灰色砂質土
17　白色粘土
18　灰色砂質土　焼土ブロック・炭化ブルを小量含む
19　茶褐色粘質土
20　暗灰色砂質土
21　黄褐色粘土
22　赤褐色土　焼土ブロック多く含む　火事後の整地層か
23　炭化物層
24　茶色砂層　基壇盛土
25　灰色粗砂層 26　茶褐色砂質土
27　茶褐色砂　基壇盛土
28　黒褐色土　炭化物を多量に含む
29　灰色砂　炭化物含む
30　細かな炭化物層
31　白色粘土
32　褐色砂質土　白色粘土を多く含む
33　黄白色粘土
34　灰色砂質土
35　黄白色粘土
36　暗灰色砂質土　焼土ブロック・炭化物を小量含む
37　暗灰色砂質土
38　炭化物層　焼土ブロック・黄褐色粘土ブロックを多く含む
39　暗灰色砂質土
40　白色細砂
41　灰色砂質土
42　灰白色細砂
43　灰色砂質土　小礫含む
44　暗灰色土　炭化物を小量含む
45　白色細砂
46　灰色砂質土

東側



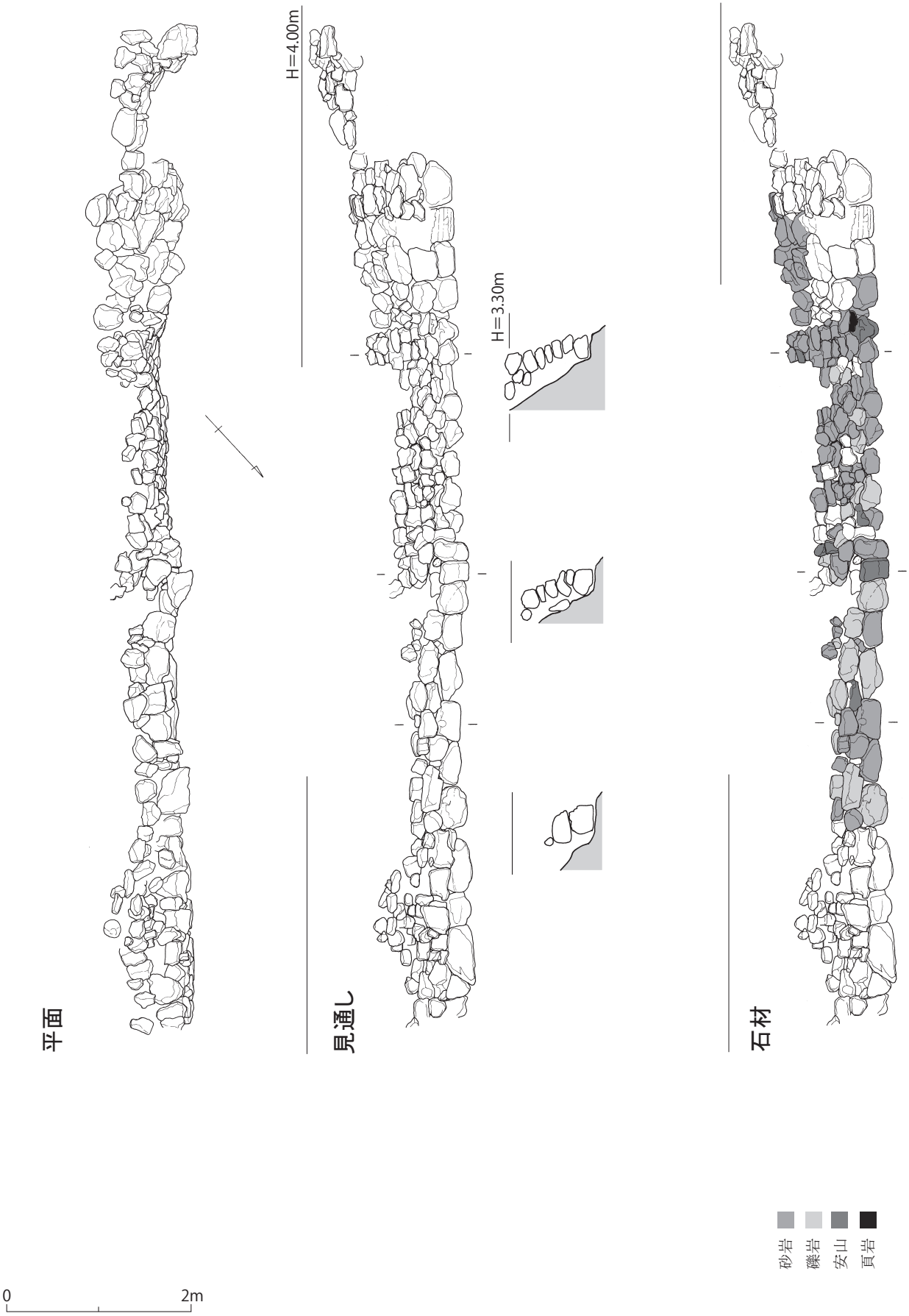
土層C　東側
1　礫がぎっしり詰まる
2　褐色土
3　暗黄褐色粘質土
4　茶褐色土
5　黄褐色粘質土
6　黄褐色粘質土　粗砂多く含む
7　褐色粗砂
8　茶色砂
9　黄色砂
10　炭化物
11　暗灰褐色　焼土含む
12　黒褐色土　焼土粒含む
13　焼土面
14　暗灰褐色土　炭化物小片含む
15　黄色砂
16　暗灰褐色土　土師皿片・炭化物を多く含む
17　暗灰褐色粘質土　黄色粘土ブロック多く含む
18　暗灰褐色粘質土　褐色粘土を薄い層状に含む
19　暗灰褐色粘質土　黄色粘土ブロックを多く含む
20　暗褐色土　炭化物小片含む

第28図　基壇A・B土層実測図（1/60）



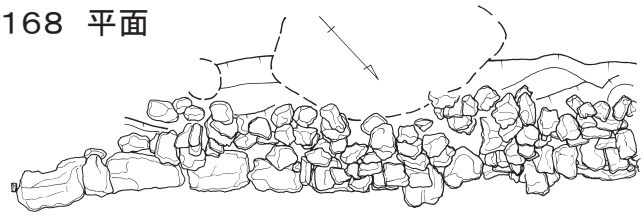
第 29 図　SK1037(1/10)・基壇出土遺物実測図 (1/3・1/4)

2169

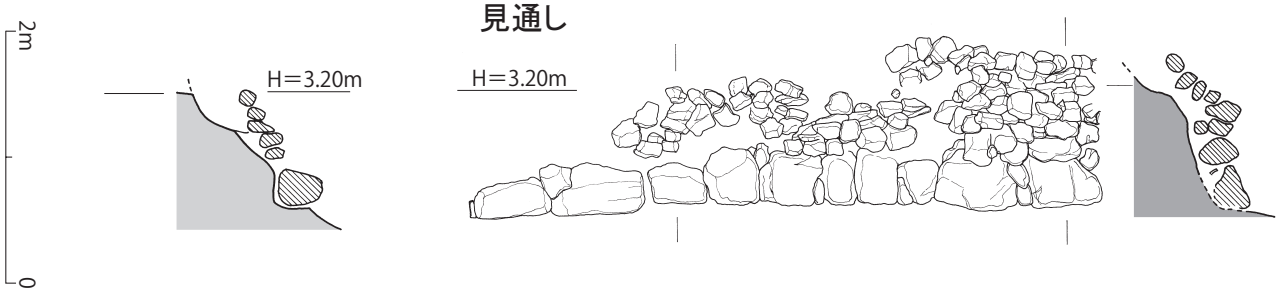


第 30 図　石組み (SW2169) 実測図 (1/60)

2168 平面

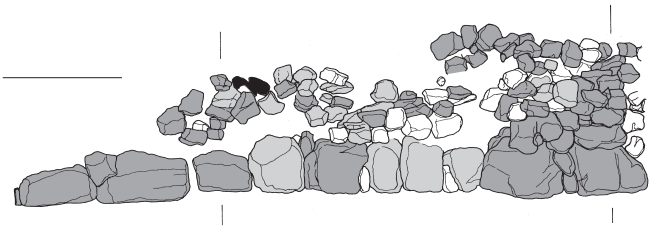


見通し



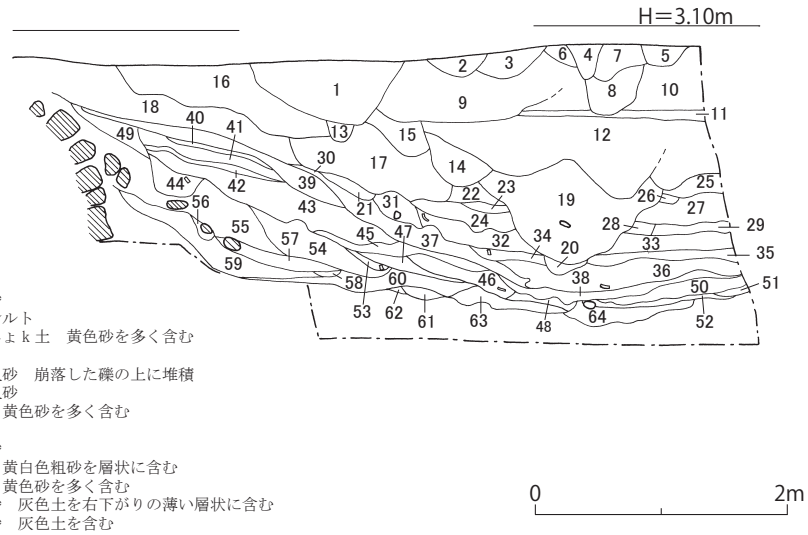
砂岩
礫岩
頁岩

石材



SX2181
1　黒色粘質土
2　暗褐色土
3　暗褐色土
4　暗褐色土
5　暗褐色土
6　暗褐色土
7　暗褐色土
8　黒褐色粘質土
9　黒褐色粘質土
10　黒褐色粘質土
11　黒褐色粘質土　黄褐色粘土ブロック含む
12　黒褐色粘質土　黄褐色粘土ブロックを僅かに含む
13　黒褐色粘質土と茶褐色土の混じり
14　茶褐色砂質土
15　黒褐色粘質土　黄褐色粘土を僅かに含む
16　黒褐色砂質土
17　黒褐色砂質土
18　茶褐色砂質土
19　茶褐色砂質土
20　茶褐色粗砂
21　茶褐色砂質土と黒褐色粘質土の混じり
22　黒褐色砂質土
23　黒褐色砂質土
24　黒褐色砂質土と茶褐色砂質土の混じり
25　黒褐色粘質土と黒褐色砂質土の混じり
26　黒褐色砂質土
27　黒褐色砂質土
28　茶褐色砂質土
29　茶褐色砂質土と黄褐色砂の混じり
30　黒褐色砂質土と黄褐色砂の混じり
31　茶褐色砂質土と黄褐色砂の混じり
32　茶褐色砂質土と黄褐色砂の混じり
33　黄褐色砂
34　茶褐色砂
35　黄褐色砂
36　黄褐色砂
37　黒褐色砂質土
38　黒色粘土
39　灰褐色砂　黄色砂を層状に含む
40　灰色土
41　黄色粗砂
42　茶褐色砂
43　黄色砂と褐色砂の互層
44　褐色砂
45　黄色砂　炭化物を少量含む
46　褐色粗砂
47　黄色粗砂
48　灰色土　ドベ状
49　黄色砂
50　黄色砂　細砂と粗砂の互層
51　茶褐色砂
52　黒褐色シルト
53　配下つしょｋ土　黄色砂を多く含む
54　黄色砂
55　灰白色粗砂　崩落した礫の上に堆積
56　茶褐色粗砂
57　灰色砂　黄色砂を多く含む
58　灰色土
59　黄色細砂
60　灰色土　黄白色粗砂を層状に含む
61　灰色土　黄色砂を多く含む
62　黄色粗砂　灰色土を右下がりの薄い層状に含む
63　黄色粗砂　灰色土を含む
64　黄色粗砂

SX2181



第 31 図　石組み (SW2168)・SX2181 土層実測図 (1/60)

坏、須恵器甕等が出土した。8 世紀頃と考えられる。

SK3004・3005・3007（第 6 図）　調査区西側には黄色砂層の直上に茶褐色土層が堆積しており、そこから弥生時代中期と 8 世紀頃の遺物が多く出土した。明確な掘り込みはみられず全体に散漫に分布するが、そのうち土器が集中する 3 地点に番号をつけて取り上げた。茶褐色土は弥生～古代にかけての旧表土と思われる。

6) 基壇 A･B（4･26･27 図）　方形に盛土した基壇を 2 基確認した。

(1) 基壇 A　調査区中央から北寄りに位置する。南東辺が約 3.5 m、北東辺が 5m 以上を測る長方形の土壇で、主軸は N-47°-W を測る。薄い黄褐色粘質土と灰褐色シルトで版築状に盛土しており（第 27 図土層図）、盛土の途中で祭祀を行っている（SK1037、SK2012）。**SX1037**（第 29 図）は盛土途中の祭祀で掘方を伴わない。土師坏と皿の破片が 1 辺約 60 ㎝の方形状にまとまって出土した（第 28 図 140 ～ 148）。中に銅銭が 1 枚含まれる。また基壇の南西辺を除く大半が SX2181（池状遺構）の上に位置しており、地盤が緩いためか盛土中に石列 1126 を築き上の礎石列 1119 を支えている。

礎石列 1119（第 26 図）　長さ 25 ～ 45 ㎝の板石が L 字状に 11 枚並ぶ。建物の礎石と思われる。攪乱のため遺存しないが、1126 に沿って北東側に延びていたと思われる。礎石周辺で鉄滓が出土しており（第 26 図丸い点線は鉄滓）、製鉄関連の遺構である可能性がある。

石列 1126（第 27 図）　基壇 A の北東辺と南東辺の 2/3 程にかけて巡る 2 重の石列である。10 ～ 25 ㎝程の角礫を外側は 1 列、内側は 2 ～ 3 列に並べている。

(2) 基壇 B　基壇 A の南東辺に並ぶように位置する。規模は北西辺が 5 ～ 6 m、北東辺が 4.5 m以上と基壇 A より若干大きい。基壇 A のような礎石列はないが、1119 に沿って細かな礫が集中する石列 1118 がある。礎石を乗せるグリであろうか。盛土は基壇 A 同様に黄褐色粘質土と褐色砂質土を主とする。北東辺斜面に角礫を貼付け（石列 1115 上）、その下には基壇 A の石列 1126 と同様に盛土の基礎と思われる石列 1115 下を築いている。土層 A では基壇 A の盛土に基壇 B の盛土がのることが確認されており、基壇 B の方が新しい。基壇 B では祭祀関連の遺構は確認できなかった。基壇 B の盛土の下には焼土層や炭化物層があり（土層 C　28・29・36 層）、盛土斜面にも焼土層がのる（土層 C22 層）。基壇 A･B の北東側斜面には鉄滓が列状に多量に堆積（第 4 図 SX1125）していることや基壇 A 礎石に鉄滓が付着していたことから、これらの基壇は製鉄関連の遺構である可能性が考えられ、これらの焼土層はそれらの生産活動による廃棄物であると思われる。盛土中から第 29 図 131 ～ 138 等の遺物が出土した。

石列 1118　基壇 B の北西辺に沿う。10 ～ 20 ㎝の礫を礎石の代わりかもしくは礎石下のグリとして 40 ㎝程の幅で敷いている。攪乱でかなり石列が乱れているが、1119 に対応して 90 度曲がるようにも、そのまま南西側に延びるようにもみえる。

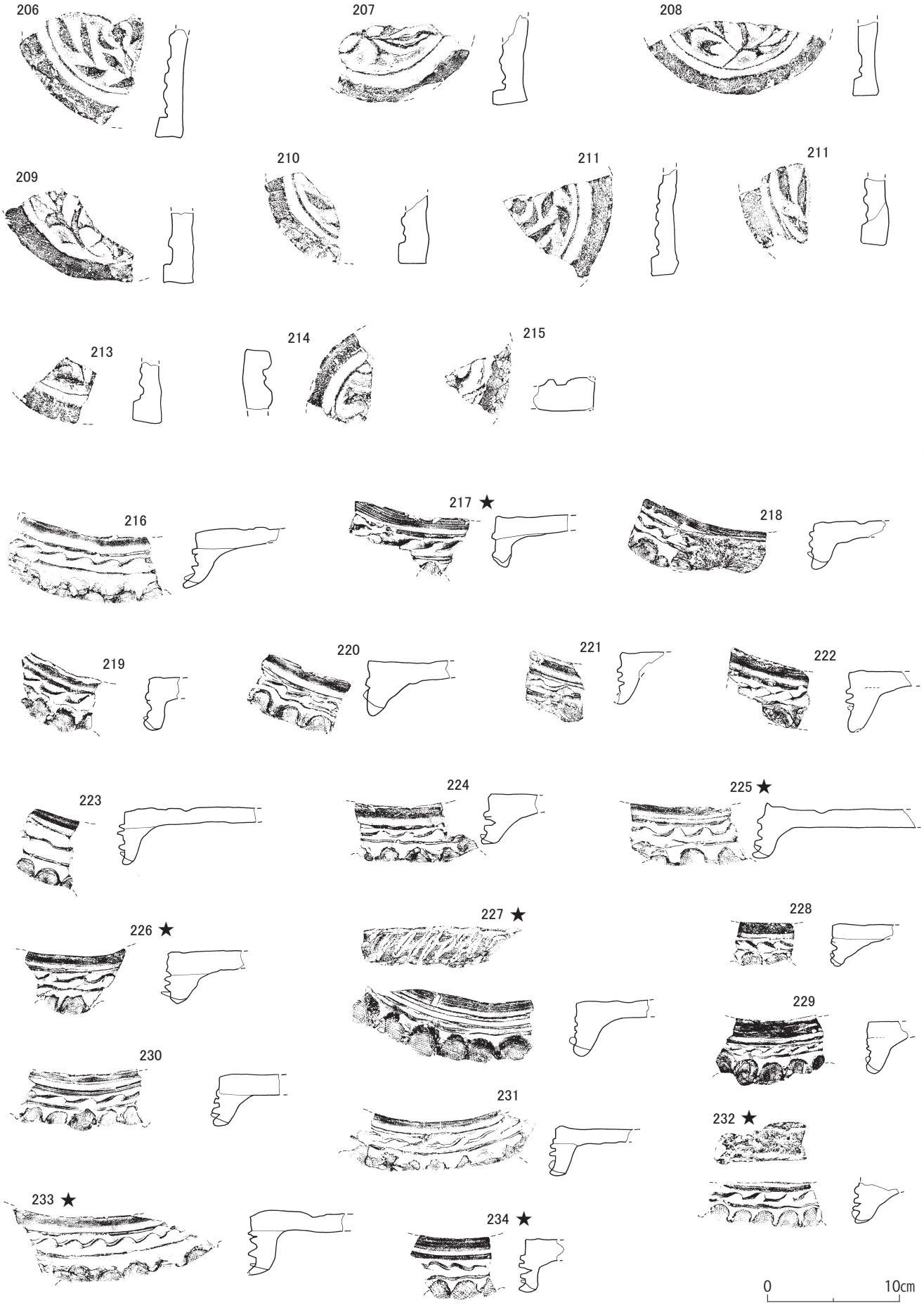
石列 1115 上　基壇 B の北東縁の盛土斜面に貼り付けた葺石で、長さ 15 ～ 30 ㎝の礫を使用する。礫直上から出土した土師坏から 14 世紀頃と考えられる。

石列 1115 下　1115 上の下から溝に礫が詰まった状態で出土した（図版 10-2）。1115 上の下端が 1115 下の上面に接する。基壇端部の崩壊を防ぐための地下構造と思われる。

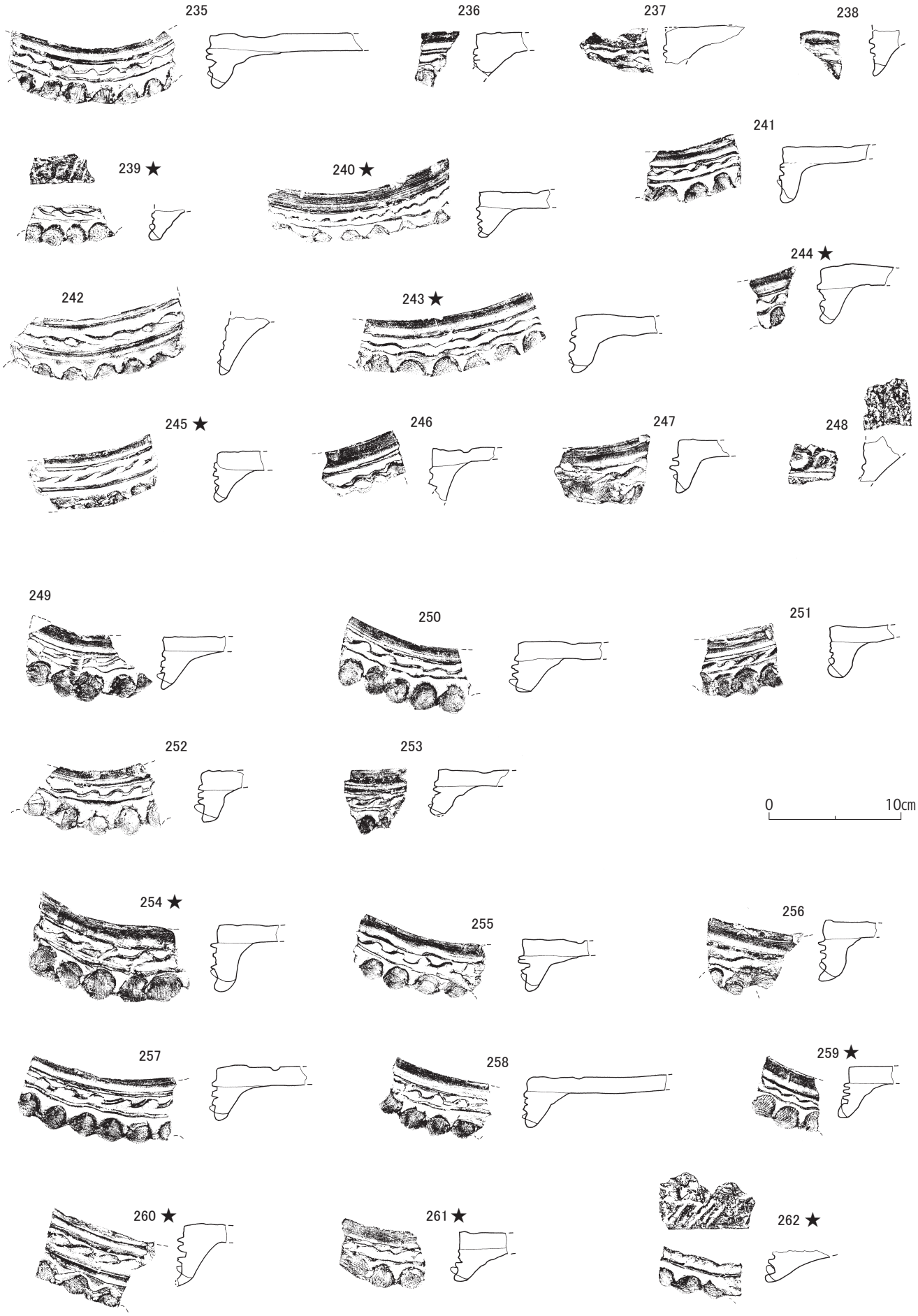
7) 石垣遺構　SX2181 の縁に築かれた石垣で調査区内で L 字状に屈曲する。コーナー部分は複数の井戸により破壊されている。石垣背面はすぐ黄色砂層になっており、砂丘をほぼ垂直に削ってその壁面に沿って石を積んでいる。使用された石は砂岩が最も多く（第 30・

第 32 図　SX2181 出土瓦実測図 1(1/4)

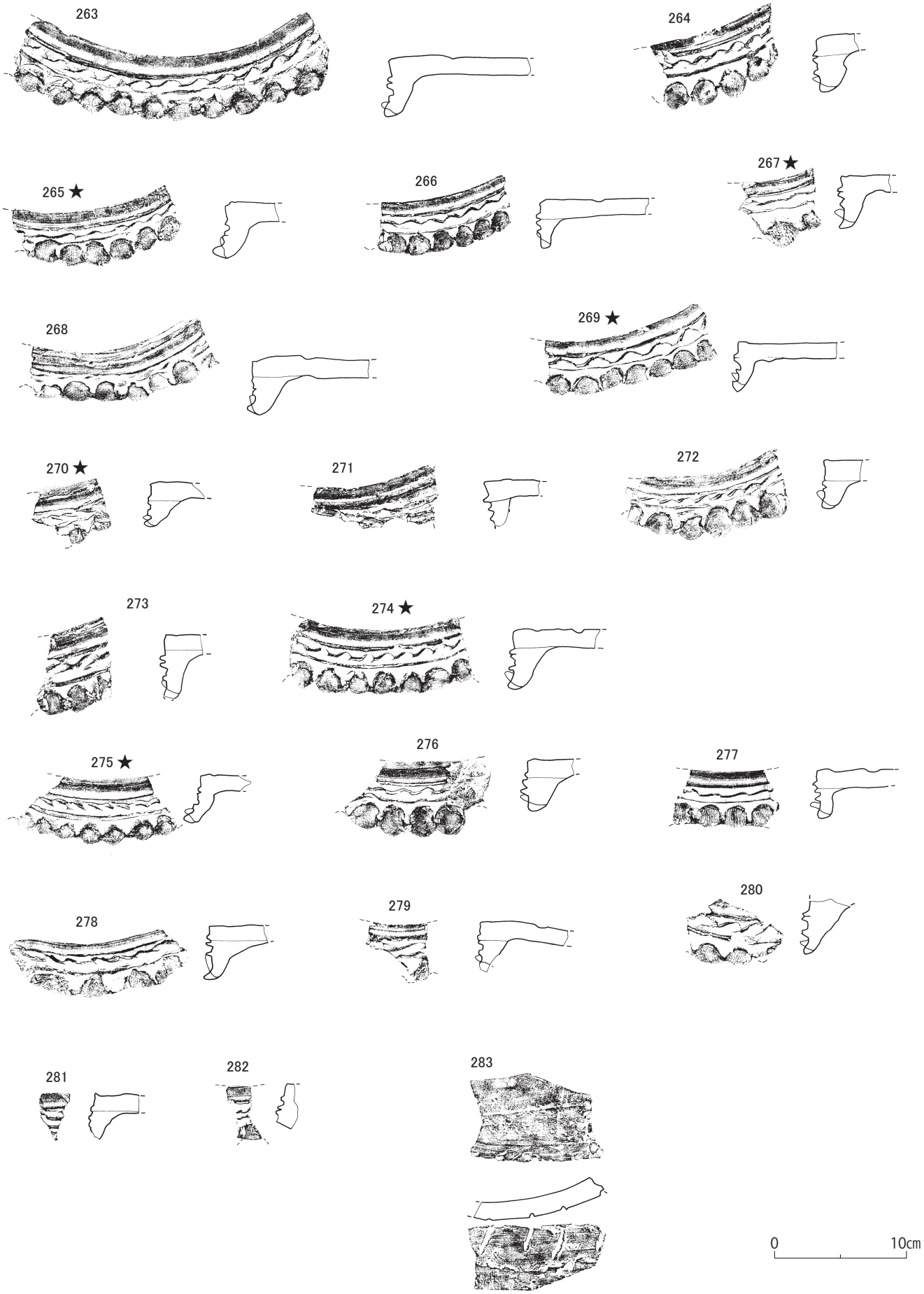
第 33 図　SX2181 出土瓦実測図 2(1/4)



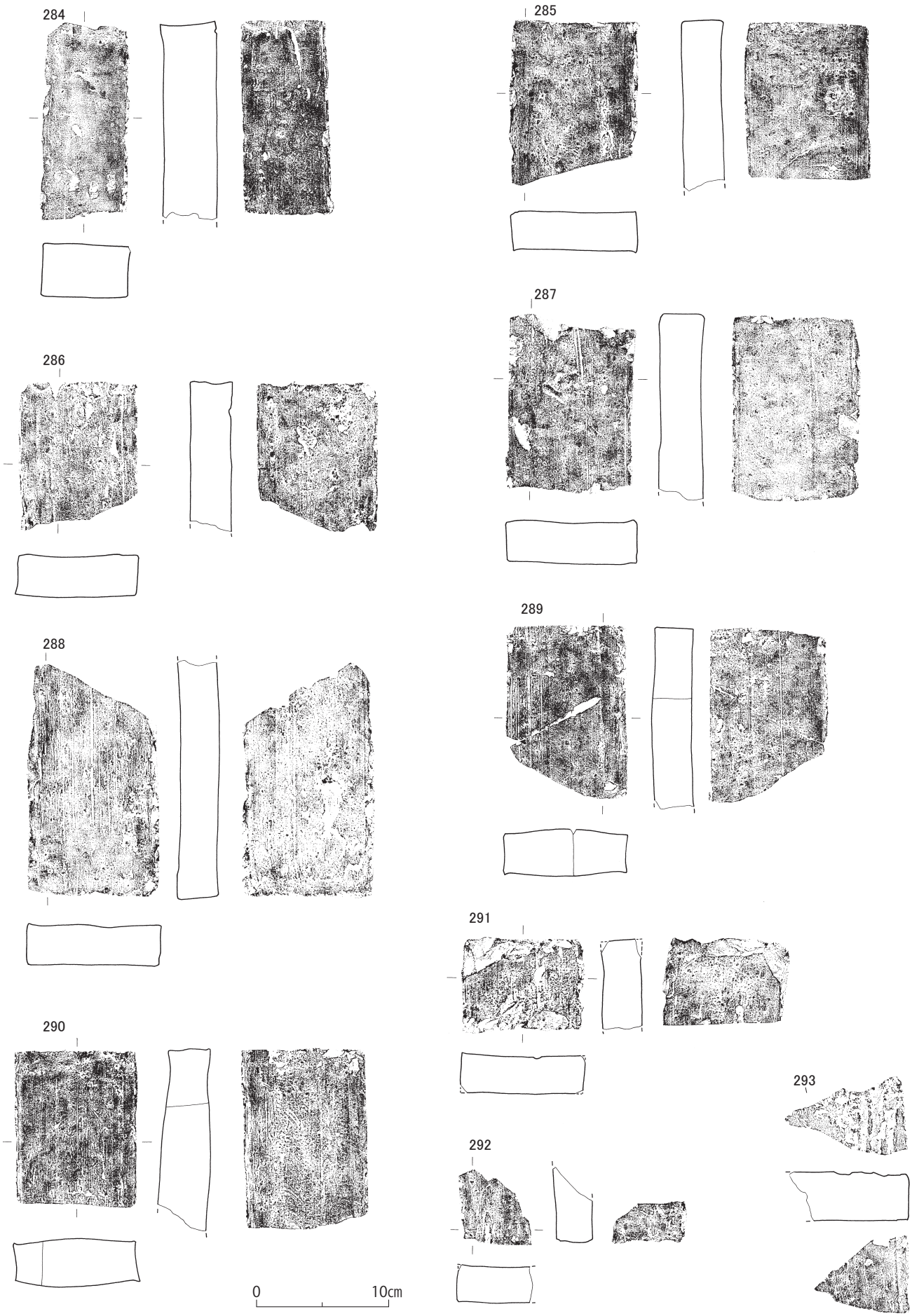
第 34 図　SX2181 出土瓦実測図 3(1/4)



第 35 図　SX2181 出土瓦実測図 4(1/4)



第 36 図　SX2181 出土瓦実測図 5(1/4)



第 37 図　SX2181 出土磚実測図 (1/4)

31 図）、礫岩も多用されている。安山岩と頁岩は数点のみである。2169 の南東側は井戸による破壊のため不安定で、石種観察の前に崩落したため不明である。

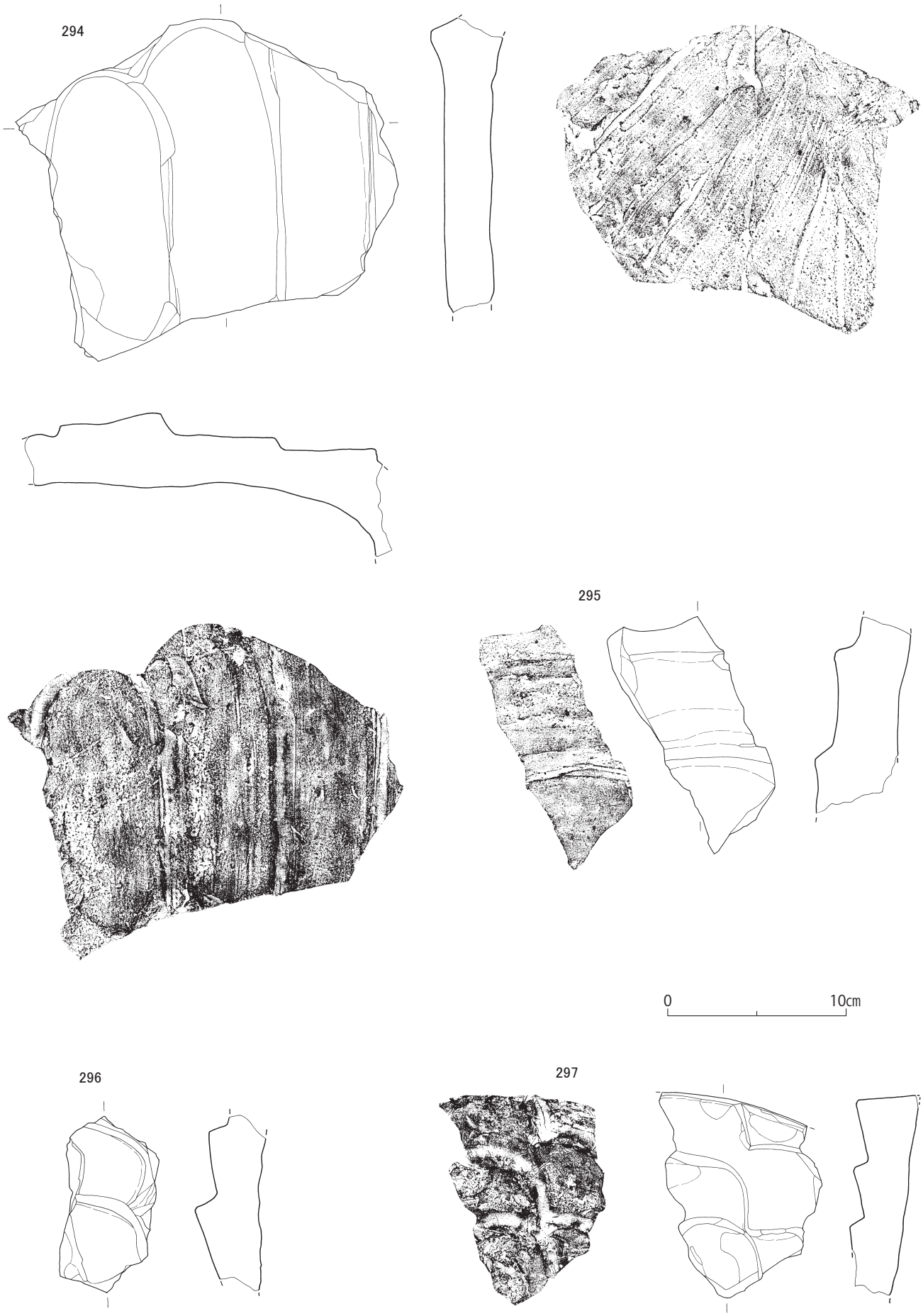
SW2168（第 31 図）　SX2181 を囲む南西壁である。腰石は 30 ～ 75 ㎝の礫を使用し、その上に長さ 20 ㎝前後の角礫を積み上げて構築している。最大で高さ 1.4 ｍを測る。

SW2169（第 30 図）　SX2181 を囲む南東壁である。背面側に近代の SK1100 があり、その壁面が南側へ崩壊しかかったため石組みも部分的に背面側にズレている。石の積み方は 2168 と異なり両端は 35 ～ 60 ㎝の腰石を使用し、その上には腰石より若干小さな礫を積んでいるが、中央部分は腰石も小さく上に積み上げた礫も小さい。部分的に異なるのは担当した工人の違いや、積み直した可能性などが考えられる。最大遺存高 1.5 ｍを測る。

8) 池状遺構

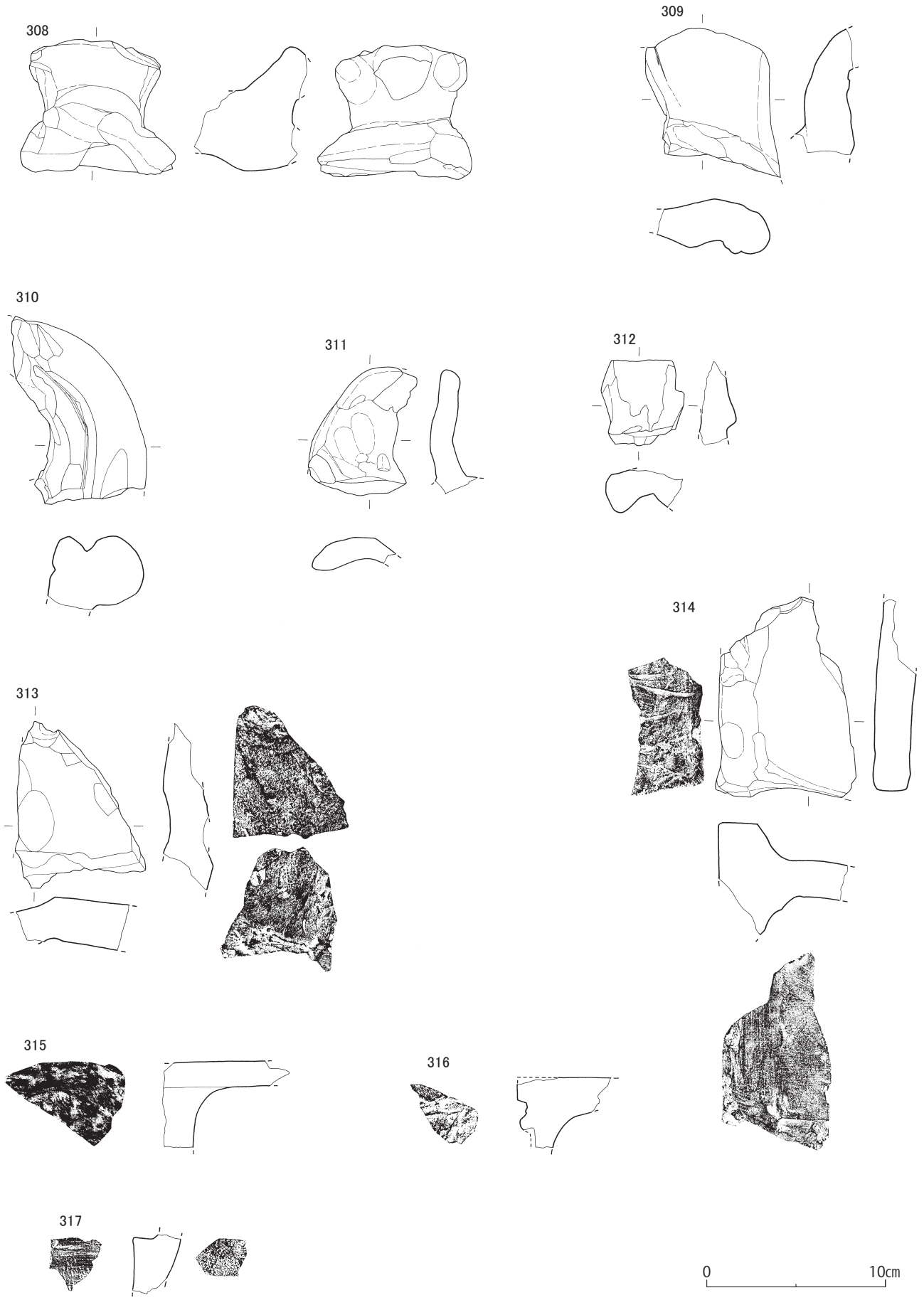
SX2181（第 6・31 図）　調査区北半を占める方形の窪みである。現在その性格は不明である。可能性としては 1. 当調査区の北側には東西方向の谷があると思われ（第 3 図黄色砂基盤層標高参考）その一部が当調査区に延びており、その壁面保護のために造られた。2. 聖福寺以前の建物に伴う施設。3. 聖福寺もしくは承天寺に伴う施設。この 2･3 の場合はこまかくみると a. 何らかの埋納施設。b. 大型の建物もしくは基壇の基礎 c. 池などが考えられる。調査中は禅寺には池が伴う事例が多いことから池とする意見も多かったものの、基盤が砂層で貯水できないことや、底面の最も低い場所の標高が 0.8 ｍで現状では湧水がない（現在博多遺跡では場所によっては標高 1.1m 前後で湧水する）ことから反対意見もあった。しかし、その後井戸の調査により井筒底面の標高が 1.3 ～ 1.4 ｍ前後のものがあることから過去に水位が上がっていた時期があることが分かり、池としての可能性がでてきた。ただ『聖福寺古図』に描かれた聖福寺・承天禅寺の背後の堀のように満々と水を湛えることは不可能で、底面近くに滞水する程度であったと思われる。ちなみに 193 次調査の 6 区では聖福寺と承天禅寺の背後を巡る堀と思われる掘り込みが確認されているが、こちらも底面標高が 1.5 ｍと高いことや砂丘面をたんに掘り込んだだけであるので『聖福寺古図』のように水を貯めることは難しいと推定される。出土遺物（第 32 ～ 44 図　151 ～ 369)。特徴的な遺物のみ記載した。151 ～ 215 は草花文の軒丸瓦である。須恵質で灰色であるが、焼きは固いものからやや軟質なものまでみられる。同笵も 2 ～ 3 点あるが破片が小さくて判りにくく、線の太さなども様々で多様な感じをうける。216 ～ 283（248 は除く）は波状押圧文の軒平瓦である。波状部分の下面に布目圧痕と指ナデを施すものがあり、遺物番号の後に★がつくのが布目圧痕がつく瓦である。284 ～ 203 は磚である。284 のみ幅が 6.5 ㎝と狭く、厚さ 4 ㎝を測る。285 ～ 291 は幅が 9 ～ 10 ㎝と広く、厚さは 3 ㎝とやや薄めである。いずれも暗青灰色を呈し、調整は粗いナデを施す。

294 ～ 317 は鴟吻で、いわゆる鴟尾・鬼瓦の類いである。294・295 は尾鰭、296・297 は鱗部分である。298 ～ 317 の部位はよく判らないが、顔周辺の髭や歯、牙、眉などと推測される。暗灰色を呈し、胎土は精良なものが多い。内面調整の粗さは磚に似る。318 ～ 369(328・347 除く）は墨書土器で 366 ～ 369 が土師坏である以外はだいたい 12 ～ 13 世紀中頃の貿易陶磁である。墨書内容は数字と花押が多い。324 の右側の文字と 364 は同じ文字でくずしかたも似ることから同一人物によるものか。328 は底面に線刻があり、347 は外底部に墨がつく。硯として使用したと思われる。

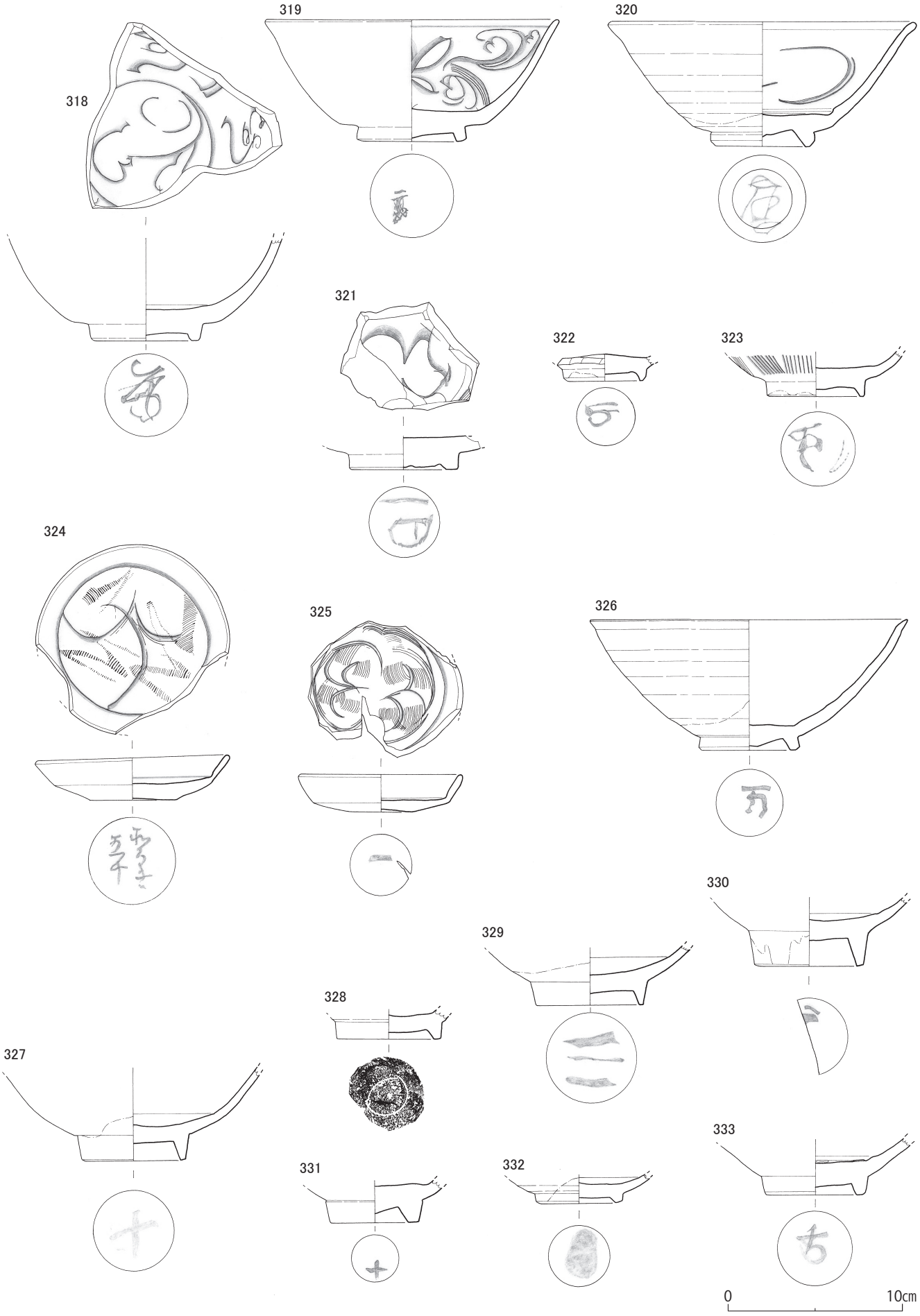


第 38 図　SX2181 出土鴟吻実測図 1(1/3)

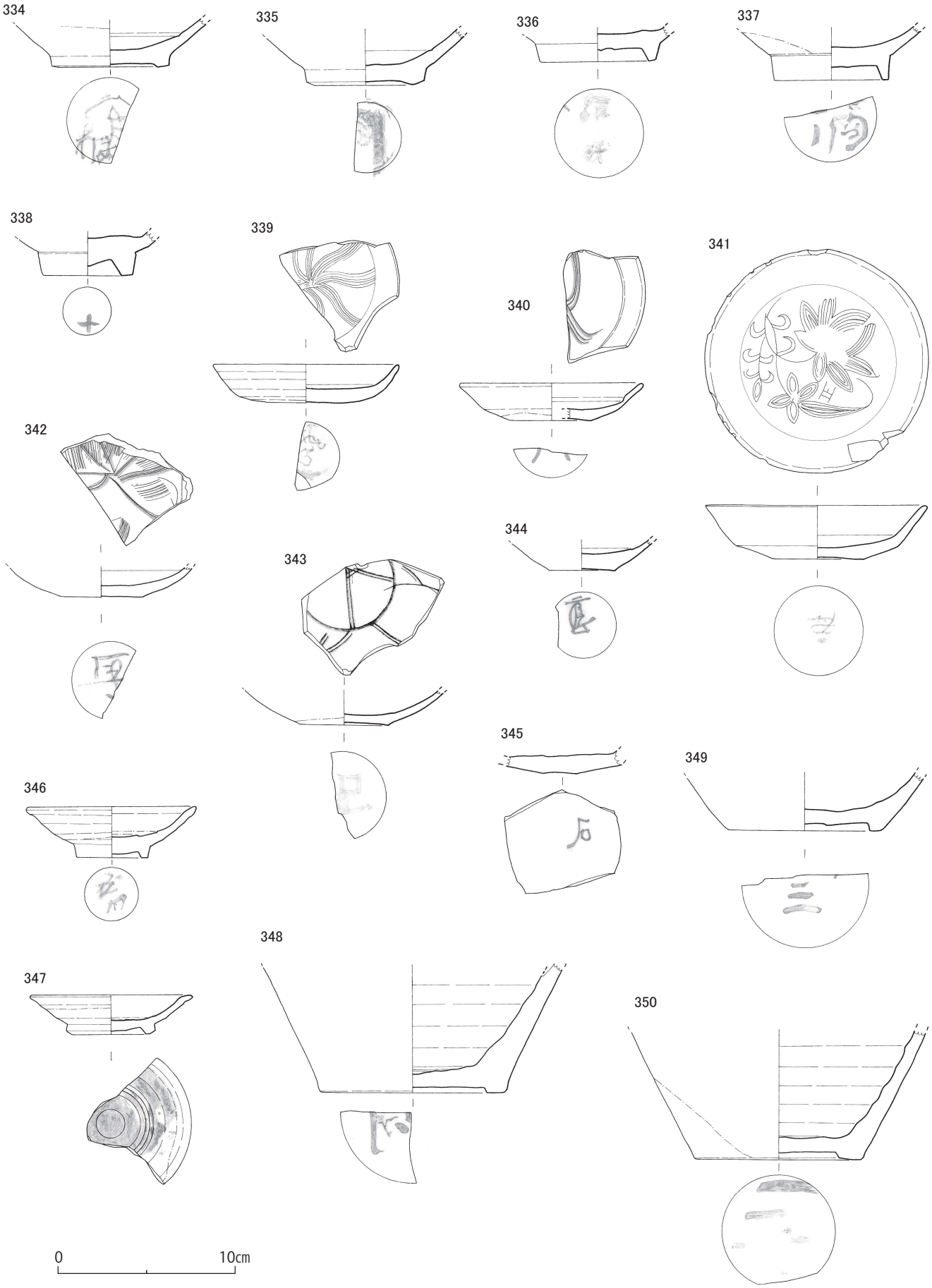
第 39 図　SX2181 出土鴟吻実測図 2(1/3)



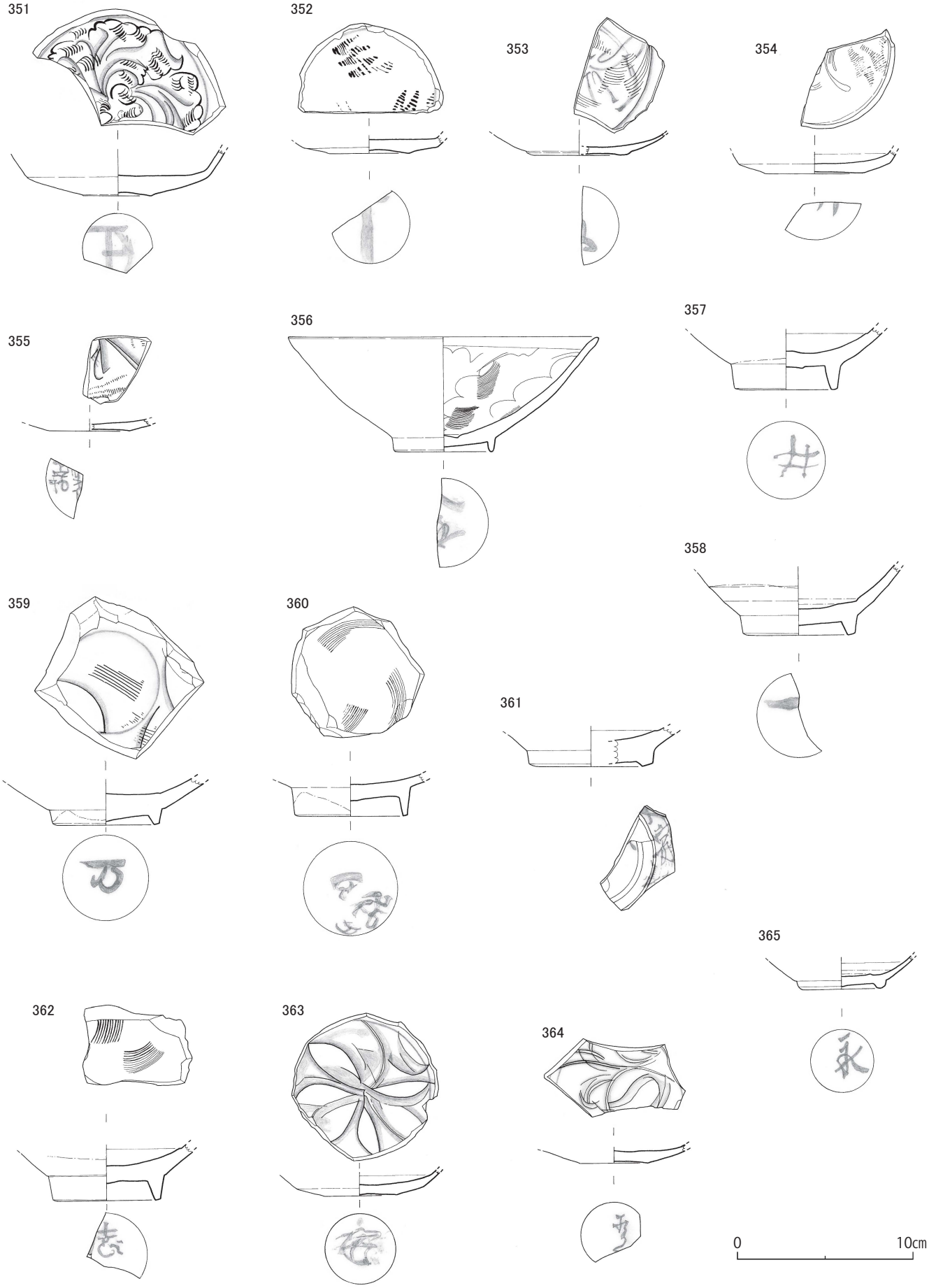
第 40 図　SX2181 出土鴟吻実測図 3(1/3)



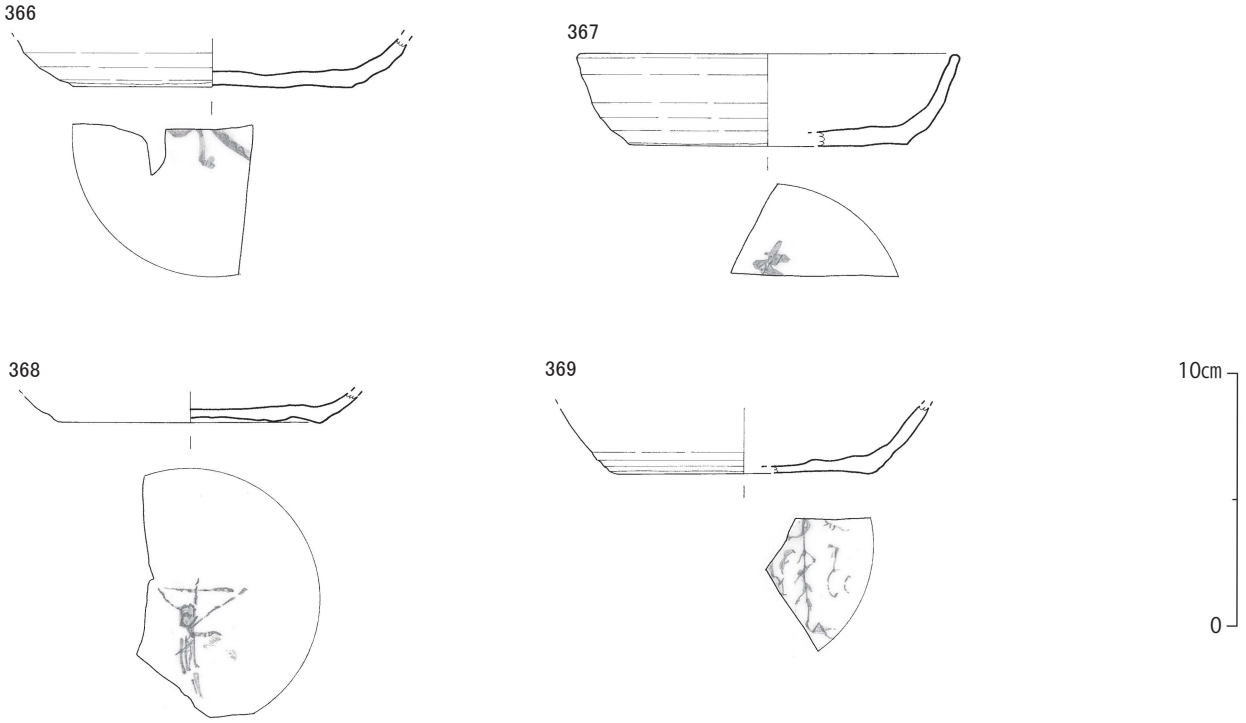
第 41 図　SX2181 出土墨書土器実測図 1(1/3)



第 42 図　SX2181 出土墨書土器実測図 2(1/3)



第 43 図　SX2181 出土墨書土器実測図 3(1/3)



第 44 図　SX2181 出土墨書土器実測図 4(1/3)

4．Ⅱ区の遺構と遺物

1）溝　4002 と 5030、5211 と SA01 がそれぞれ延長上に位置し、細長い通路状を呈す。北東側に位置する乳峯寺は現在位置ロが国体道路側にあるが、最近まで妙楽寺と同様に通路が南西側で、当調査区内に通路があったことから、若干位置がずれるものの中世後半から近世にかけての乳峯寺の塀と通路と考えられる。

SD4002（第 48 図）　調査区中央から北東側に位置し、SK4016 に切られる。方位は N-43°-E を測る。長さ 6.5 m、幅 71 ㎝、検出面からの深さ 54 ㎝を測る。1.2 m毎に根石がみられる。根石が掘り込み底面から浮いたものが多いが、建て替えによるものと思われる。この溝を境に南東側では土壙墓・近世甕棺が分布し、北西側ではみられないため、通路と墓域を分ける塀と考えられる。近世と考えられる。

SD4013（第 48 図）　調査区北端に位置する。方位は N-47°-W を測る。調査区内での長さ 144 ㎝、幅 62 ㎝、深さ 23 ㎝を測る。SD4002 に直交した区画溝と思われる。中世後半から近世と考えられる。

SD4006（第 48 図）　SD4002 に並行し、4002 に切られる。方位は N-54°-E を測る。長さ約 4.8 m、最大幅 1.4 m、深さ 23 ㎝を測る。底面上に 10 ㎝前後の礫群が 70 ㎝ごとに並び、礎石か礎石を乗せるグリと思われる。SD4002 に先立つ塀か。中世後半から近世と考えられる。

SD5211（第 49 図）　調査区北西辺に沿っており方位は N-43°-E を測る。SE4010 をまたいで SD5264 につながる。北東側の延長上に SA01 があり、南東側では SD5030 が平行する。調査区内での長さ 7.6 m、幅 43 ㎝、深さ 37 ㎝を測る。底面は緩やかな波状を呈す。白磁皿Ⅸ類等が出土した。13 世紀項半から 14 世紀頃と考えられる。

SD5030（第 49 図）　調査区南西辺中央に位置する。方位は N-43°-E で SD5211 に平行する。調査区内での長さ 3 m、幅 56 ㎝、深さ 46 ㎝を測る。底面にはやや規則的な凹凸がみられる。SD4002 の続きと思われる。14 世紀後半頃と考えられる。

SD6005（第 49 図）　調査区の東隅に位置し、SD5197・5231 に切られる。方位は N-10°-W

を測る。調査区内での長さ 5.6 m、幅 2.3 m、深さ 48 ㎝を測る。他の溝や遺構が現地割りに沿っているのに対し、南北方向を意識して掘られた溝である。8 世紀頃と考えられる。

SA01（第 49 図）　調査区北側に位置する。SD5211 の延長上にあたる。現状は溝は無いものの本来は溝状であったと思われる。SD5211 と対になることから 13 ～ 14 世紀と考えられる。

2) 井戸

SE5001（第 50 図）　調査区中央に位置する。SE5002・5003・6010・6023 を切る。平面形は楕円形で南側に出張りがある。方位 N-83°-E を測る。長径 281 ㎝、短径 218 ㎝、検出面からの深さ 187 ㎝を測る。120 ㎝までは垂直に掘り下げて平坦面を設け、そこから井筒部分のみ 64 ㎝下げている。平坦面で井筒を 3 基検出した。井筒 A ～ C としたが、SE5002・5003 の井筒が確認できてないことから最も新しい井筒 A が 5001 に伴うとして B が 5002、C が 5003 の井筒と考えられる。井筒 A の径は 69 ㎝で下から 12 ㎝程木質の痕跡が残っていた。底面標高 1.26 m で湧水はない。14 世紀と考えられる。遺物は第 52 図 370 ～ 400 が出土した。

SE5002　SE5001 に切られ、SE5003 を切る。平面は楕円に近い。長径は不明、短径は 2.8 m を測る。検出面から 150 ㎝下げたところで平坦面を設け、それから 5001 の井筒 B を掘り込む。井筒は径 63 ㎝を測り、木質は遺存していない。底目標高は 1.33 m を測り、湧水はない。14 世紀と考えられる。遺物は第 52 図 401・402 が出土した。

SE5003　SE5001・5002 に切られる。平面は楕円形を呈す。井筒は 5003 の C で径 78 ㎝を測る。木質は遺存していない。底面標高は 1.33 m を測り、湧水はない。井筒から鯨の椎骨が出土した他、瓦質擂鉢等が出土した。13 世紀中頃～ 14 世紀初め頃と考えられる。

SE5114（第 50 図）　調査区中央から北西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、方位 N-57°-E を測る。長径 280 ㎝、短径 271 ㎝、検出面からの深さ 190 ㎝を測る。広い平坦面ではなく、階段状に狭いテラスが付く。井筒径は 67 ㎝を測り、木質は下端から 3 ㎝程痕跡のみ遺存していた。井筒底面中央で径 15 ㎝程の石が出土した。底面標高は 1.66 m とかなり高い。14 世紀と考えられる。遺物は第 53・54 図 403 ～ 422 が出土した。

SE5197（第 50 図）　調査区北東辺中央に位置し、遺構の北東側が調査区外に延びる。近現代の井戸に切られる。平面形は不整楕円形を呈し長径と主軸は不明で短径は 2.81 m を測る。検出面から 1.4 m 掘り下げた平坦面上で 2 基の井筒を確認した。井筒 A は西側に位置し掘方径は 66 ㎝、深さ 73 ㎝を測る。井筒径は 61 ㎝で、木質は下端から 20 ㎝程が短冊状に遺存していた。底面標高は 0.73 m を測り、湧水はなかった。井筒 B は掘方径 90 ㎝、深さ 58 ㎝を測る。井筒の痕跡はない。底面標高は 1.4 m を測る。底面から 14 ㎝上で直方体の玄武岩が出土した他に第 55 図 423~431 が出土した。13 世紀と考えられる。

SE5231（第 50 図）　調査区東端に位置し SD6005 を切る。平面形は楕円形を呈し、方位 N-65°-E を測る。長径 270 ㎝、短径 253 ㎝、検出面からの深さ 193 ㎝を測る。130 ㎝掘り下げた平坦面上から径 96 ㎝、深さ 59 ㎝掘り下げ、径 60 ㎝の井筒を埋置している。井筒は底面から 12 ㎝浮いており、下端から 7 ㎝程木質の痕跡が遺存していた。底面標高は 0.62 m を測る。湧水はなかった。遺物は掘方から第 55 図 432 ～ 445 が、井筒から 446 ～ 449 が出土した。小片であるが中世末～近世と思われる染付と瓦が出土している。混入の可能性もあるが、時期としては中世末～近世前半の可能性もある。その他の遺物は 12 世紀頃が多い。

SE6001（第 51 図）　調査区東隅に位置する。平面形は楕円形と思われ、主軸は 45°程西偏する。調査区内で長径 3.9 m、短径 1.4 mを測る。深さ 1.4 m下の平坦面まで掘り下げたものの井筒は調査区外である。13 世紀後半と考えられる。

SE6010（第 51 図）　調査区中央から東寄りに位置し、SE5001・5002 に切られる。平面形は隅丸方形と推定され、径 2.6 m、検出面からの深さ 143 cmを測る。94 cm掘り下げて平坦面をつくり、中央を径 140 cm、深さ 44 cmの逆台形に掘り下げている。井筒径は 59 cmを測る。井筒は下端から 3 cm程木質の痕跡が遺存していた。底面標高は 1.76 mを測り、湧水はなかった。12 世紀と考えられる。遺物は第 56 図 450 ～ 453 が出土した。

SE6023（第 51 図）SE5001・6010 に切られる。平面形は楕円形と推定される。深さ 203 cmを測る。157 cm掘り下げて狭い平坦面を造り、それから径 50 cm、深さ 57 cm程掘り下げている。井筒の痕跡はなかった。底面標高は 1.35 mで湧水はない。遺物は掘方から第 56 図 454 ～ 461 が出土した。12 世紀と考えられる

SE6057（第 51 図）　調査区南東辺中央に位置する。平面形は円形を呈し、径 191 cm、深さ 228 cmを測る。195 cm下に平坦面を造り、そこから径 70 cm、深さ 30 cm掘り下げて、径 49 cmの井筒を埋置している。井筒は遺存せず、土層での確認である。井筒掘方の底面直上で粘土小塊が出土した。井筒を固定したものであろうか。底面標高は 1.47 mを測り、湧水はなかった。遺物は白磁皿Ⅸ類や陶器鉢が出土した。13 世紀後半～ 14 世紀と考えられる

3) 土坑

SK4011（第 57 図）　調査区西隅に位置する。平面形は長方形で主軸は N-28°-W を測る。長径 120 cm、短径 88 cm、深さ 22 cmを測る。底面直上で径 20 ～ 30 cmの礫が出土した他、土師坏が出土した。12 世紀後半頃と考えられる。

SK4015・4020（第 57 図）　調査区西隅に位置する。平面は円形で径 34 cm、深さ 31 cmを測る。中～上層で土師坏と皿が多く廃棄されている。中世と考えられる。

SK4024（第 57 図）　調査区西側に位置し近世井戸に切られる。現状で長径 115 cm、深さ 70 cmを測る。土師坏・皿が多く廃棄されている。14 世紀前半頃と考えられる。

SK4058（第 57 図）　調査区東側に位置する。平面は楕円で N-32°-W を呈し、長径 81 cm、深さ 36 cmを測る。上層で土師坏が多く出土した。13 世紀頃と考えられる。遺物は第 65 図 463 ～ 468 等が出土した。

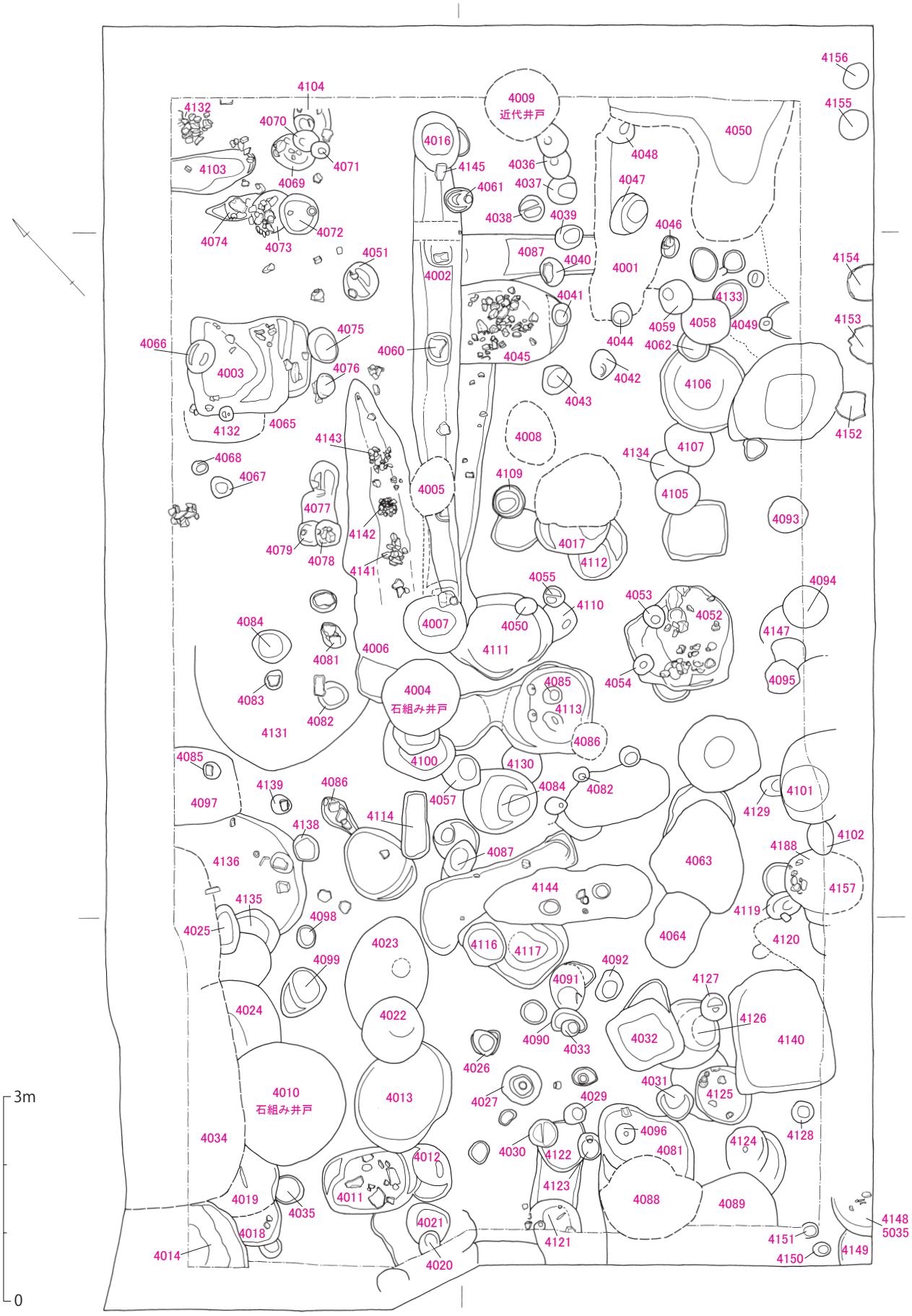
SK4063（第 58 図）　調査区中央から南より位置する。平面形は不整楕円形で長径 171 cm、深さ 31 cmを測る。断面は浅皿状を呈す。上層から多量の礫と土師坏が出土した。14 世紀後半頃と考えられる。

SK4097（第 57 図）　調査区北西辺中央に位置する。平面形は楕円と思われ、主軸は N-60°-W を測る。長径 115 cm、検出面からの深さ 14 cmを測る。時期不明である。

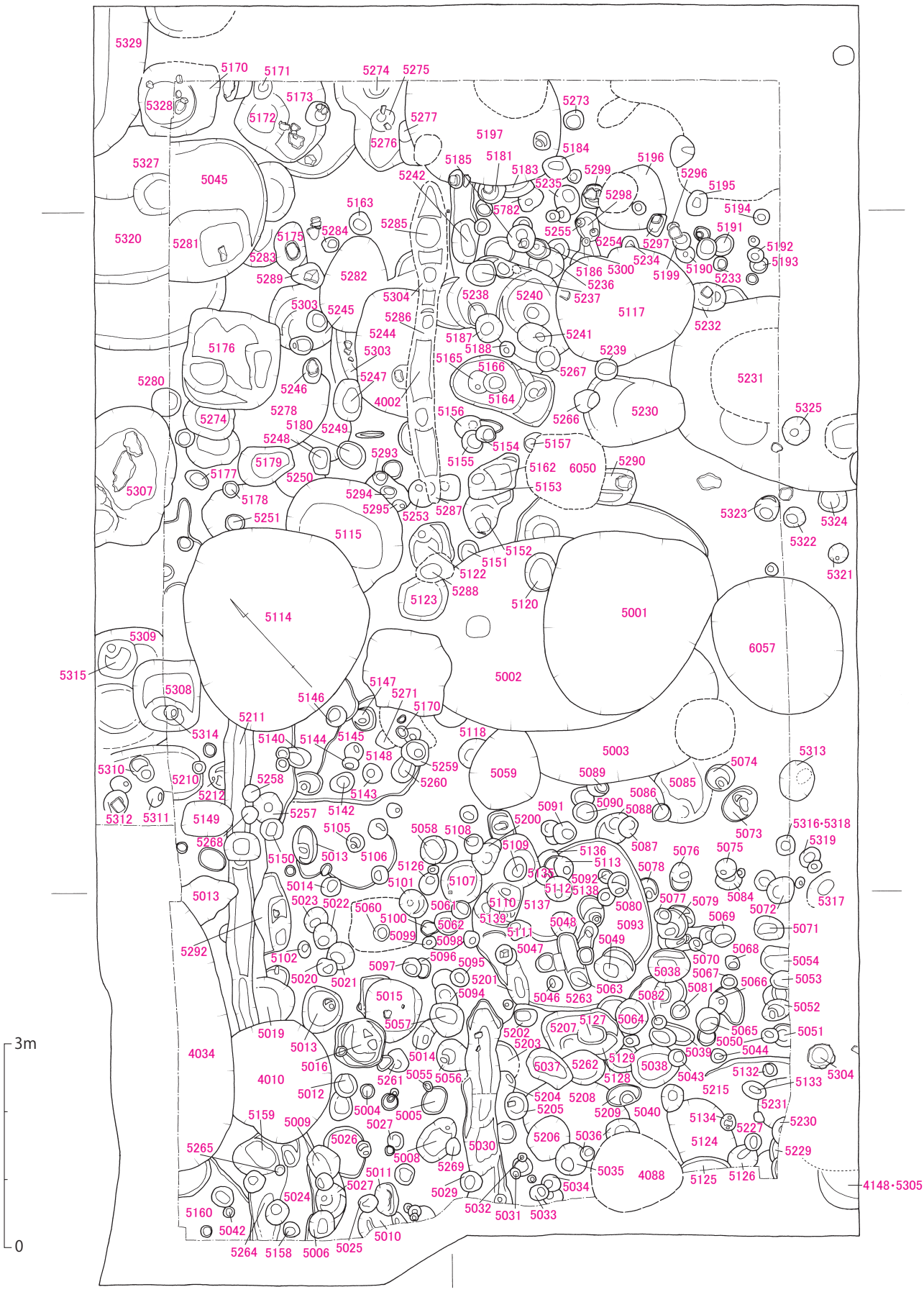
SK4102（第 57 図）　調査区南東隅に位置する。平面形は楕円形で長径 52 cm、深さ 10 cmを測る。上層で土師皿がまとまって出土した。中世と考えられる。

SK4121（第 58 図）　調査区南西辺中央に位置する。平面形は楕円と思われ主軸は N-41°-E を測る。短径 72 cm、深さ 29 cmを測る。14 世紀以降と考えられる。

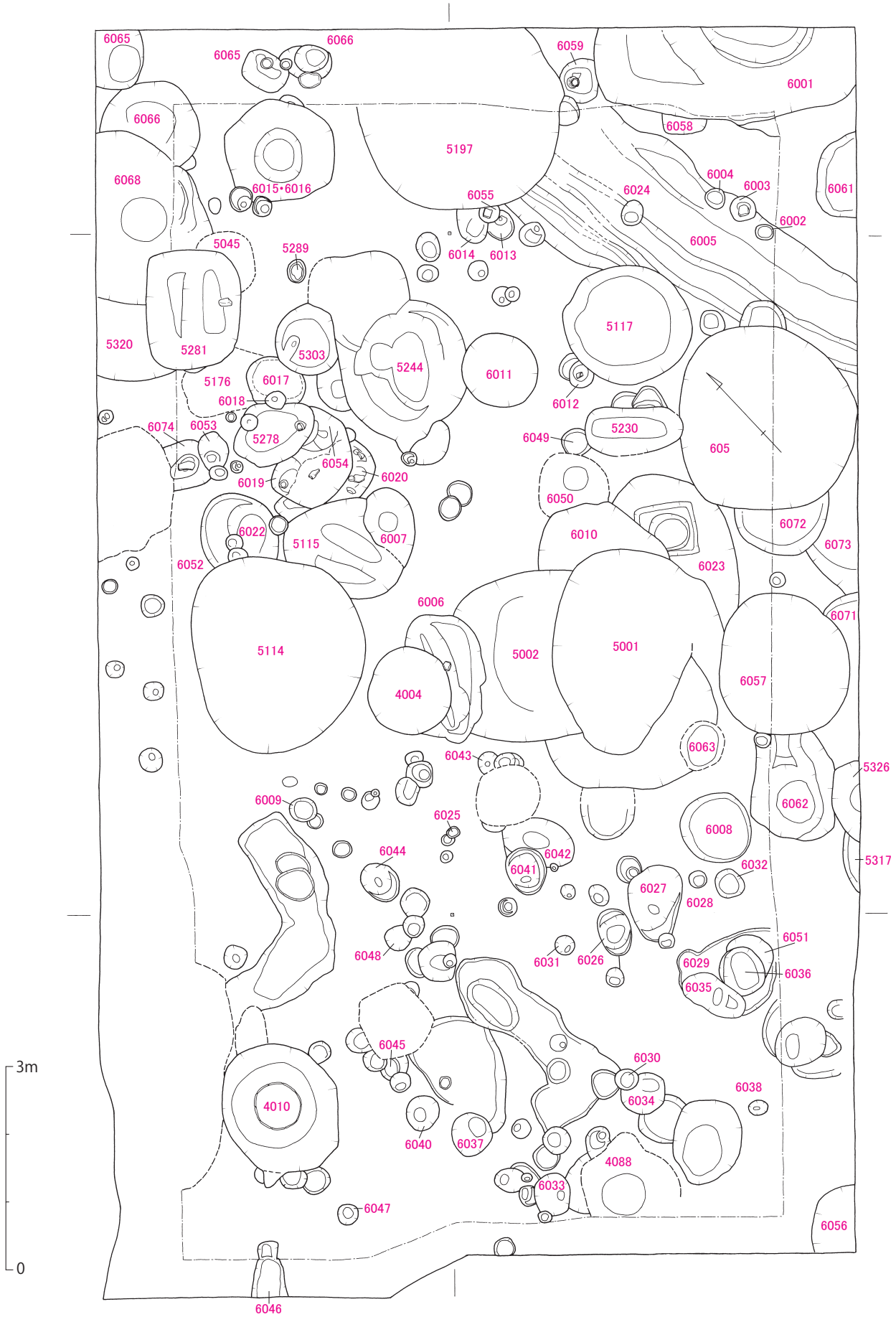
SK4125・4146（第 58 図）　調査区南隅に位置する。SK4140 等に切られる。平面形は円形で径 158 cm、深さ 34 cmを測る。上層で土師坏・皿が多く出土した。15 世紀後半と考えられる。



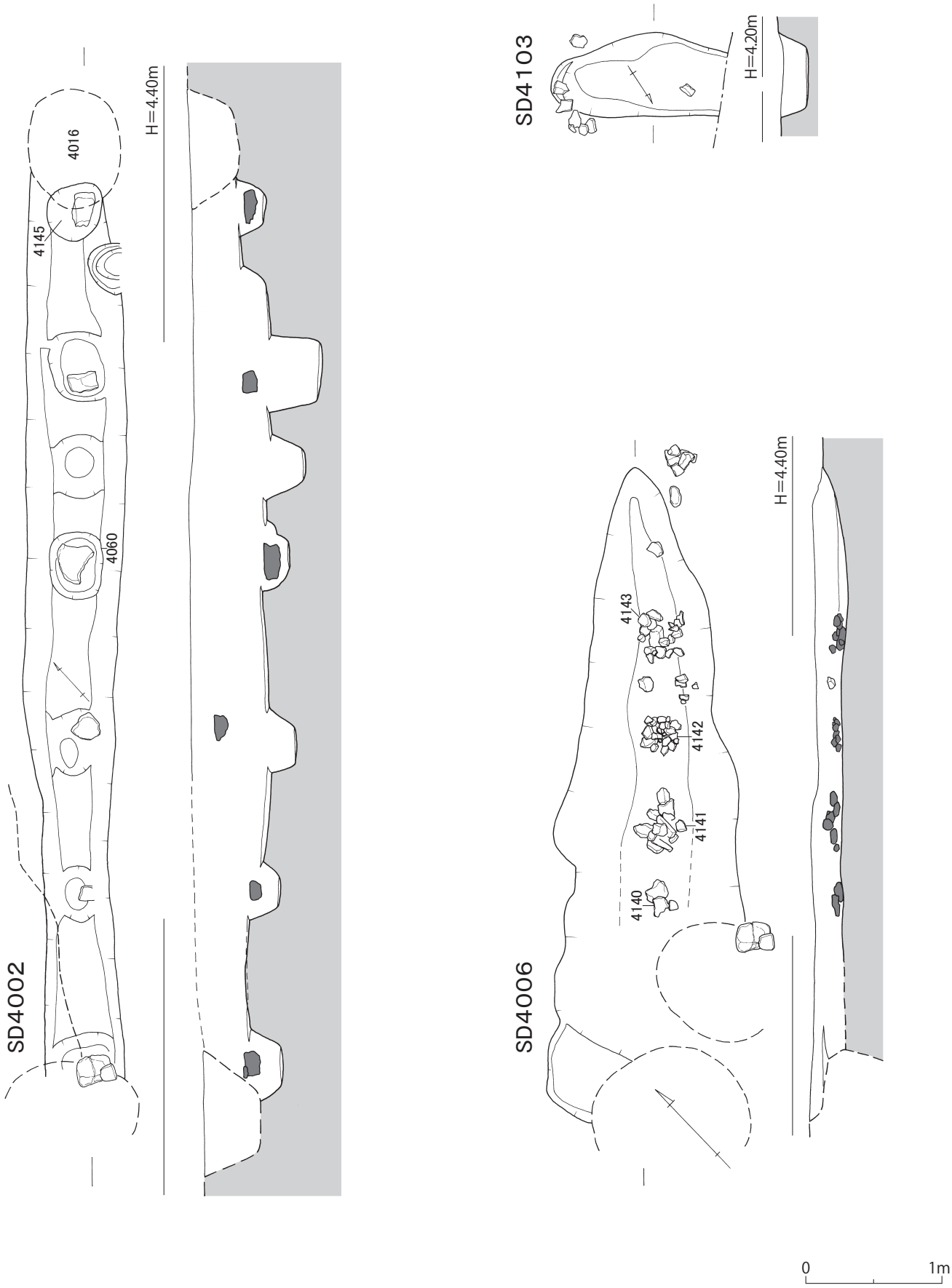
第 45 図　Ⅱ区 1 面全体図 (1/80)



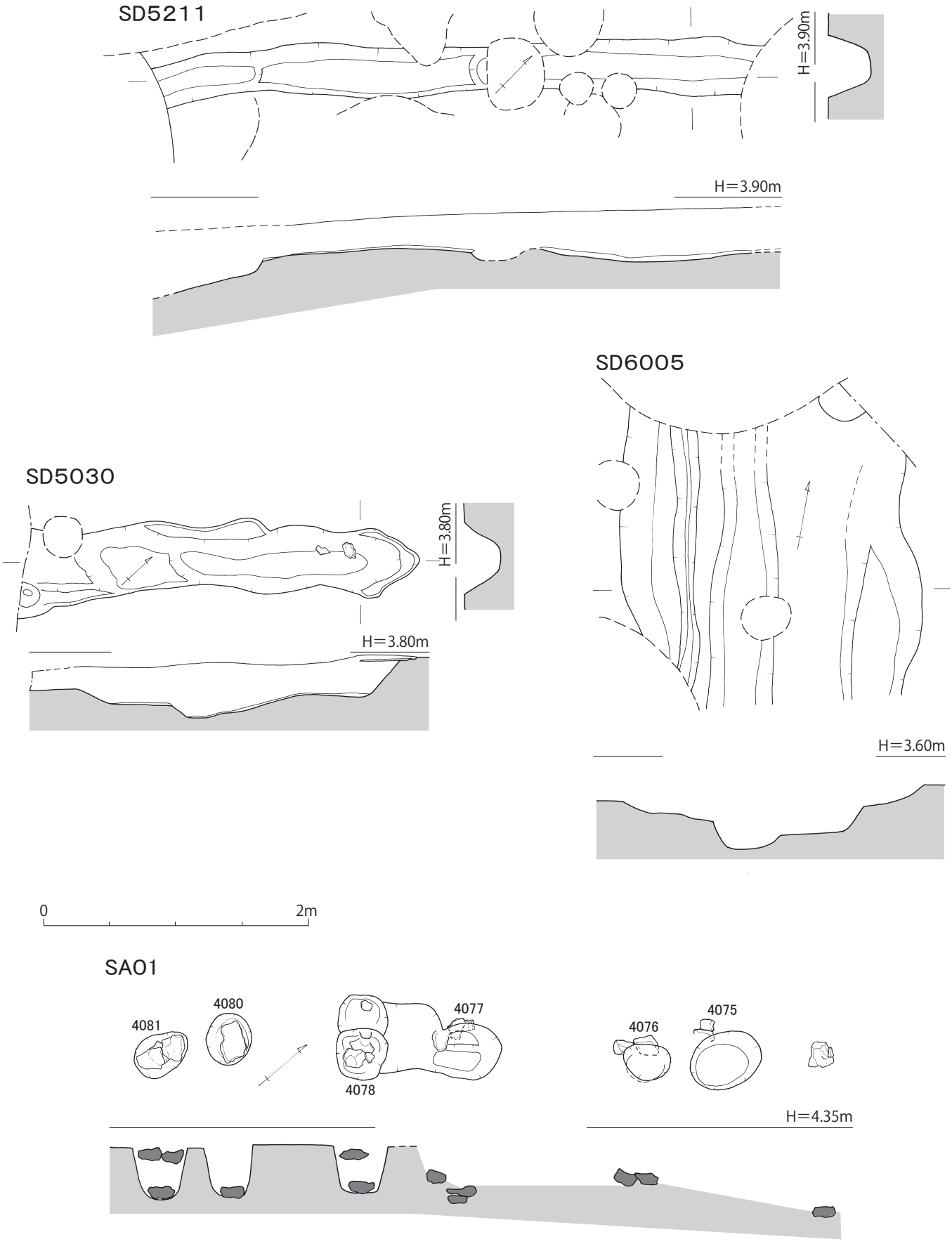
第 46 図　Ⅱ区 2 面全体図 (1/80)



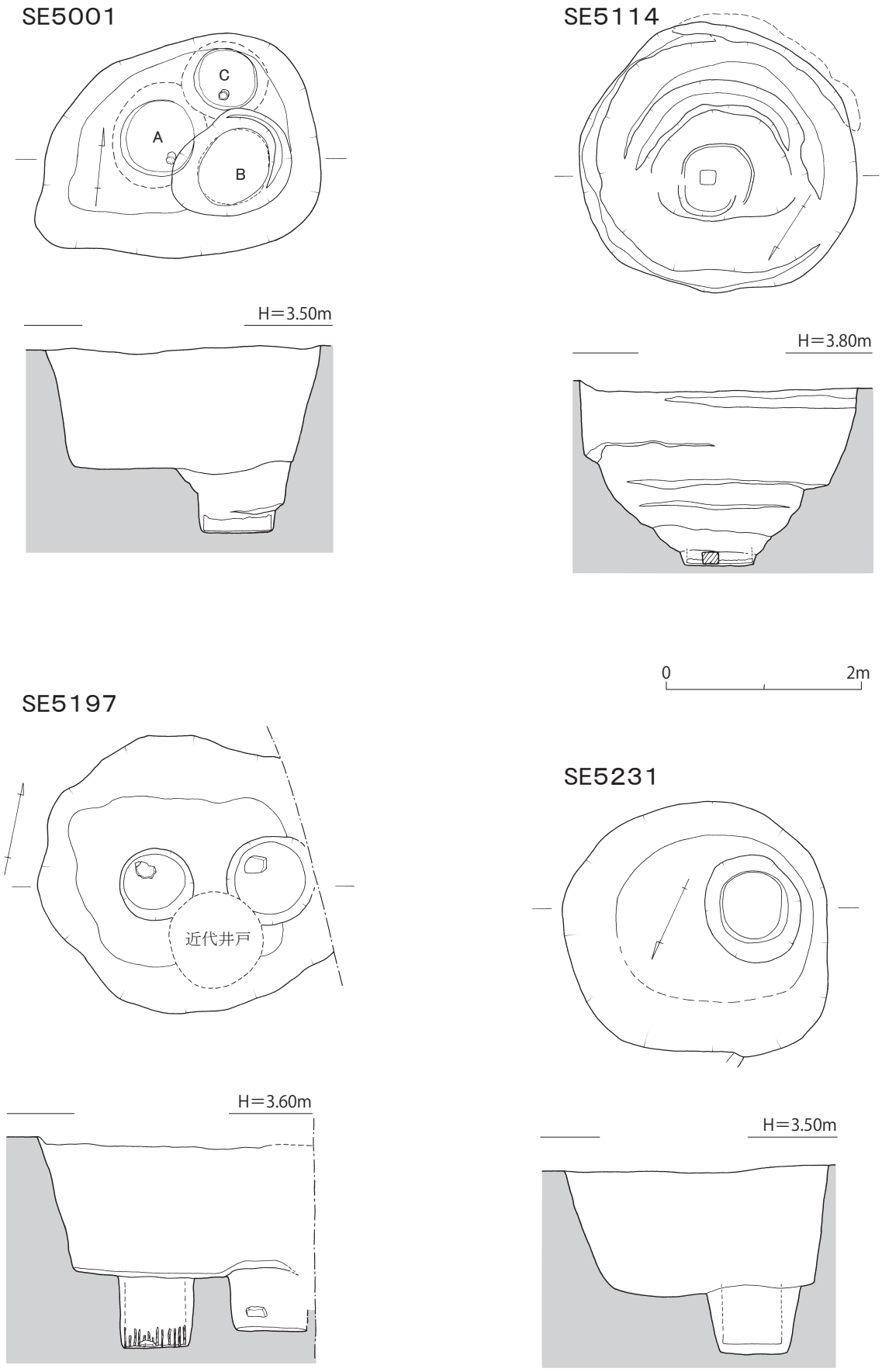
第 47 図　Ⅱ区 3 面全体図 (1/80)



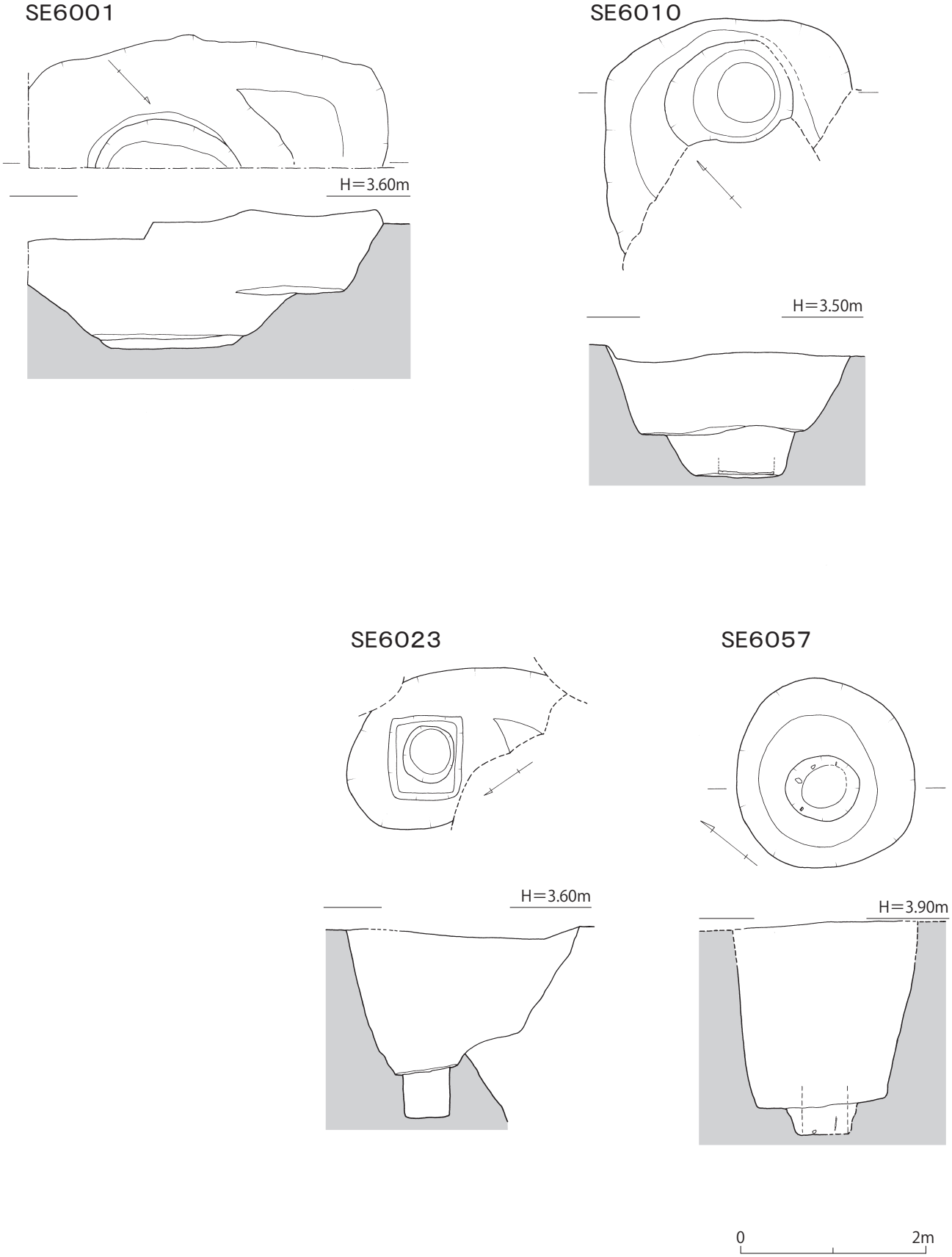
第 48 図　Ⅱ区溝実測図 1(1/40)



第 49 図　Ⅱ区溝実測図 2(1/40)



第 50 図　Ⅱ区井戸実測図 1(1/60)



第 51 図　Ⅱ区井戸実測図 2(1/60・6050 は 1/40)

第52図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図1(1/4)

SK5013（第59図）　調査区西端に位置する。平面は不整形で遺存長86㎝、深さ13㎝を測る。西側では底面の窪みに沿って土師坏が、東では陶器壺底部と土師坏2枚、灯明皿として使用された土師皿が1枚重なるようにして出土した。13世紀後半から14世紀前半と考えられる。遺物は第65図469～478等が出土した。

SK5059（第59図）　調査区中央に位置しSE5002に切られる。平面は楕円形で主軸はN-50°-Eを測る。長径103㎝、深さ116㎝を測る。上層で多くの土師坏と共に須恵器鉢や鯨の下顎骨が出土した。13世紀後半から14世紀頃と考えられる。

SK5115（第59図）　調査区中央に位置しSE5114に切られる。平面は楕円形で主軸はN-13°-Eを測る。長径183㎝、深さ113㎝を測る。13・14層から土師坏・皿が出土した。13世紀中頃から14世紀頃と考えられる。遺物第65図479～492等が出土した。

SK5149（第59図）　調査区北西端に位置しSD5211を切る。平面は楕円形で主軸はN-26°-Wを測る。長径78㎝、検出面からの深さ34㎝を測る。上層から龍泉窯系青磁碗Ⅱ類と土師坏・皿が出土した。15～16世紀前半と考えられる。

SK5206（第59図）　調査区西隅に位置する。平面形は楕円で主軸はN-85°-Wを測る。長径77㎝、検出面からの深さ27㎝を測る。上層から須恵器高台付坏や土師甕の破片が出土した。８世紀頃と考えられる。遺物は第65図493～501等が出土した。

SK5244（第60図）　調査区中央から北よりに位置し、SD4002に切られる。平面は長方形で主軸はN-62°-Eを測る。長径189㎝、深さ153㎝を測る。上層で須恵鉢、土師坏・皿が出土した。15世紀頃と考えられる。遺物は第66図502～512等が出土した。

SK5282（第60図）　調査区北側に位置し、SK5244に切られる。平面形は長方形で主軸はN-62°-Eを測る。長径152㎝、深さ59㎝を測る。遺物はいずれも小片の白磁皿Ⅸ類や常滑の大甕等である。13世紀頃と考えられる。遺物は第66図513～523等が出土した。

SK5316（第60図）　調査区南西端に位置する。平面は円形で径29㎝、深さ16㎝を測る。上層から石製紡錘車が出土した。12～14世紀頃と考えられる。

SK6011（第60図）　調査区中央から北東寄りに位置する。平面は円形で径114㎝、深さ102㎝を測る。中層から第66図524・525が出土した。８世紀前半と考えられる。

SK4003（第61図）　調査区北側に位置する。平面形は方形で主軸はN-43°-Eを測る。長径70㎝、深さ24㎝を測る。底面南東側にテラスがつく。16世紀頃と考えられる。

SK4019（第61図）　調査西隅に位置する。平面形は円形と思われる。遺存長80㎝、深さ15㎝を測る。上層から小刀が出土した。13世紀後半から14世紀と考えられる。

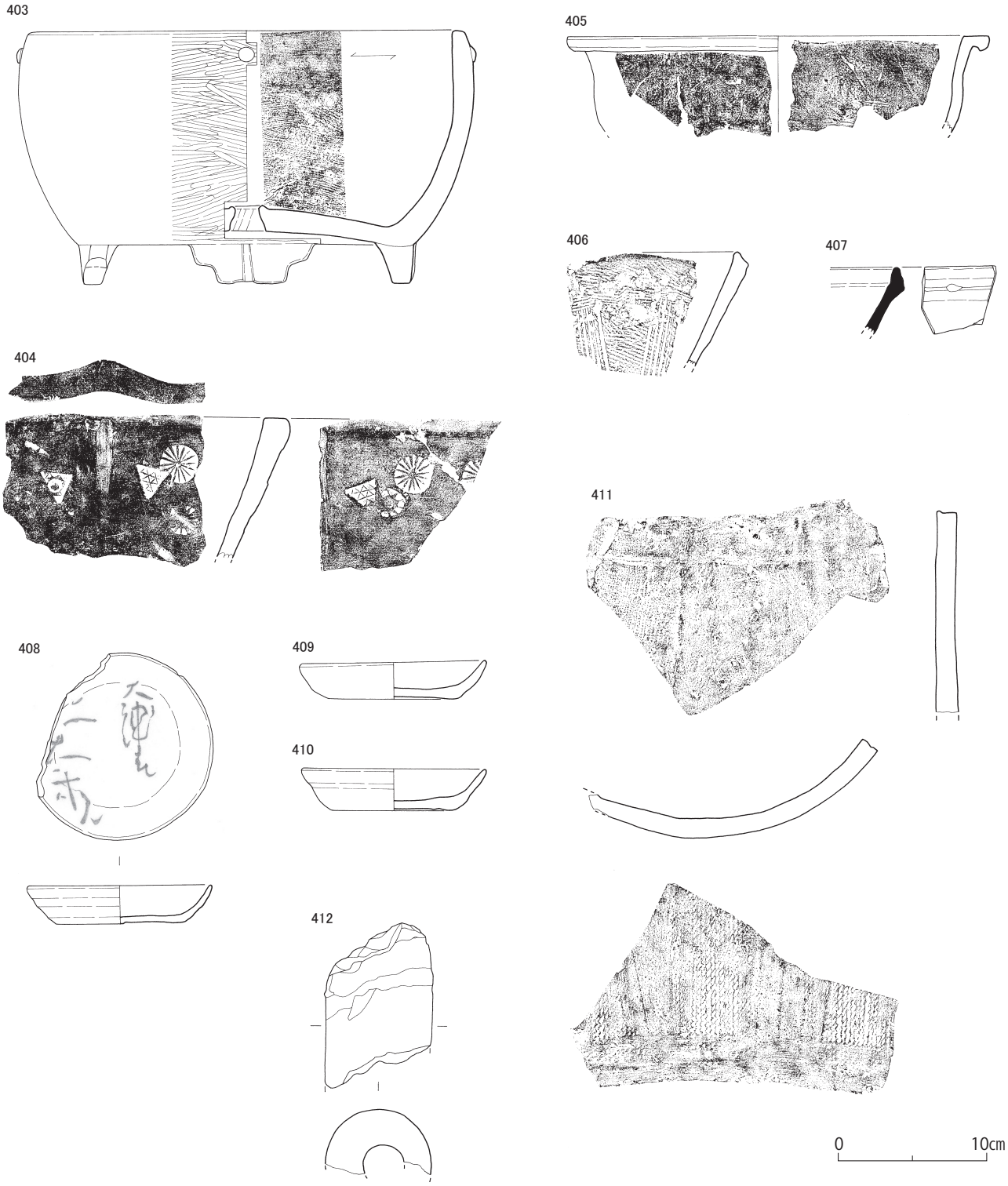
SK4023（第61図）　調査区西側に位置し4022に切られる。平面は楕円形で主軸はN-58°-Eを測る。長径176㎝、深さ53㎝を測る。古代末から中世頃と考えられる。

SK4045（第61図）　調査区北東側に位置し、SD4002に切られる。平面は楕円形で主軸はN-45°-Wを測る。遺存長158㎝、深さ40㎝を測る。断面は逆台形を呈す。上層から角礫がまとまって出土した。中世と考えられる。

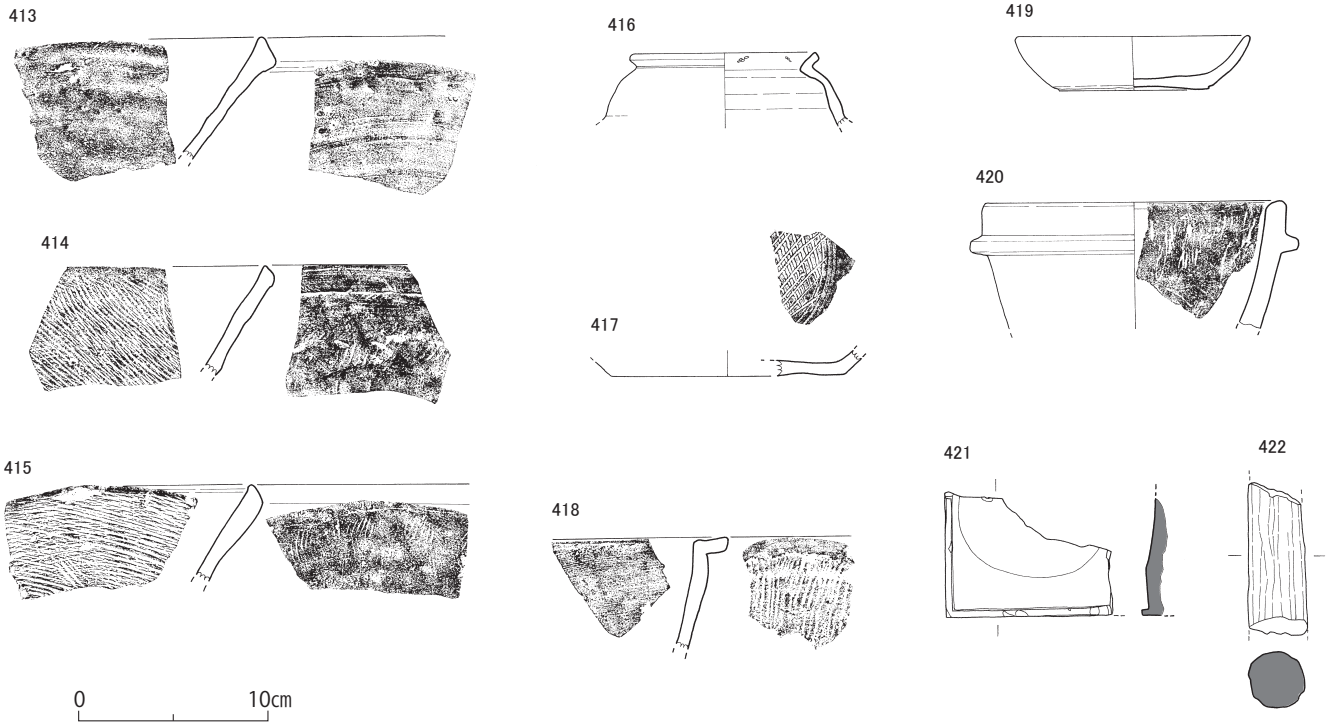
SK4052（第61図）　調査区中央から東寄りに位置する。平面は不整形で径153㎝、深さ24㎝を測る。底面北西側にテラスがつく。近世と考えられる。

SK4140（第61図）　調査区南隅に位置する。平面は長方形で主軸はN-30°-Eを測る。長径178㎝、深さ15㎝を測る。断面は浅皿状を呈す。時期不明である。

SK5015（第61図）　調査区西側に位置する。平面は楕円形で主軸はN-55°-Eを測る。



第 53 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 2(1/4)



第 54 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 3(1/4)

長径 92 cm、深さ 68 cmを測る。底面北側が外側に張出す。14 世紀後半と考えられる。

SK5117（第 62 図）　調査区東側に位置する。平面は楕円形で主軸は N-43°-W を測る。長径 192 cm、深さ 115 cmを測る。断面は逆台形を呈す。14 世紀後半と考えられる。

SK5176（第 62 図）　調査区北側に位置する。平面は方形で主軸は N-41°-W を測る。直径 143 cm、深さ 43 cmを測る。底面に 2 ヶ所の窪みがある。13 世紀後半から 14 世紀前半と考えられる。

SK5185（第 62 図）　調査区東側に位置する。平面は円形で径 42 cm、深さ 20 cmを測る。断面は逆台形を呈す。上層で土師坏が出土した。13 世紀と考えられる。

SK5230（第 62 図）　調査区東側に位置する。平面は長方形で主軸は N-47°-W を測る。長径 144 cm、短径 70 cm、深さ 73 cmを測る。14 世紀と考えられる。

SK5307（第 62 図）　調査区北西辺中央に位置する。平面は不整楕円で主軸は N-43°-E を測る。長径 202 cm、深さ 73 cmを測る。断面は逆台形を呈す。13 ～ 14 世紀頃と考えられる。

SK5308（第 62 図）　調査区北西辺中央に位置する。平面は方形で主軸は N-42°-E を測る。径 103 cm、深さ 78 cmを測る。底面西端に掘込みがある。12 世紀と考えられる。

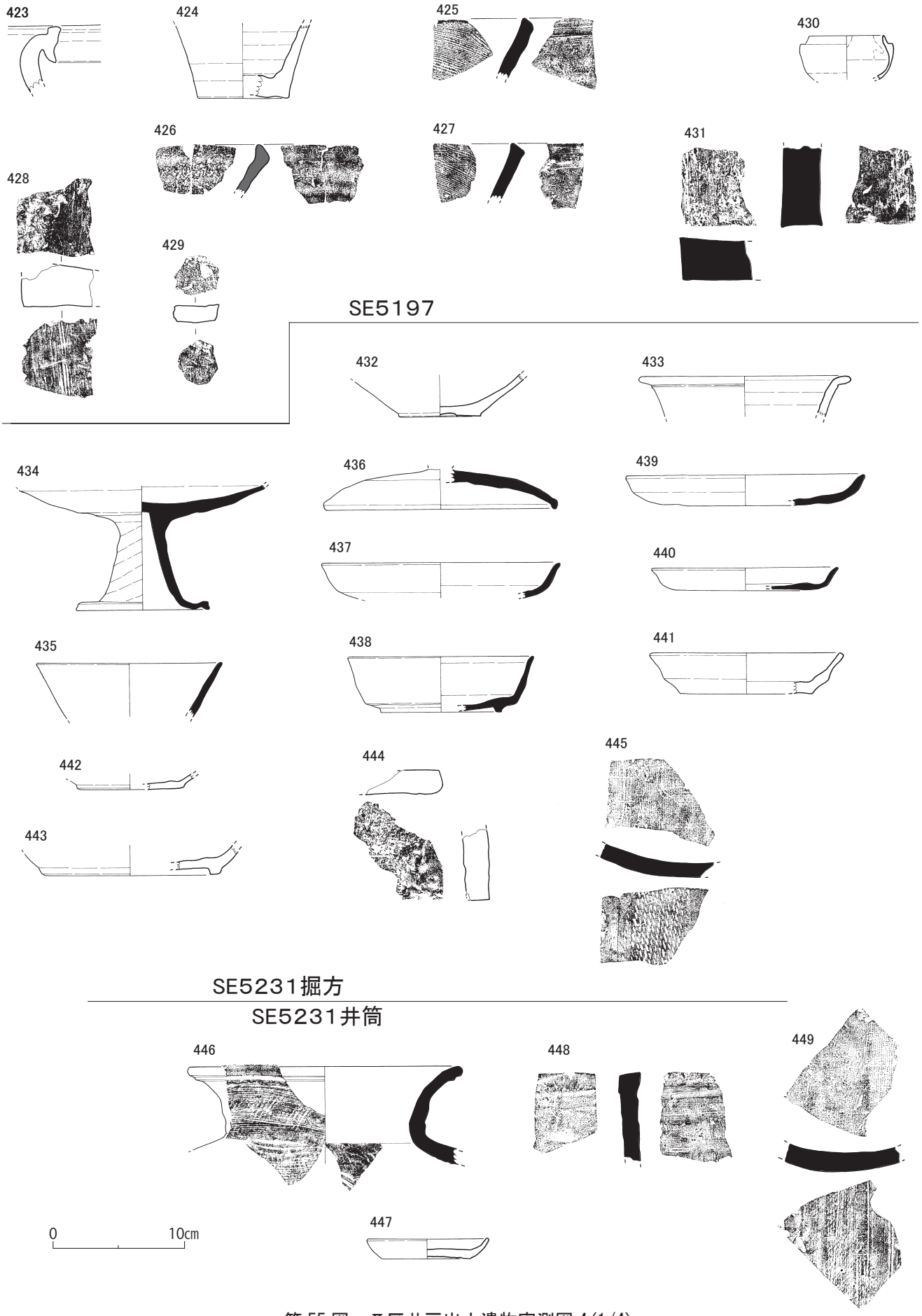
SK6006（第 63 図）　調査区中央に位置し SE5002 を切る。平面は長方形で主軸は N-43°-E を測る。長径 180 cm、深さ 47 cmを測る。断面は箱形を呈す。底面に南北方向の溝状の掘込みがある。古代末と考えられる。

SK6013（第 63 図）　調査区北東側に位置する。平面は楕円形で主軸は N-39°-E を測る。長径 43 cm、深さ 4 cmを測る。須恵器坏蓋が出土した。8 世紀前半頃と考えられる。

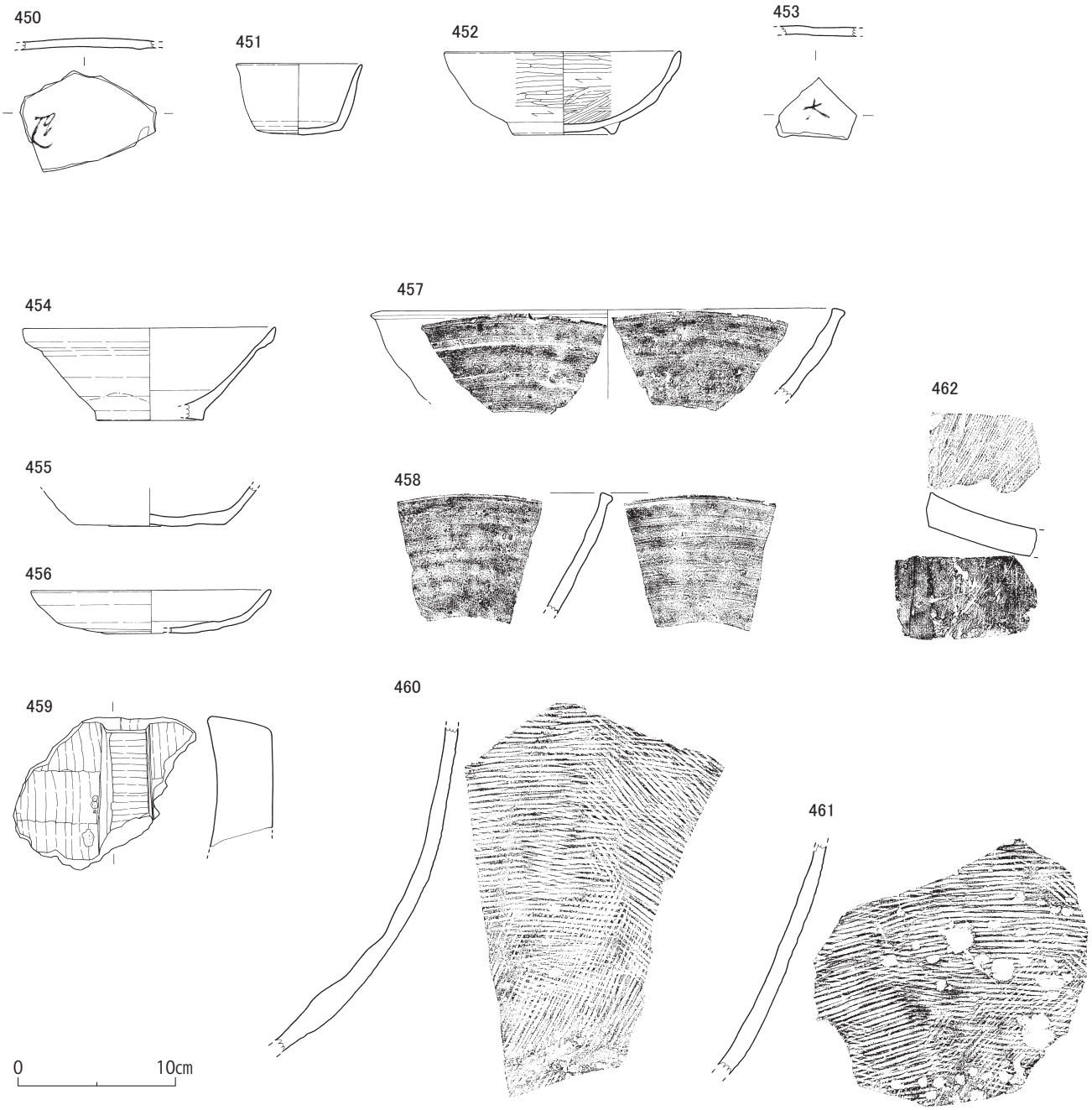
SK6019（第 63 図）　調査区北側に位置する。6020 に切られる。平面は楕円形に近い。長径 50 cm、深さ 46 cmを測る。上面で土師皿が出土した。古代末頃と考えられる。

SK6020（第 63 図）　調査区北側に位置する。5115 に切られる。平面は不整形で主軸は N-82°-W を測る。長径 162 cm、深さ 45 cmを測る。9 世紀前半頃と考えられる。

SK6022（第 63 図）　調査区北側に位置し、SE5113 に切られる。平面は円形で径 115 cm、



第 55 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 4(1/4)



第 56 図　Ⅱ区井戸出土遺物実測図 5(1/4)

深さ 52 cmを測る。底面西側に三日月型のテラスがつく。古代と考えられる。

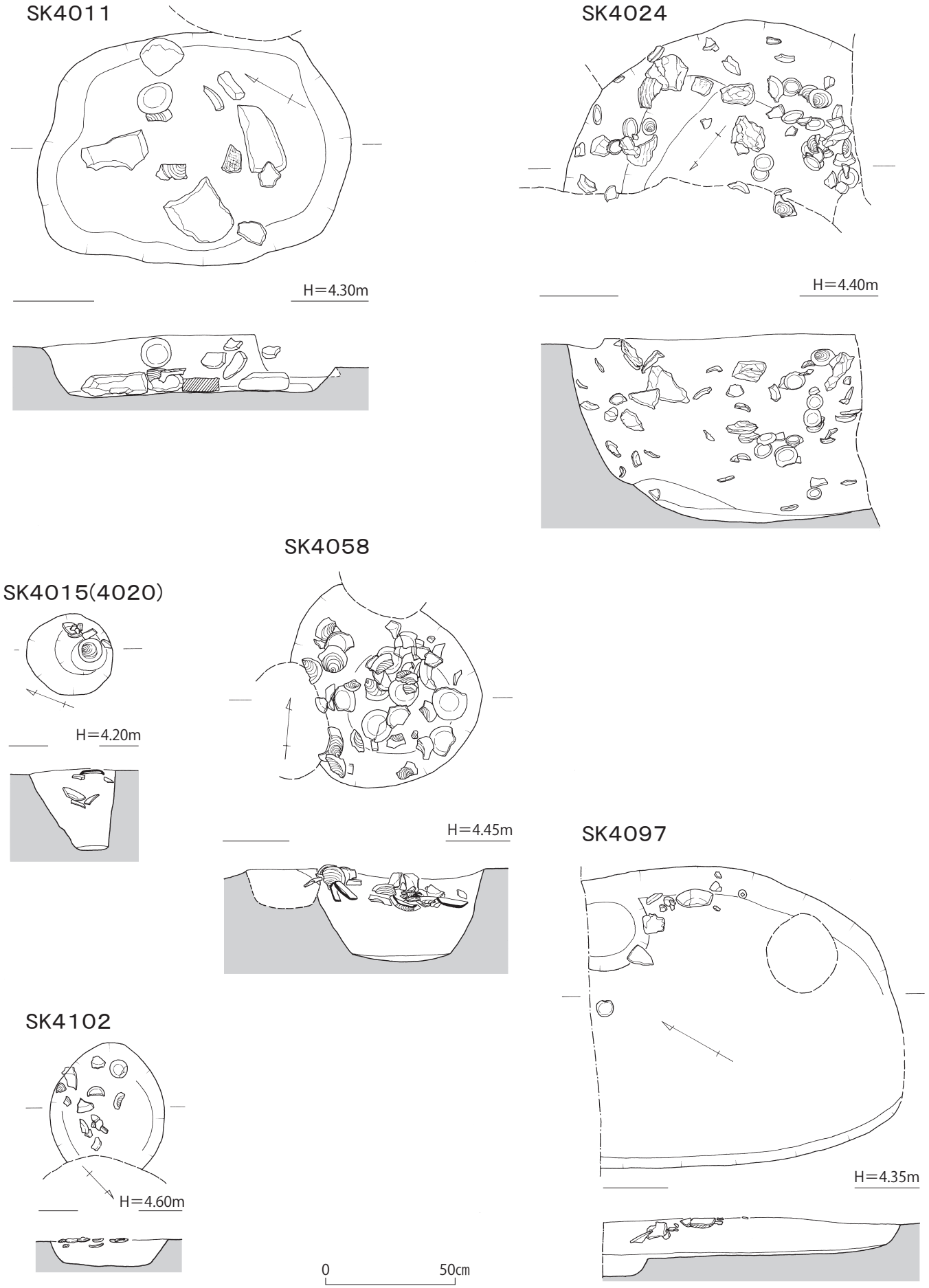
SK6027（第 63 図）　調査区南側に位置する。平面は不整楕円形で主軸は N-43°-E を測る。長径 110 cm、深さ 63 cmを測る。断面はＶ字形を呈す。8 世紀頃と考えられる。

SK6035（第 63 図）　調査区南側に位置する。平面は楕円形で主軸は N-68°-W を測る。長径 97 cm、深さ 50 cmを測る。底面南側にテラスがつく。12 世紀後半頃と考えられる。

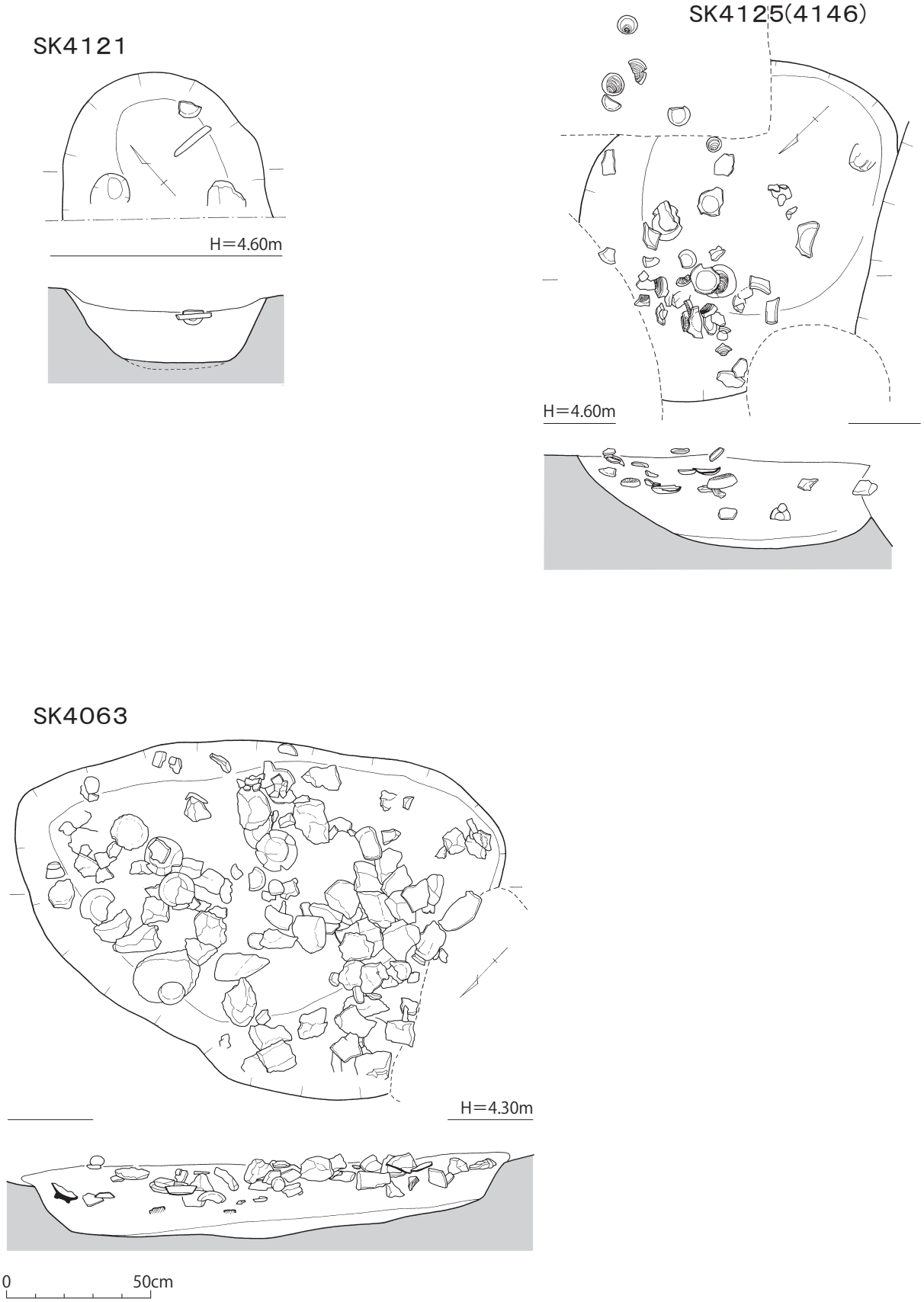
SSK6042（第 63 図）　調査区中央に位置する。平面は楕円形で主軸は N-29°-W を測る。長径 109 cm、深さ 68 cmを測る。断面は逆台形を呈す。8 世紀頃と考えられる。

SK6059（第 63 図）　調査区東端に位置する。平面形は隅丸長方形で主軸は N-44°-E を測る。長径 66 cm、深さ 20 cmを測る。須恵器高台付坏が出土した。8 世紀前半頃と考えられる。

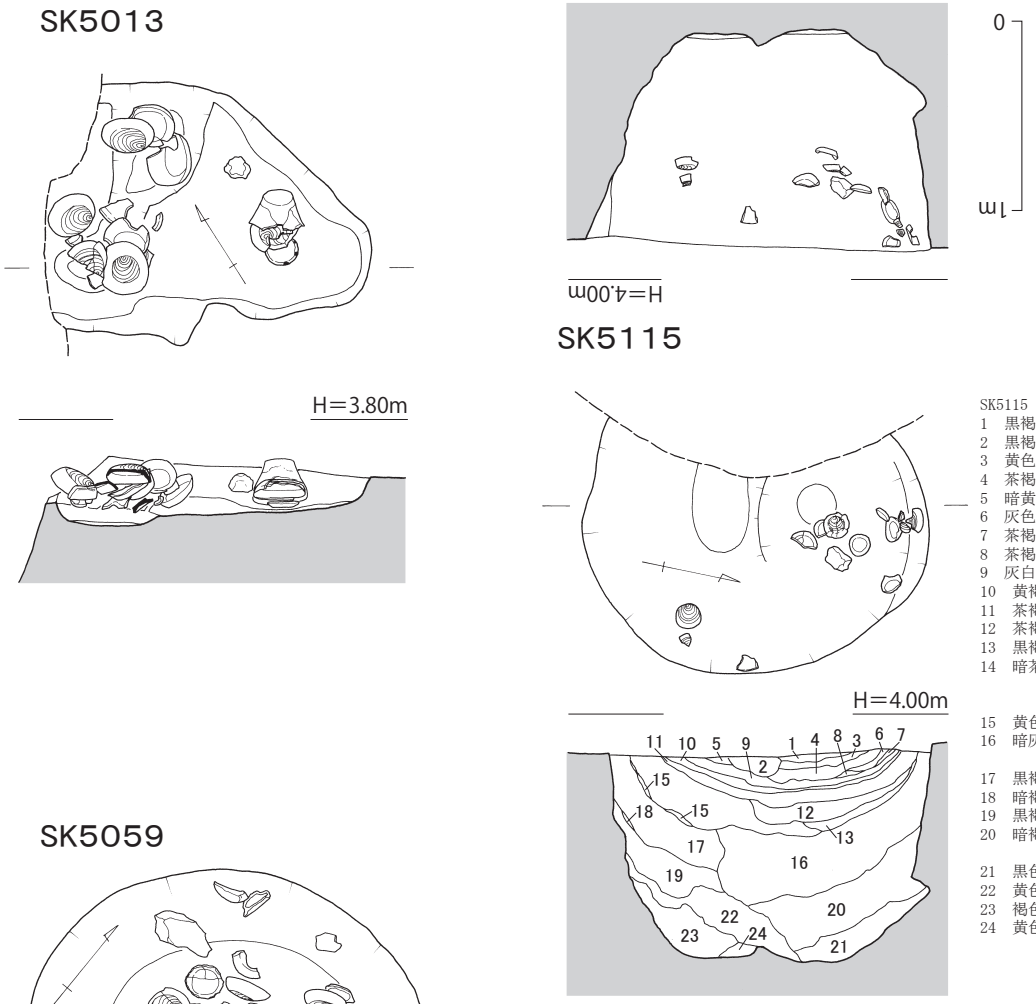
SK6061（第 63 図）　調査区東端に位置する。平面は長方形と推定され、径 128 cm、深さ



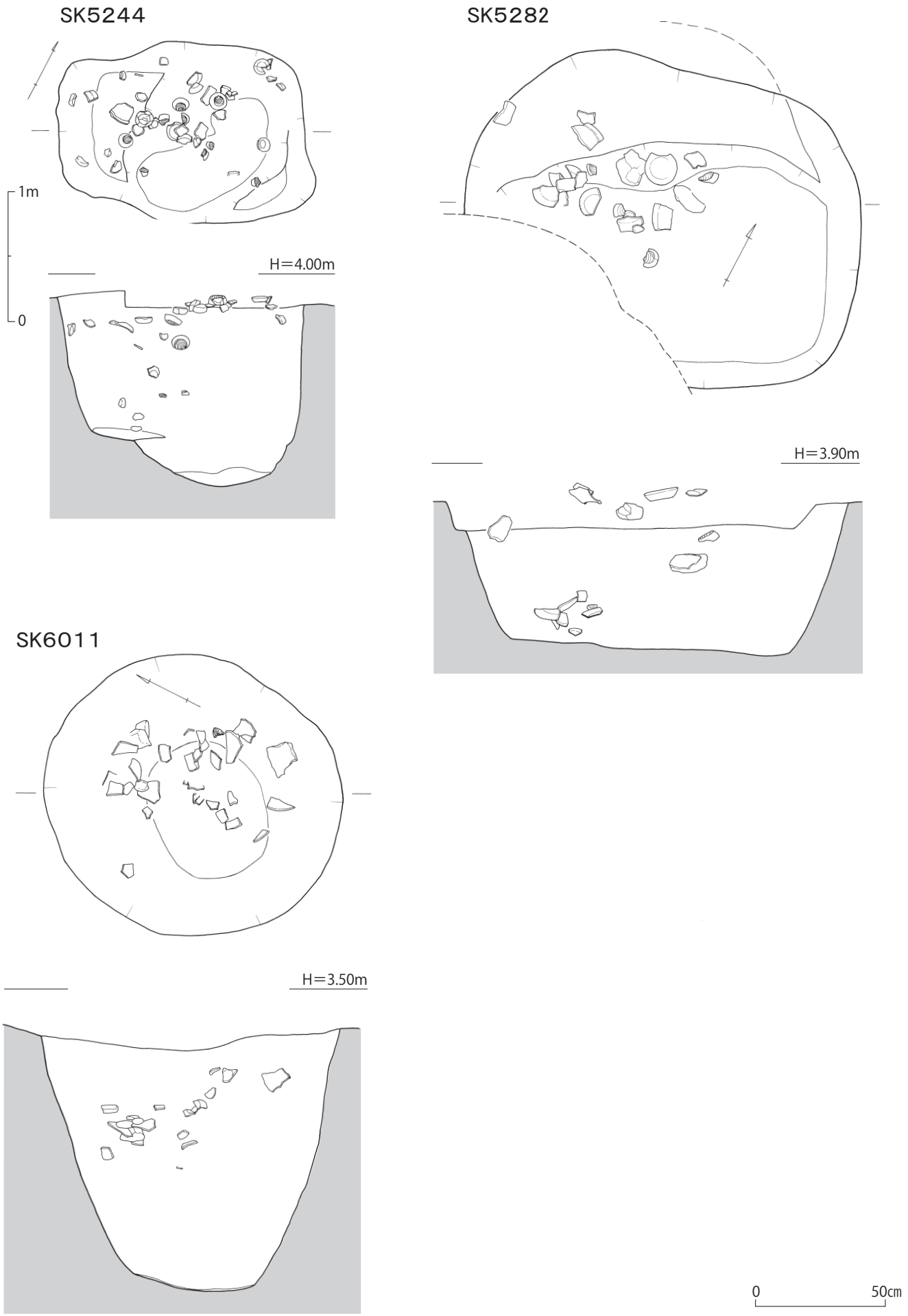
第 57 図　Ⅱ区土坑実測図 1(1/20)



第 58 図　Ⅱ区土坑実測図 2(1/20)



第 59 図　Ⅱ区土坑実測図 3(1/20・5115 は 1/40)



第 60 図　Ⅱ区土坑実測図 4(1/20・5244 は 1/40)

48 cmを測る。断面は逆台形を呈す。古墳時代の可能性がある。

SK6062（第 63 図）　調査区南東辺に位置し、SE6057 に切られる。平面形は不整楕円で主軸は N-30°-E を測る。遺存長 161 cm、深さ 92 cmを測る。8 世紀後半頃と考えられる。

SK6072（第 64 図）　調査区東側に位置する。SE5231 に切られる。平面は円形で径 143 cm、深さ 34 cmを測る。断面は逆台形を呈す。12 世紀後半から 13 世紀頃と考えられる。

4）炉

SK5281（第 64 図）　調査区北端に位置する。SE6068 を切る。平面は長方形で主軸は N-46°-E を測る。長径 146 cm、短径 123 cm、深さ 98 cmを測る。暗灰褐色土を主とする堆積の上に 116 × 85 cmの範囲で焼土面が広がり、その上に炭化物層がのる。13 世紀後半頃と考えられる。

5）柱穴

SP5151 と SP5171（図版 16　7・8）SP5151 は調査区中央、SP5171 は調査区北端に位置する。2 基とも中央の柱痕部分に焼土ブロックが詰まっていた。焼土ブロックは炉壁ではなく、土壁が被熱したものと思われ、火事等で建物が焼けた後、燃え残った柱を抜いて整地した際に焼けて崩壊した土倉の土壁が落ち込んだものと思われる。12 ～ 14 世紀頃と考えられる。

6）土壙墓・木棺墓

SK4027（第 67 図）　調査区西側に位置する。平面形は円形で径 60 cmで浅く掘り込み、その中央を径 35 cm、深さ 21 cmに掘り込む。断面は逆台形を呈す。底面直上で径 11 cm、高さ約 8 cmの蓋付きの素焼き甕が出土した。蓋の一部は割れて遺存しない。骨壺と思われるが骨は遺存していなかった。近世墓に伴うと考えられる。

SK4058（第 67 図）　調査区東隅に位置し、4059 に切られる。平面形は楕円形で、主軸はほぼ南北方向である。長径 78 cm、短径 65 cm、深さ 39 cmを測る。断面は逆台形を呈す。人骨の遺存状態は不良である。東向きの座位で、両足の間に土師皿と銅銭 6 枚が置かれていた。銅銭の端には木質痕があり、箱に納めていた可能性がある。

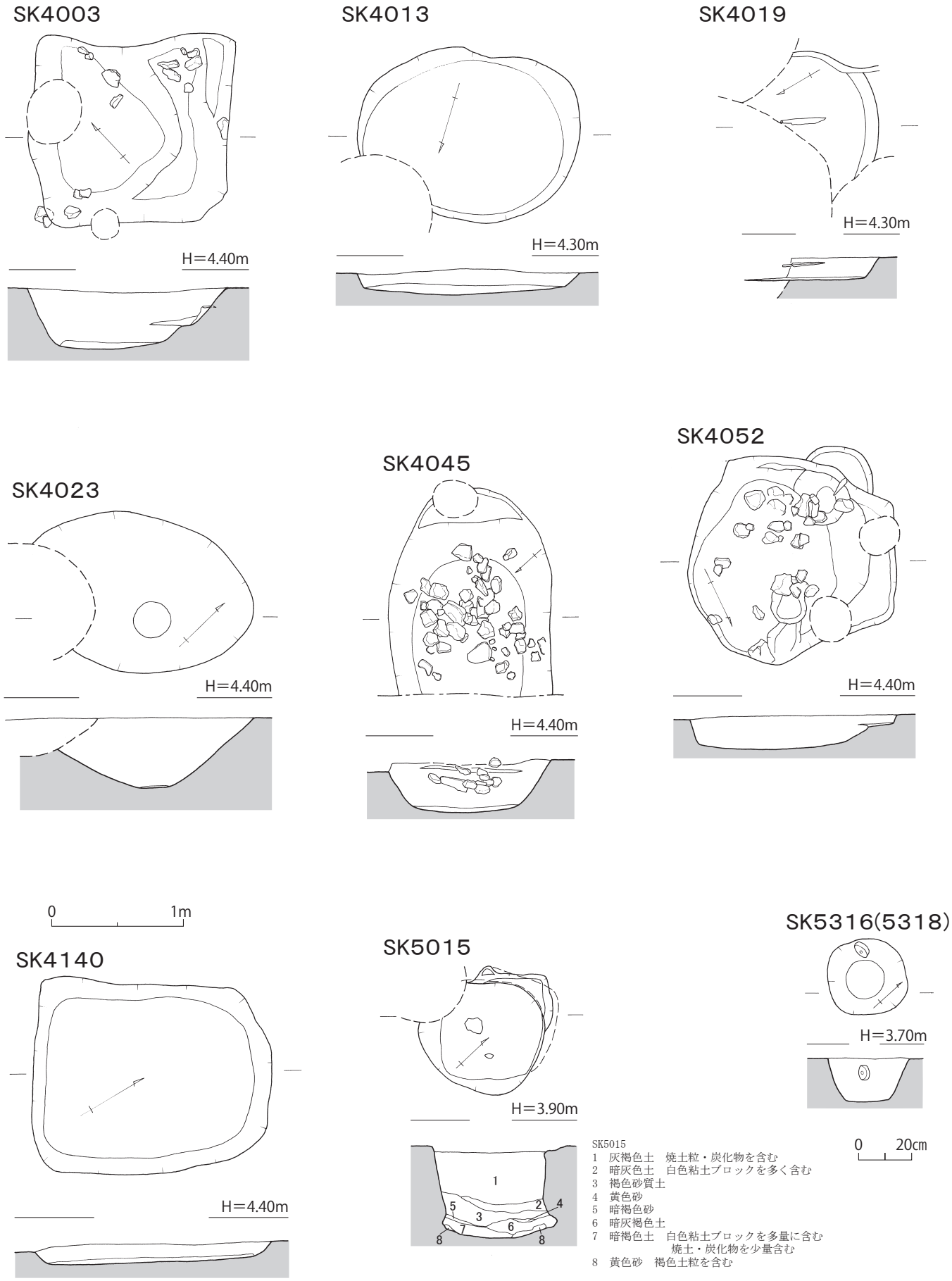
SK4064（第 67 図）　調査区南側に位置する。平面は楕円形で主軸は N-74°-E を測る。長径 112 ＋ α cm、短径 83 cm、深さ 23 cmを測る。周囲に礫を置き、その中央で人骨が出土した。骨の遺存は悪い。頭位は西で、顔の向きは不明である。膝を折り曲げた屈葬と思われる。銅銭が複数枚と鉄製毛抜きが出土した。

SK4106（第 68 図）　調査区東端に位置する。平面は不整楕円形で長径 170 cm、深さ 48 cmを測る。骨片の他、銅板と鉄板、赤漆がつく木質痕が出土した。

SK4107（第 67 図）　調査区東側に位置し 4106 に切られる。平面は南北に長い不整楕円形を呈す。寛骨から脛骨までは原位置を保っており、体は南東向きで足は軽く胡座をかき、両手も足首近辺でそろえていたと思われる。頭骨はズレて下顎が下まで落ちていることから土層ではなく座棺等による埋葬である。副葬品は土師坏が体正面の足の前に、銅銭が右肘の上で布らしき残片と共に出土した。

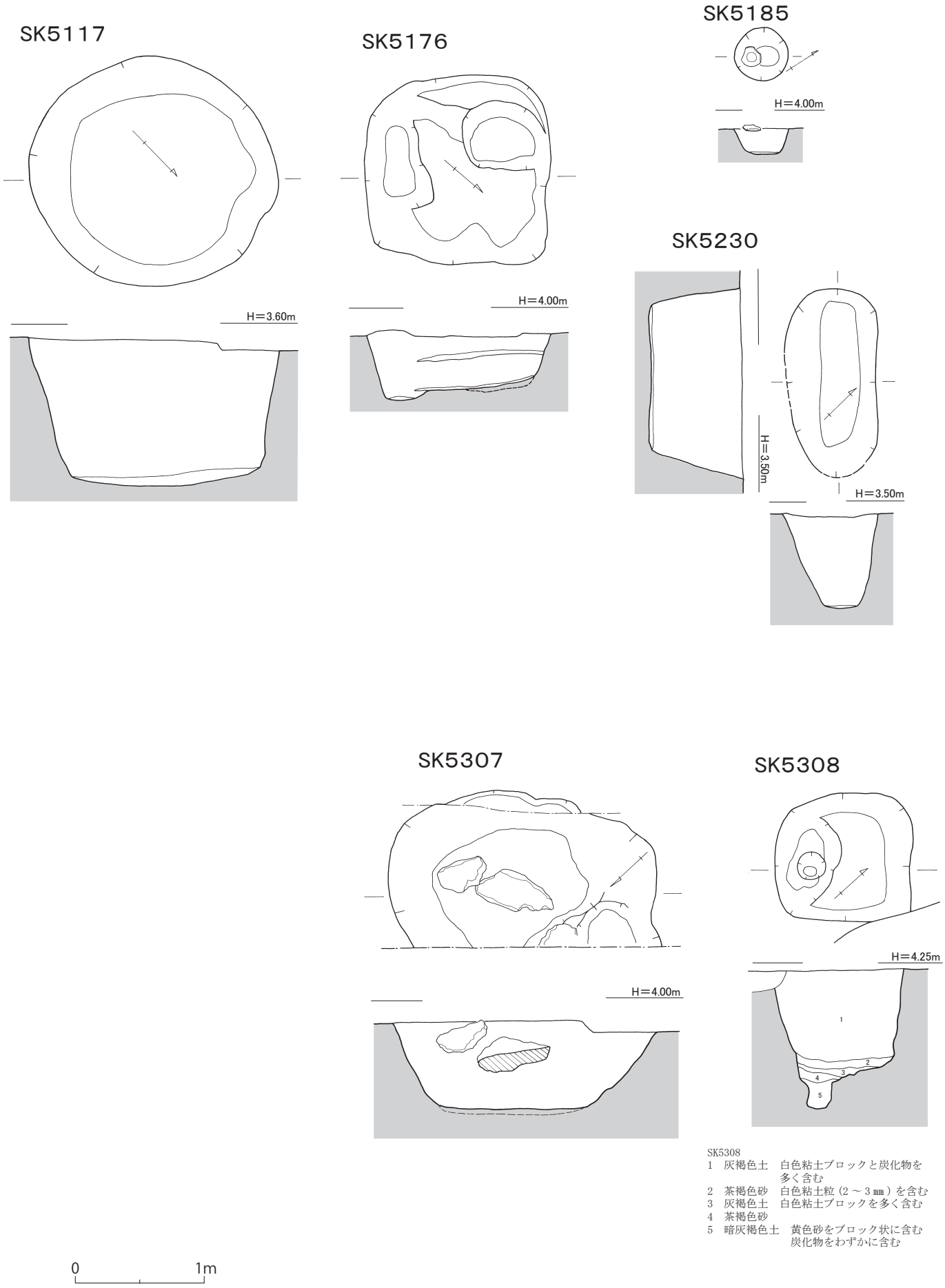
SK4147（第 68 図）　調査区南東辺中央に位置する木棺墓である。遺存状態は悪い。西向きで膝を立てた座位である。副葬品は確認できなかった。

SK4148（第 68 図）　調査区南端に位置する。平面形は円形と思われる。人骨が出土するまで掘方に気づかず、東側半分は掘り下げた。骨の遺存状態は悪く、姿勢等は不明である。

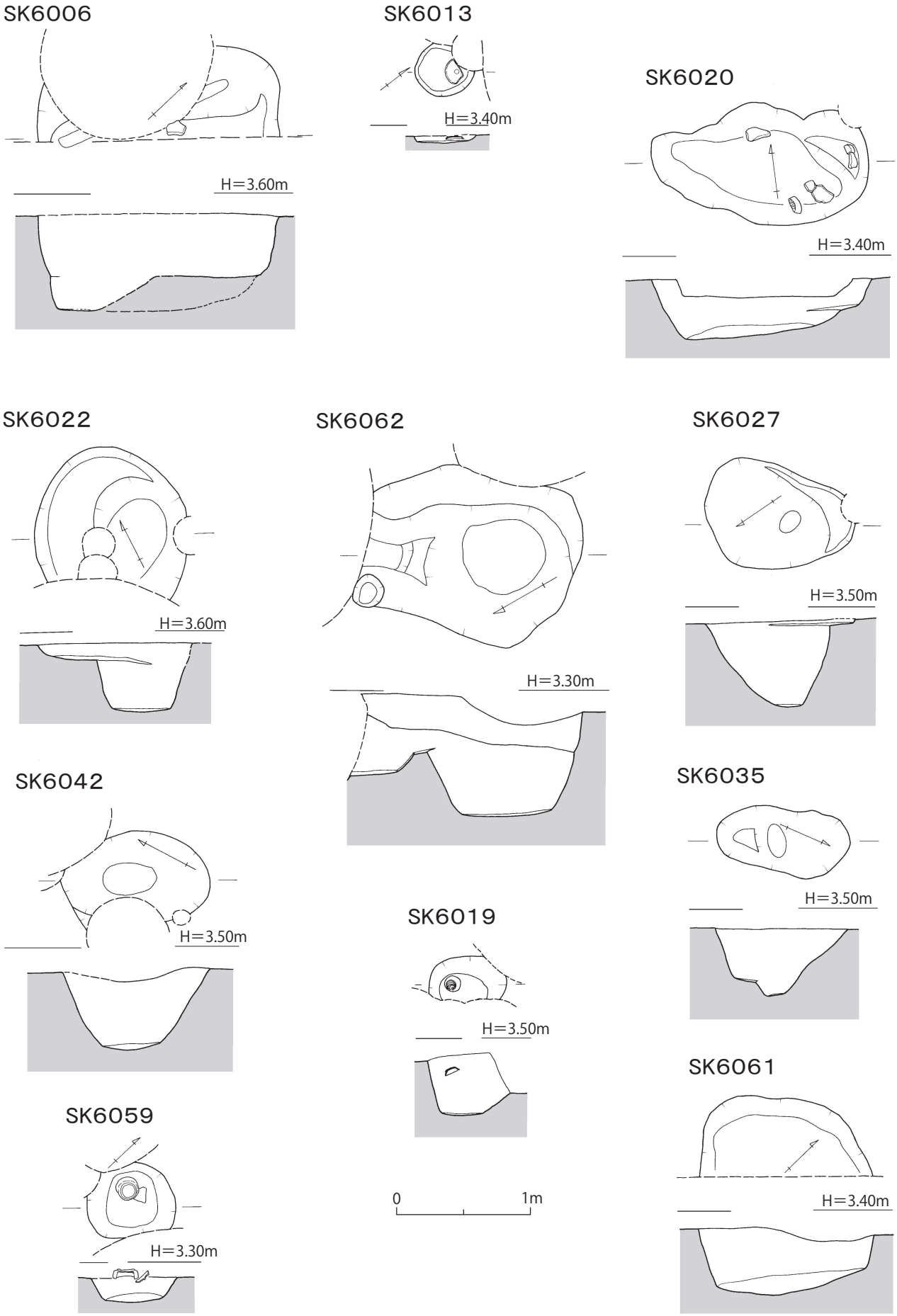


SK5015
1　灰褐色土　焼土粒・炭化物を含む
2　暗灰色土　白色粘土ブロックを多く含む
3　褐色砂質土
4　黄色砂
5　暗褐色砂
6　暗灰褐色土
7　暗褐色土　白色粘土ブロックを多量に含む
　　焼土・炭化物を少量含む
8　黄色砂　褐色土粒を含む

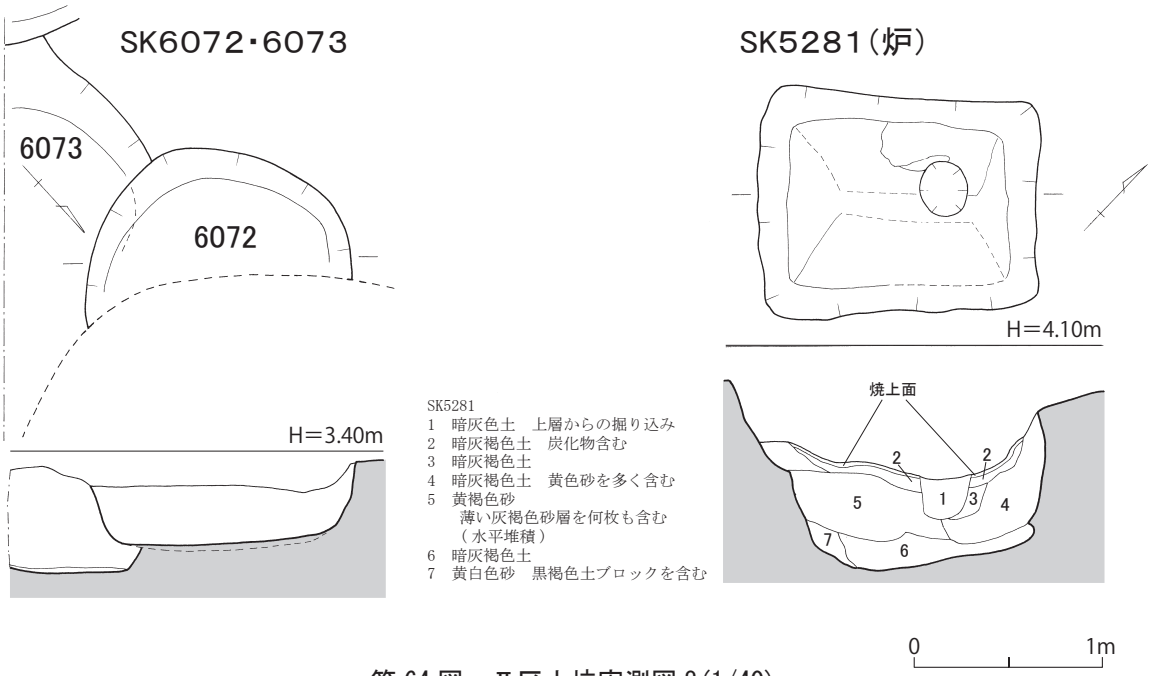
第 61 図　Ⅱ区土坑実測図 5(1/40・5316 は 1/20)



第62図　Ⅱ区土坑実測図6(1/40)



第 63 図　Ⅱ区土坑実測図 7(1/40)



第 64 図　Ⅱ区土坑実測図 8(1/40)

SSK4157(第 68 図)　調査区南端に位置する木棺墓である。掘方は明確ではない。遺存した骨から座位で西を正面とし、足を開き膝を立てている。銅銭が 3 枚程出土した。

SK5313(第 68 図)　調査区南東辺中央に位置する。平面は楕円形で主軸はN-42°-E を測る。長径 60 ㎝で底面から 30 ㎝程上で、25 × 15 ㎝の範囲に骨片がまとまって出土した。

7) 近世甕棺墓　調査区の東側縁部に集中しており、10 基出土した。甕はいずれも上半が削平されて口縁部がないため時期は不明である。

SK4093(第 69 図)　人骨の遺存状態は比較的良好であるが、頭蓋骨は削平されたのか遺存していない。北側を向いて埋葬されている。副葬品はない。

SK4094(第 69 図)　人骨の遺存状態は良好であるが､腐敗の過程で右側に崩れ落ちており、原位置を保つ骨は少ない。体は北西をむいて埋葬されている。底の上に粘土を置き、その上に径 60 ㎝の円盤状の板を敷く。板は中央に方形の穴があり、何らかの再利用品と思われる。足の下から銅銭が出土した。

SK4095(第 69 図)　人骨の遺存状態は悪いが、寛骨の位置から埋葬時に東を向いて埋葬されている。副葬品はない。

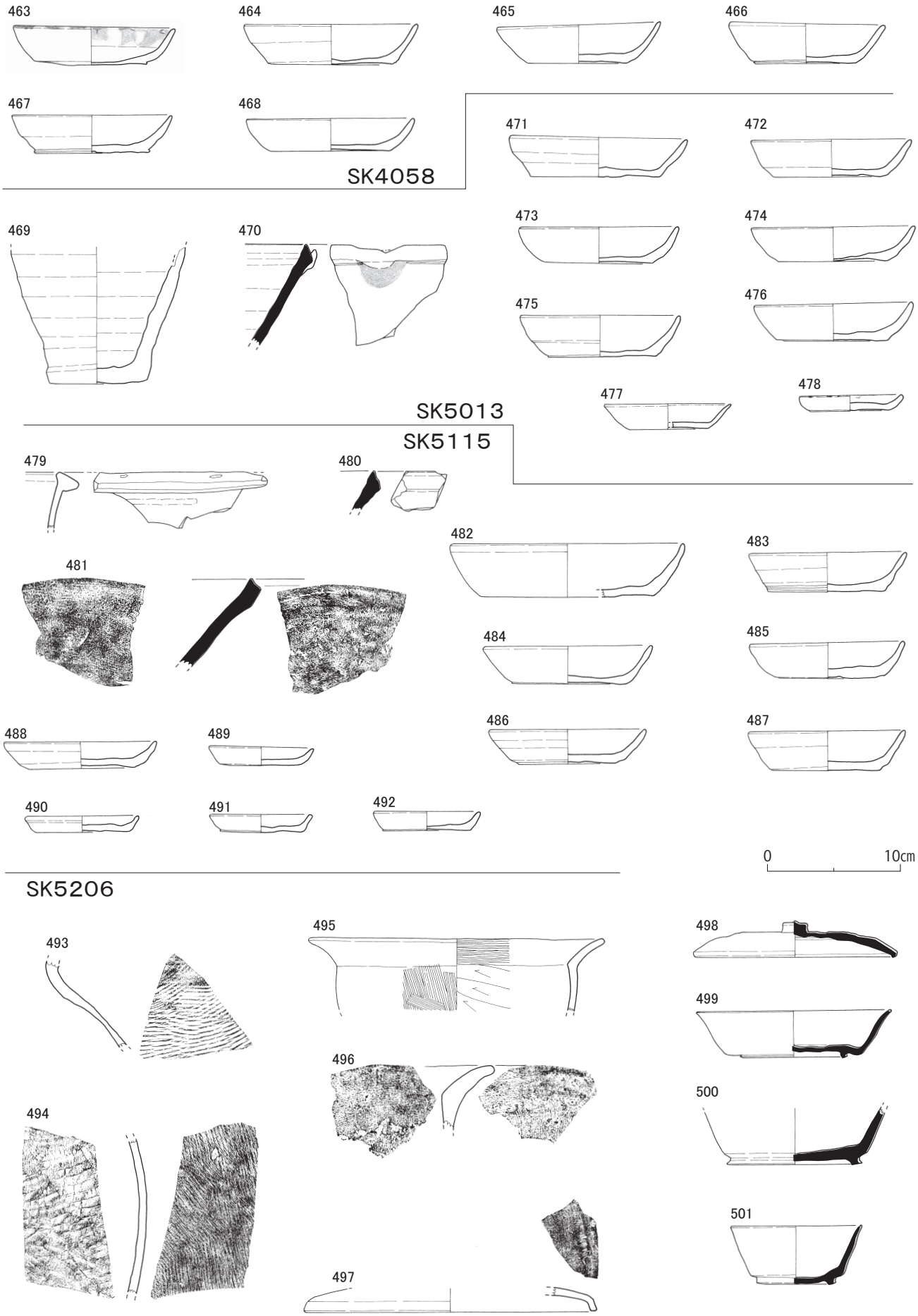
SK4101(第 70 図)　人骨の遺存状態は比較的良好であるが、寛骨から上は崩れ落ちて原位置を保っていない。埋葬時には南東を向いて埋葬されている。大腿骨と脛骨・腓骨が並行で接しており、正座に近い姿勢と思われる。副葬品は銅銭、キセル、木櫛が出土した。

SK4105(第 70 図)　人骨の遺存状態は良好である。南東を向き、胡座をかいた状態で埋葬されている。木質痕があり、赤漆らしき粉が底に落ちていた。

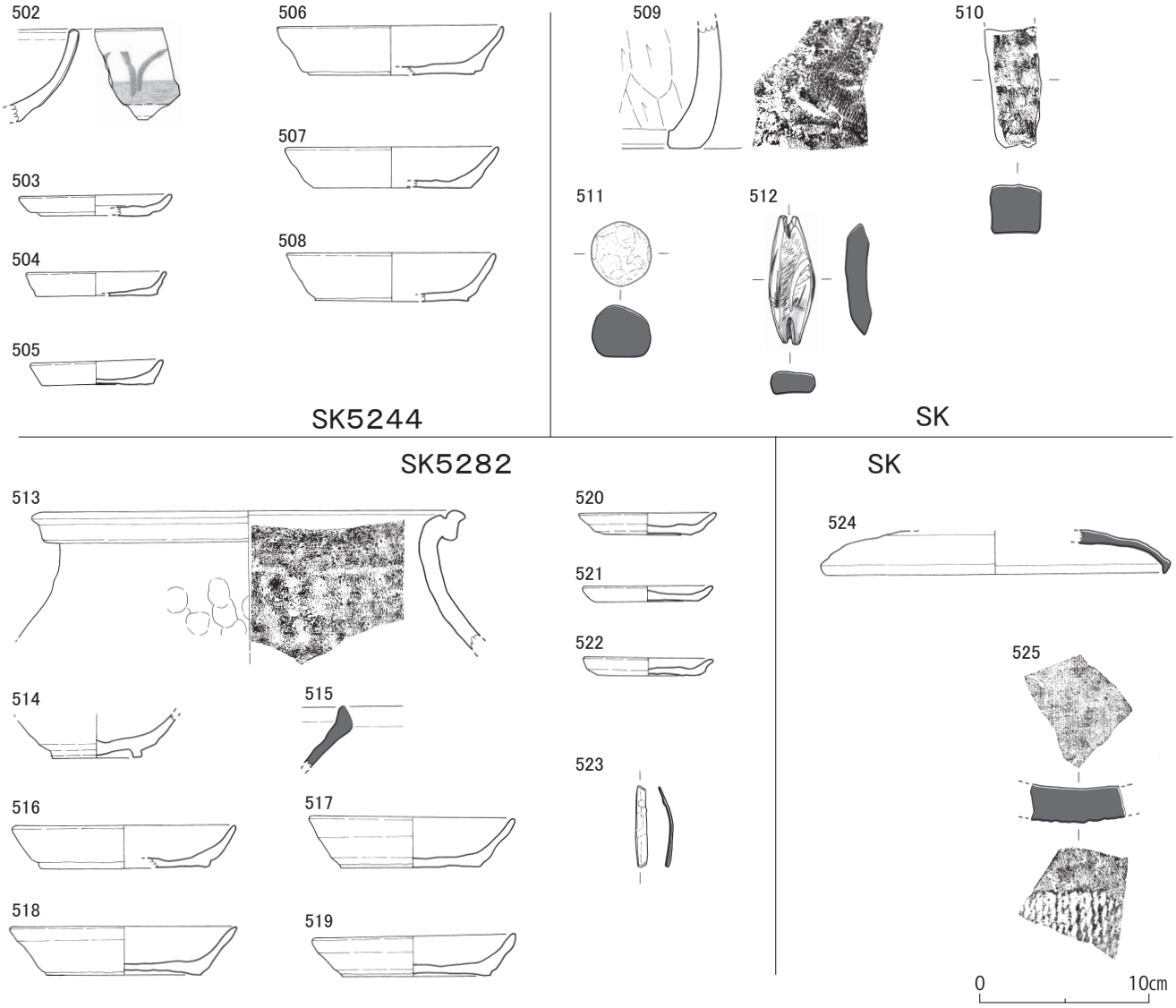
SK4152(第 71 図)　人骨は頭骨の一部と左右大腿骨のみ出土した。南東を向いて埋葬されている。副葬品は腰の位置に白磁椀が 1 点と　椀の上に白磁皿を重ねたものが出土した。

SK4153(第 70 図)　東半が調査区外である。ほとんどの骨が原位置を保っていないが、寛骨の位置から南を向いていた可能性が高いと思われる。

SK4154(第 71 図)　東半が調査区外である。骨が原位置を保っておらず、埋葬方向などは不明である。青銅製のキセルが出土した。



第 65 図　Ⅱ区土坑出土遺物実測図 1(1/4)



第 66 図　Ⅱ区土坑出土遺物実測図 2(1/4)

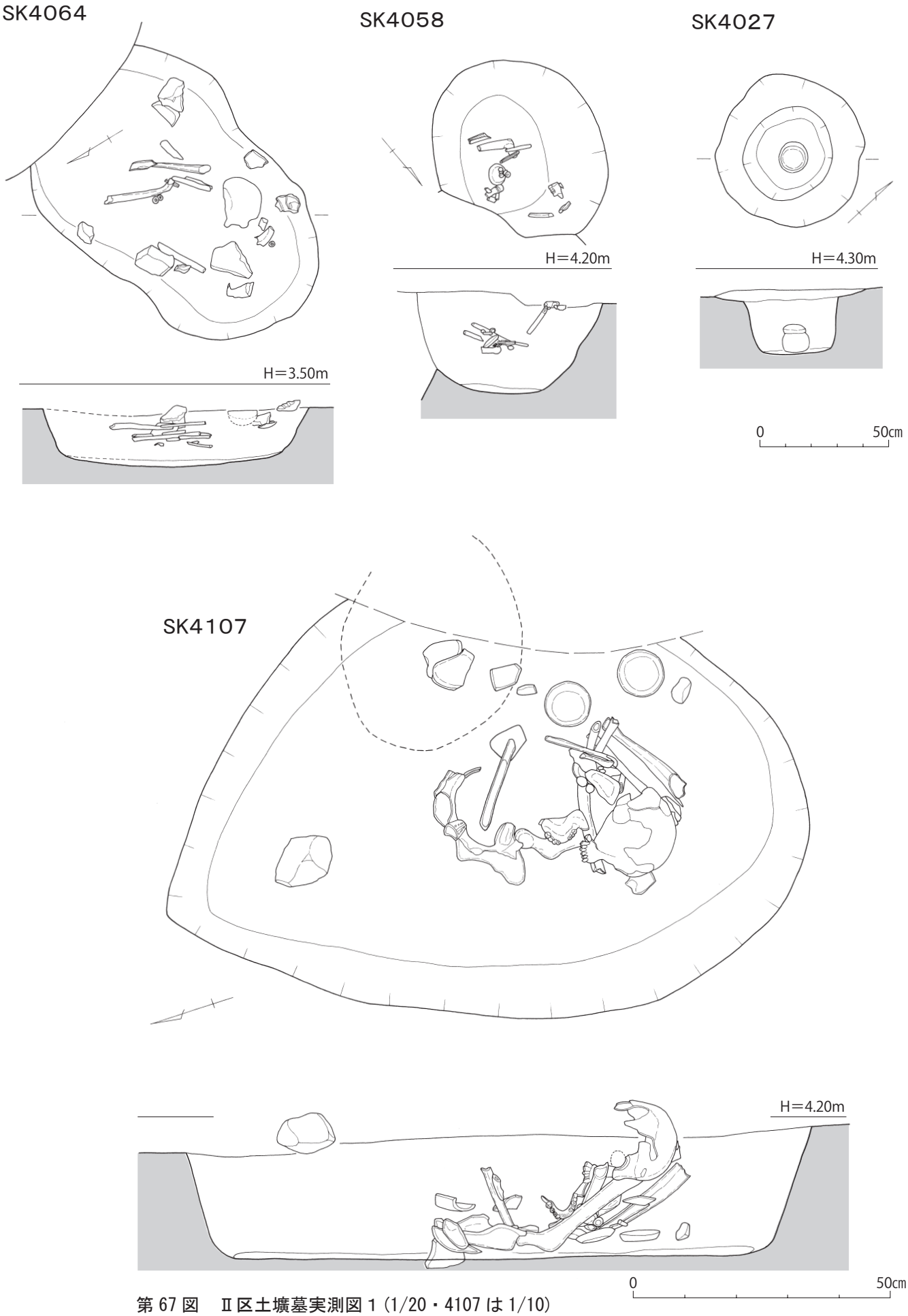
SK4155（第 71 図）　頭骨の一部と四肢骨の一部が出土した。東向きで胡座をかいた姿勢で埋葬されたと思われる。銅銭とキセルが出土した。

SK4156（第 71 図）　骨は寛骨と両脚、左腕、頭骨と椎骨の一部が出土した。南側を向いて埋葬されている。副葬品は左上の肘の上で銅銭とキセル吸口が出土した。

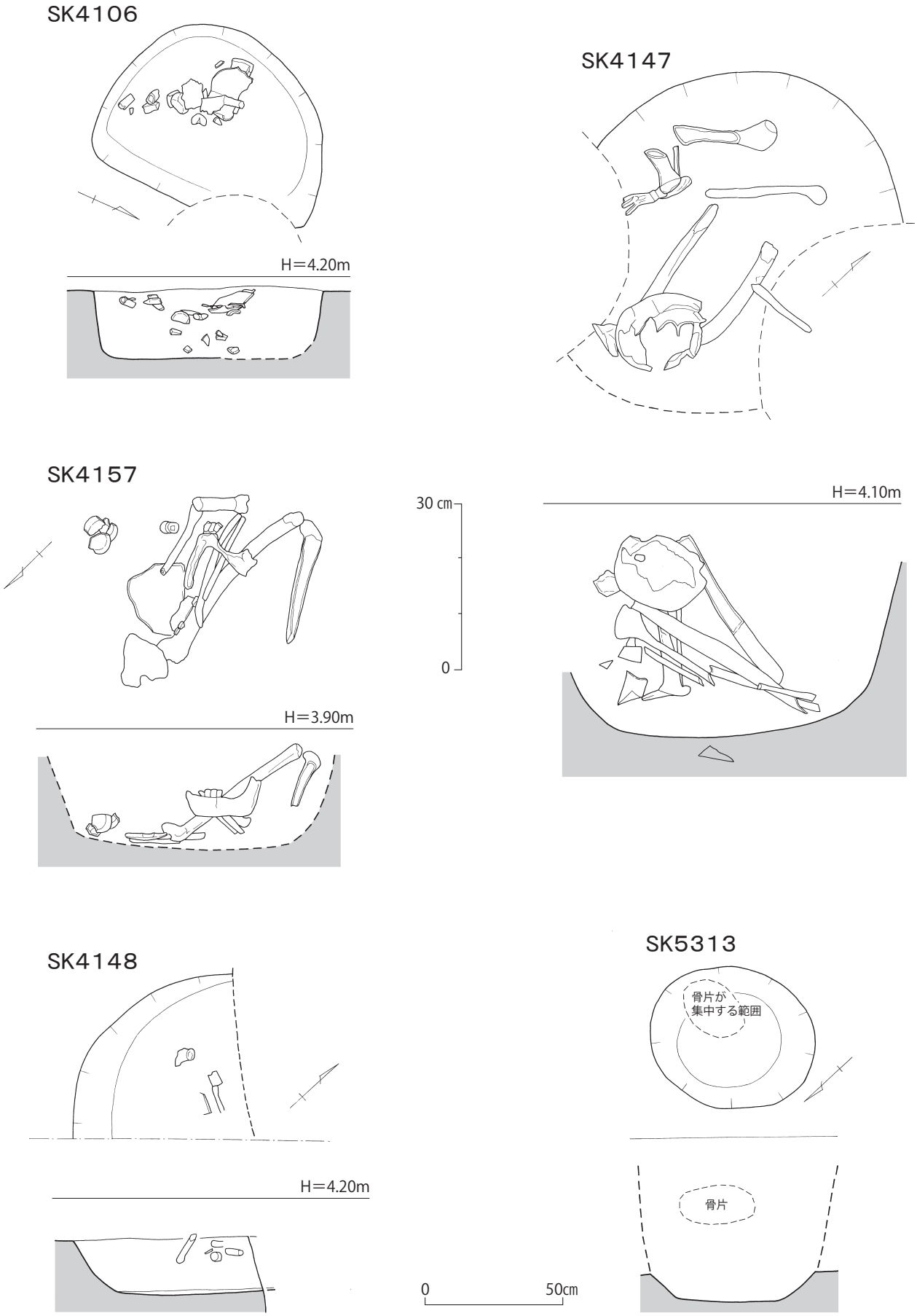
8) その他の遺物

(1) 板碑（第 72 図）　表土剥ぎ中に出土した。高さ 92 ㎝、最大幅 46 ㎝、厚さ 18 ㎝を測る。安山岩製のほぼ自然石で文字が掘られた部分のみ整形して平坦にしている。表面に細かな傷が多く見られ、文字は判別しづらい。上部に大日如来の種子を掘り、下には 4 行に分けて『謹（為）祖〇上坐　〇石（卒）〇婆（奉）　安遺骨（有）（永 or 正）徳元年六月十八日』と刻まれている。永徳元年なら西暦 1381 年、正徳元年なら 1711 年である。近世墓に伴うとすれば正徳元年の可能性が高いが、1381 年には承天禅寺もしくは聖福寺の寺域内に入っており、この様な石碑が建てられる可能性はあるものと思われる。文字の位置が上側 3/4 を占めるため、文字から下の部分を埋めても倒れる可能性が高い。固定するための石組み等と組み合わせていたものと思われる。

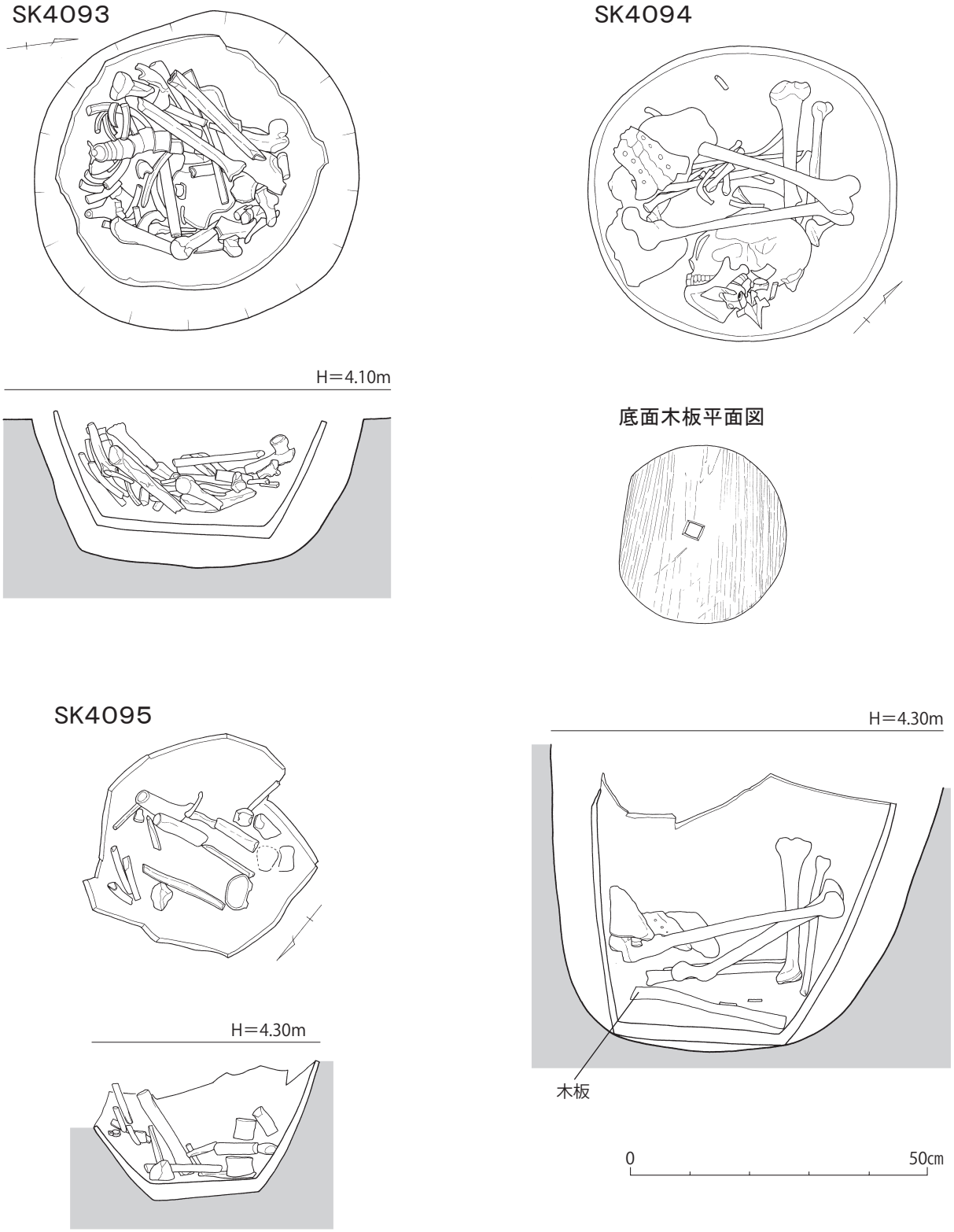
(2) 墓石（第 73・74 図）　表土剥ぎ中に 23 点出土した。年号が刻まれた 21 点の略図を記



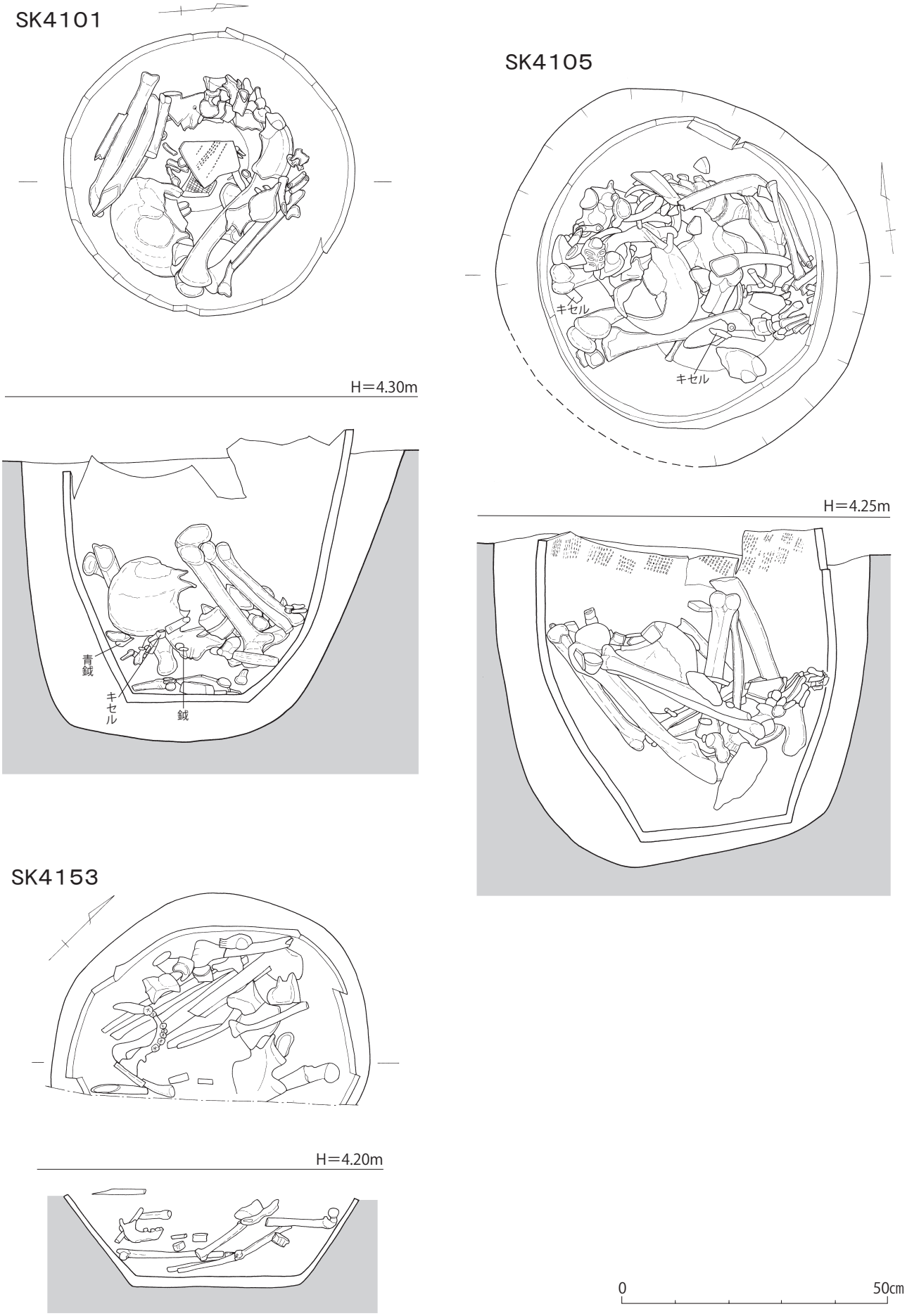
第 67 図　Ⅱ区土壙墓実測図 1 (1/20・4107 は 1/10)



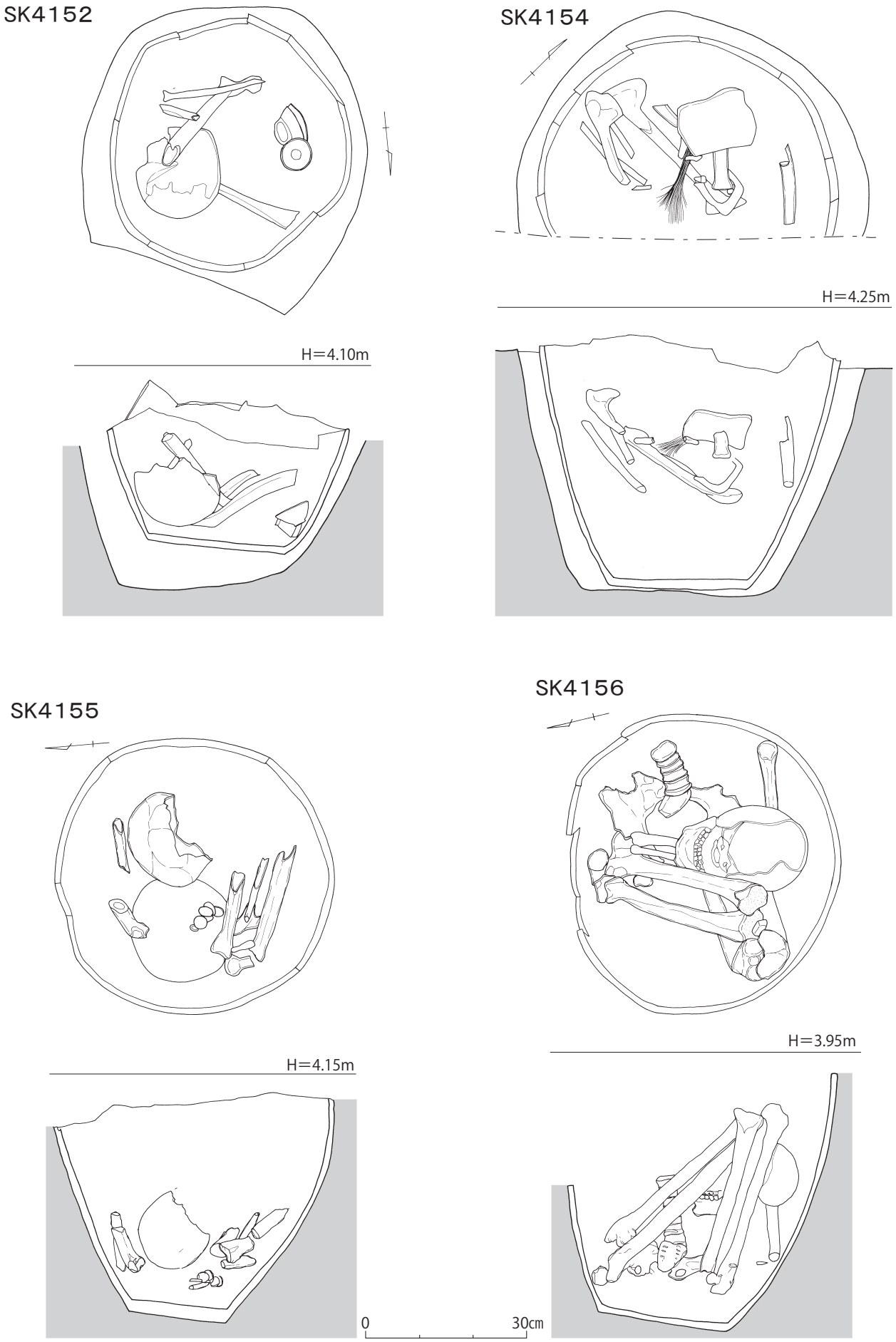
第 68 図　Ⅱ区土壙墓実測図 2(1/20・4147 と 4157 は 1/10)



第 69 図　近世甕棺墓実測図 1(1/10)

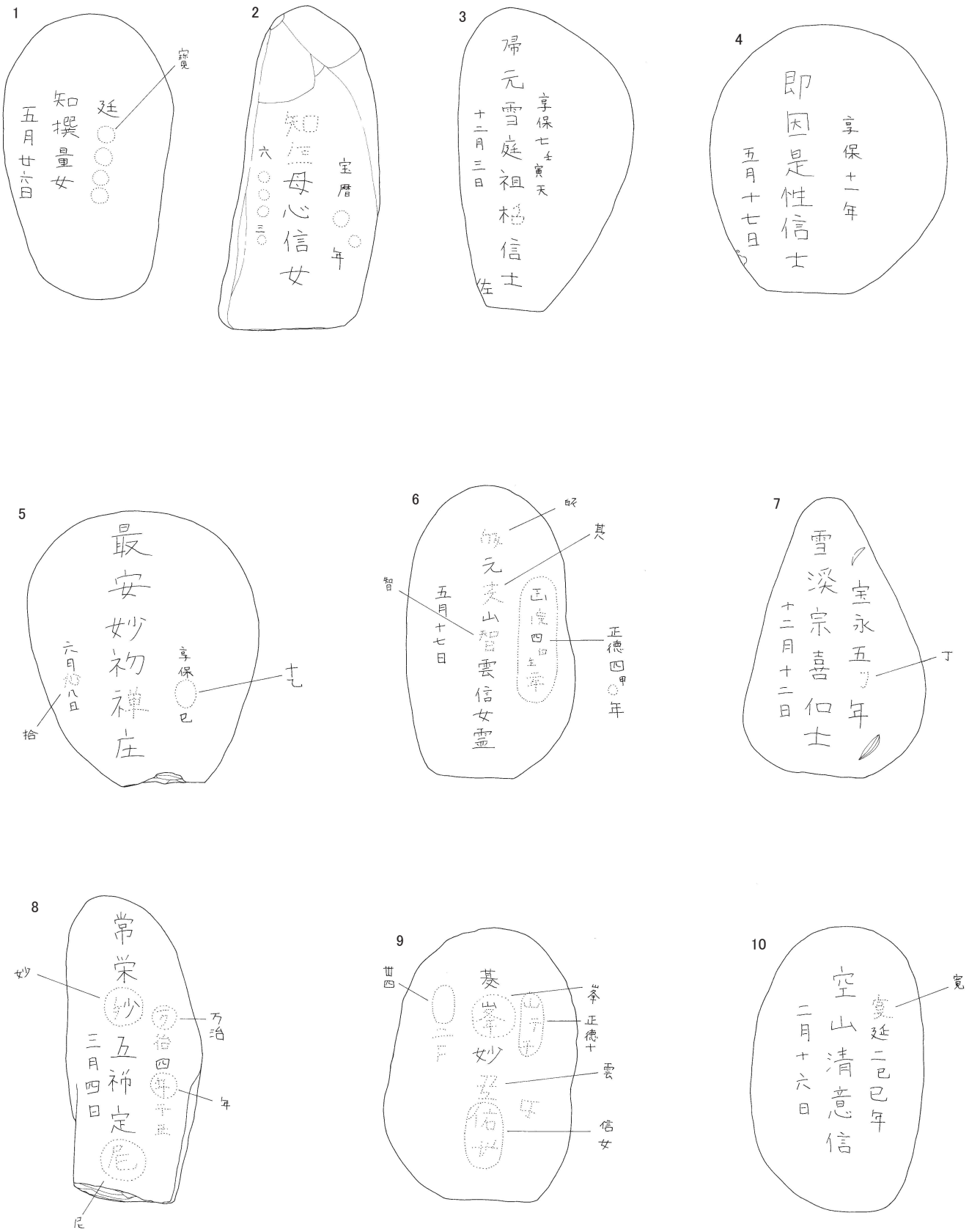


第 70 図　近世甕棺墓実測図 2(1/10)

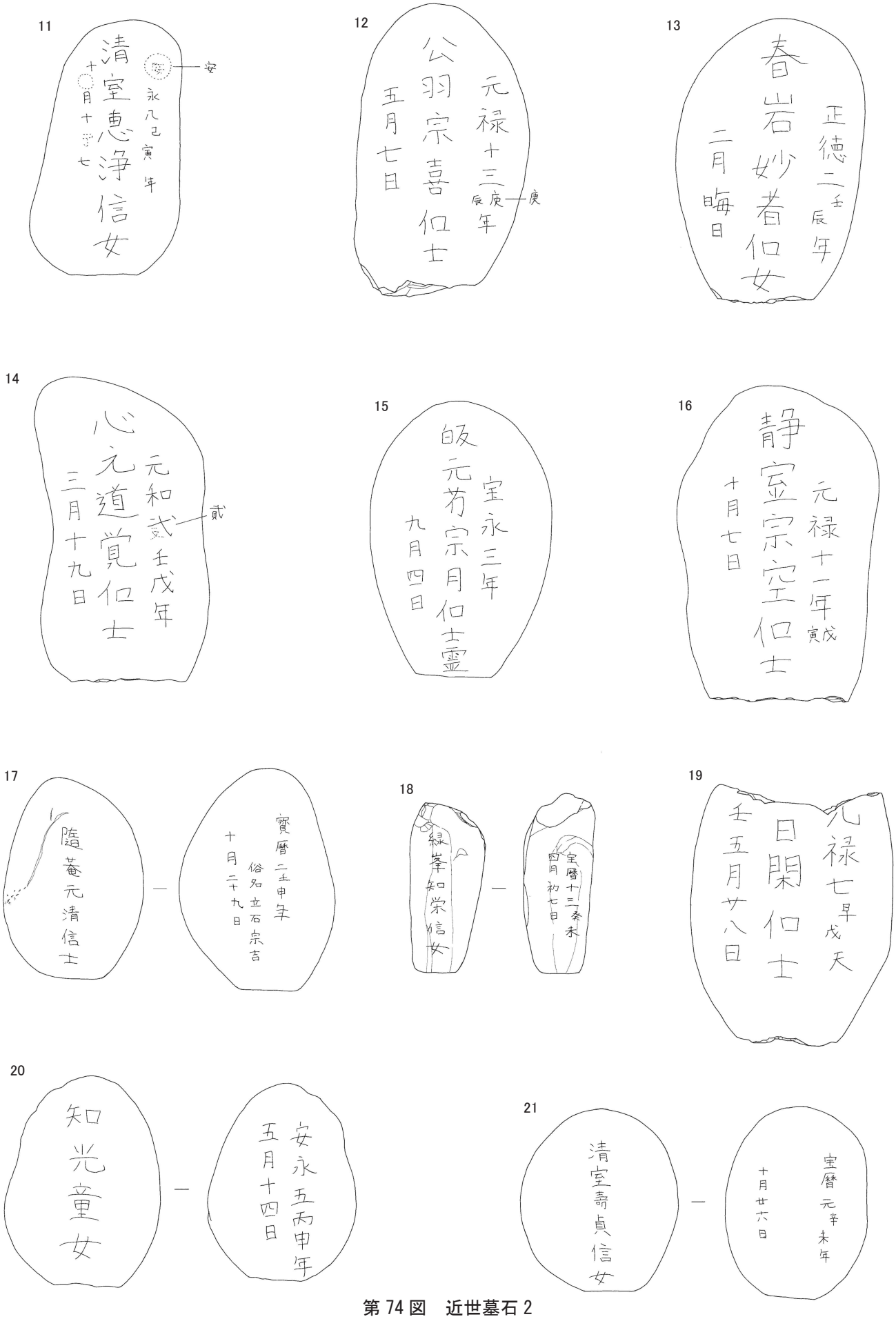


第 71 図　近世甕棺墓実測図 3(1/10)

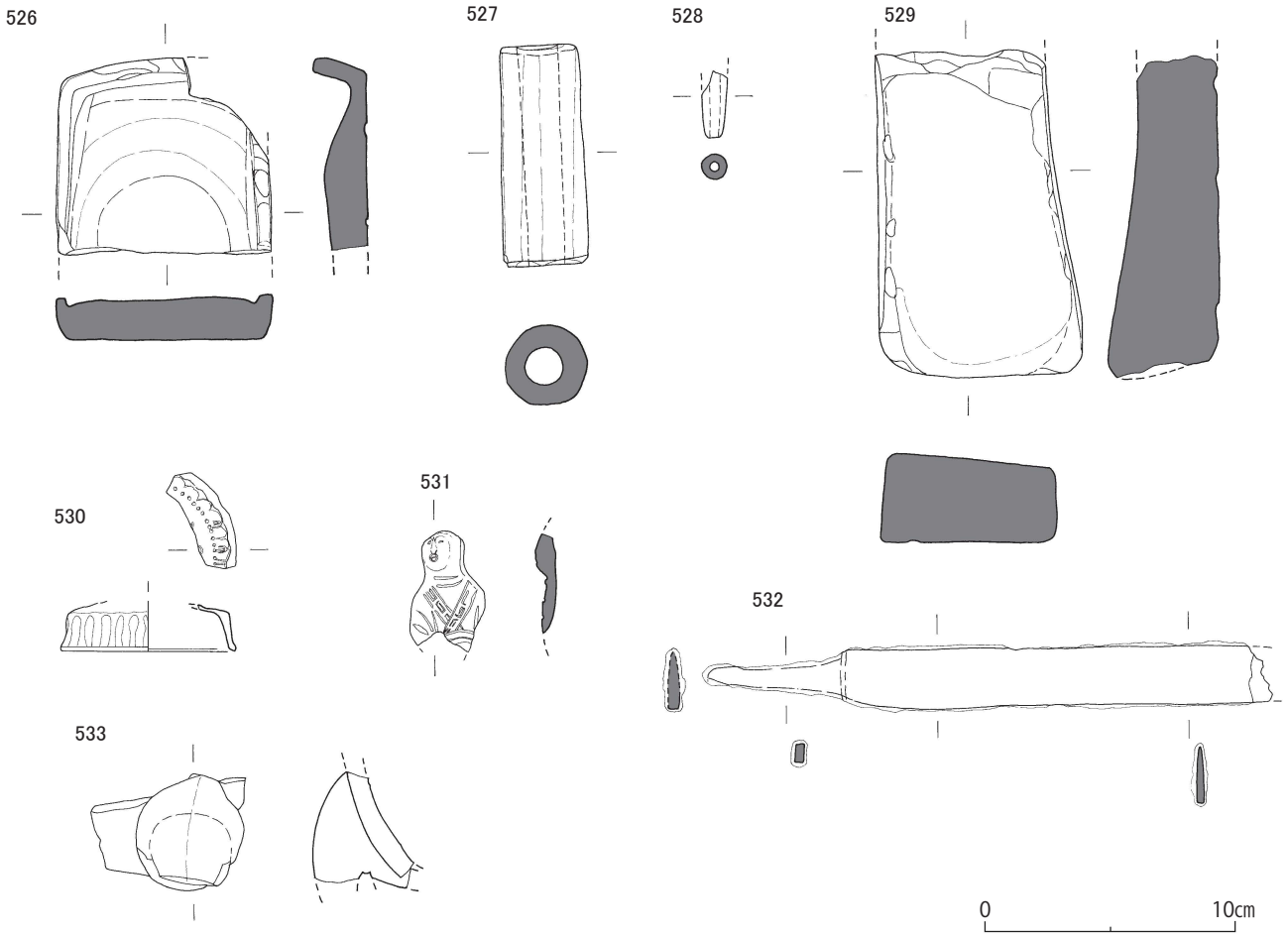
第 72 図　板碑線刻文字拓本 (1/2)


1
知撰量女
五月廿六日
延
寛
2
知恵母心信女
六
宝暦
年
3
享保七寅天
帰元雪庭祖梅信士
十二月三日
佐
4
享保十一年
即因是性信士
五月十七日
5
最安妙初禅庄
六月
享保
巳
十七
拾
6
元叉山智雲信女
五月十七日
智
正徳四甲
年
7
宝永五
年
雪渓宗喜仏士
十二月十二日
丁
8
常栄
妙
五祥定
三月四日
万治
年
9
世四
妙
正徳十
雲
信女
10
寛延二巳年
空山清意信
二月十六日
寛

第 73 図　近世墓石 1


11
清室恵浄信女
永九己寅年
十月十七
安
12
公羽宗喜仏士
元禄十三庚辰年
五月七日
庚
13
春岩妙者仏女
正徳二壬辰年
二月晦日
14
心元道覚仏士
元和弐壬戌年
三月十九日
弐
15
元芳宗月仏士霊
宝永三年
九月四日
16
静室宗空仏士
元禄十一年戊寅
十月七日
17
隨菴元清信士
寶暦二壬申年
俗名立石宗吉
十月二十九日
18
緑峯知栄信女
宝暦十三癸未
四月初七日
19
日関仏士
元禄七甲戌天
壬五月廿八日
20
知光童女
安永五丙申年
五月十四日
21
清室壽貞信女
宝暦元辛未年
十月廿六日

第74図　近世墓石2



第 75 図　その他の出土遺物 (1/3)

(2) 墓石 (第 73・74 図)　表土剥ぎ中に 23 点出土した。年号が刻まれた 21 点の略図を記載した。判別できない文字も多いが推定したものを加えると最も古いものが元和二年 (1616 年)、新しいのが安永 8 年 (1779) である。近世甕棺墓や土壙墓等に伴うと考えているが、79 図の絵図では寺院の境内もしくは畑として描かれており、墓はみられない。墓は省略されている可能性もあるが、筑前名所図会の完成が 1821 年で、最も新しい墓石と 40 年程間が空くため、その間に墓が廃絶して畑となった可能性も考えられる。

(3) 土器・石製品・鉄製品 (第 75 図)　526 は砂岩製風字硯である。灰茶褐色を呈し、幅 8.6 ㎝を測る。墨池は狭くわずかに墨痕が残る。全体にかなり丁寧な加工を施している。中国製と思われる。SX2181 から出土した。527・528 は土錘である。527 は 2165 と 2166 の一段下げで出土した。長さ 8.7 ㎝。径 3.1 ㎝を測る。径 1.5 ㎝の棒に粘土を巻き付けて成形し、表面は粗いミガキを施す。529 は砥石で淡い橙白色を呈す。530 は白磁合子蓋、531 は土製人形、532 は小刀で現状 22.6 ㎝を測る。533 は白磁片で鼎状の脚付根部分と思われる。後図化できなかったが SK2173 では赤間石と思われる硯の原石が出土した。現在赤間産の硯とされるものも博多遺跡内で加工された可能性がある。調査区内では廃滓土坑が多く見られ、硯も含めて承天禅寺に属する工房群が存在した可能性が高いと思われる。

5　動物遺存体

表 1 に記載した動物遺存体が出土した。調査の規模からすると量は少ないが、これは古く

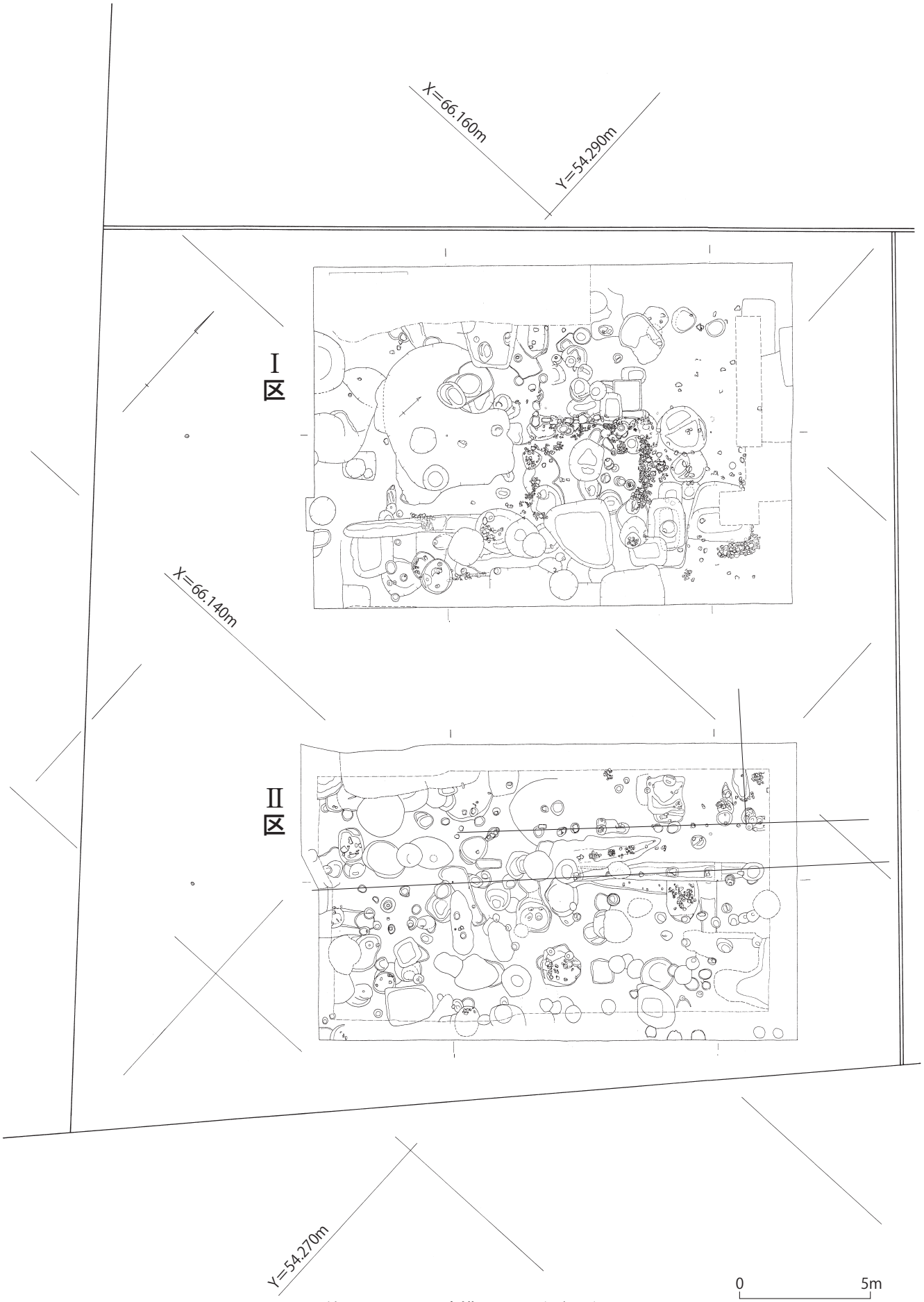
表1　動物遺存体一覧

	地区	遺構番号	大分類	小分類	部位名	左右	部分1	部分2	成長度	切痕	火熱	備考	時代
001	2181	下層	哺乳類	イノシシ	歯1本		右上顎M3	歯冠のみ	弱獣	無			
002	4001		魚類	サメ・エイ類	椎骨		椎体のみ		径3．2cm	側面に切痕	不明		
003	4001		哺乳類	ウシ・ウマ	長骨		骨端海綿体のみ		不明	不明	不明		
004	4003		哺乳類	イルカクジラ類	頭蓋骨		吻部	小片	不明	無	無		16C
005	4022		哺乳類	イルカクジラ類	椎骨		椎体のみ	下側一部欠損	前後関節見骨化	不明	不明	遺存不良	
006	4050		篦甲製品？		篦								
007	5001	井筒C	哺乳類	イルカクジラ類	椎骨		関節面の一部のみ		化骨化済み	不明	不明		13C中頃～14C
008	5004		哺乳類	ウマ	歯1本		左？上顎	周囲エナメル欠損	歯冠高4.5cm強	不明		細片化	13C中頃～14C
009	5045		哺乳類	イルカクジラ類？	歯		歯根部？					細片化	
010	5059		哺乳類	イルカクジラ類	不明				不明	無	無	細片化	13C後半～14C
011	5059		哺乳類	クジラ類	下顎		下顎体のみ				無		13C後半～14C
012	5114	井筒	哺乳類	イルカクジラ類？	不明				不明	無		小片5点	13C後半～14C前半
013	5117		哺乳類	ウマ	歯1本		左上顎	周囲エナメル欠損	歯冠高6cm強	不明		遺存不良	14世紀後半
014	5211		鳥類？	不明	長骨		不明		不明	不明		小片1点	14世紀後半
015	5281・5320		哺乳類	イルカ類	椎骨		椎体のみ	側面一部欠損	化骨化済み	無			13C後半～14C前半
016	Ⅰ区	1面検	鳥類	ニワトリ？	上腕骨	右	遠位部		不明	無	無		14C～近世
017	Ⅰ区	1面検	鳥類	不明	大腿骨		幹部		不明	無	無		14C～近世
018	Ⅱ区	1→2面掘り下げ西側	哺乳類	イルカクジラ類	椎骨		椎体のみ	表面剥落	関節面未骨化	不明	不明		12C～15C
019	Ⅱ区	1→2面掘り下げ北側	魚類	タイ類	血管間棘？					不明	白色化	遺存不良	12C～15C
020	Ⅱ区	1→2面掘り下げ		クジラ類	椎骨		椎体のみ	側面一部欠損	化骨化済み	不明	無	全長10．5cm	

から寺院境内であったためであろうか。いずれも食料として多く利用される種であるが、ウマは他の調査地点で埋葬と思われる出土例があり、008・013 とも肉として利用したかは不明である。海棲哺乳類のイルカ・クジラ類が多く出土しているが、これは当時イルカやクジラは魚類とされ、陸上哺乳類に比べて穢れが少ないと考えられていたためであり、博多遺跡全体で 13 世紀以降は出土する哺乳類の中のイルカ・クジラ類の割合が増加している。また、下顎や歯など頭蓋骨ごと持ち込まれたと思われるものがあり、肉だけではなく油脂として灯明油などに利用された可能性がある。魚類はサメ・エイ類が 1 点、タイ類が 1 点出土している。どちらも食料として多く利用される種である。鳥類はニワトリの可能性がある上腕骨の遠位部が 1 点出土している。解体痕や被熱痕はみられない。

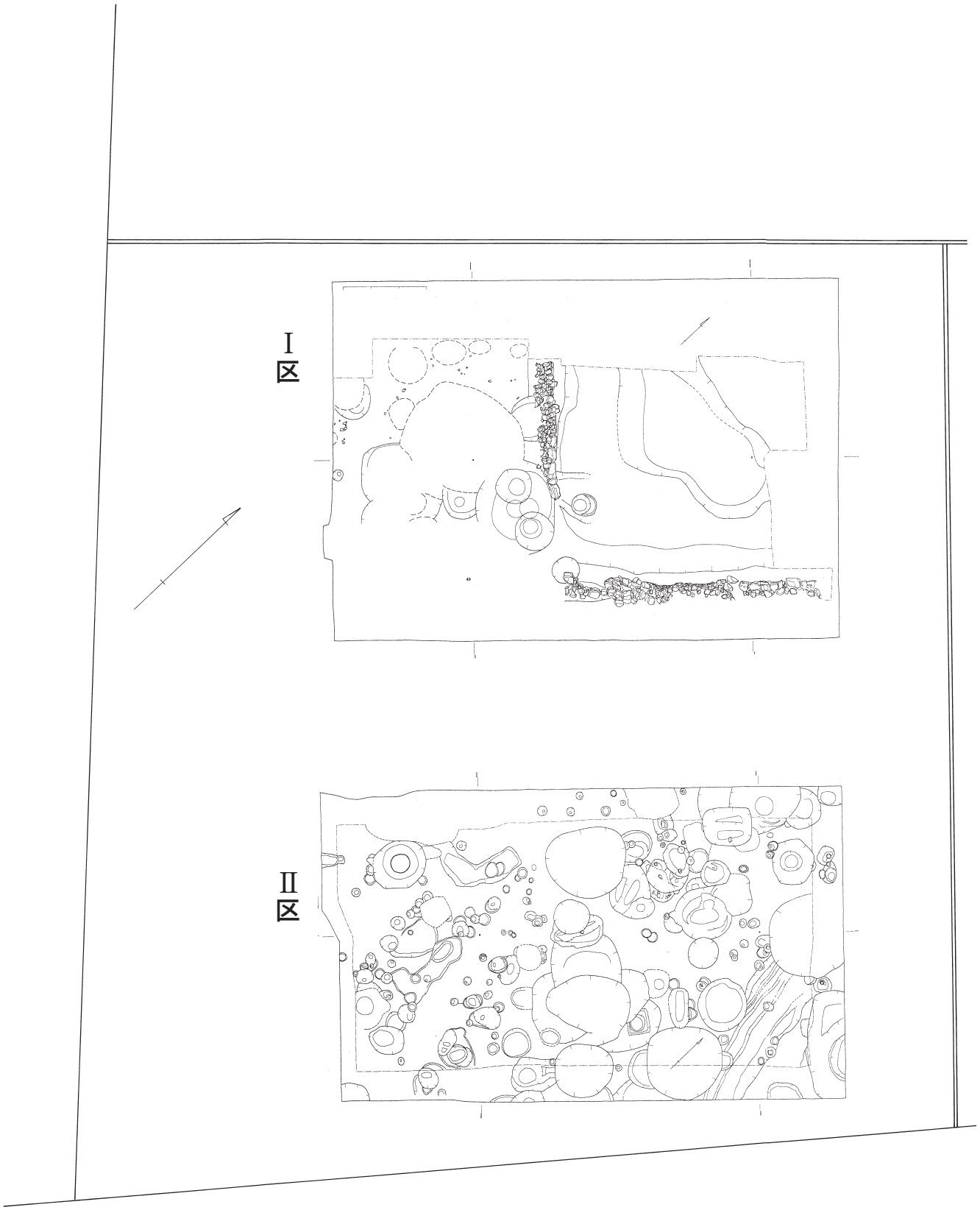
6　小結

弥生時代中期～近代まで多種多様な遺構と遺物が出土した。遺構は遺物が出土した遺構だけで 900 基程もあり、それから出土した遺物は薄手のコンテナケースで 1000 箱を数えるが、今回報告できたのはそのうちの一部のみである。今回の調査で確認した遺構は弥生時代中期が最も古い。中世の井戸等により砂丘面の多くが削られているが、遺存部分で検出した SK3001 は竪穴式住居の可能性があり、SK3002 は器台に甕片を被せる特殊な出土状況で祭祀関連と思われる。後世の遺構からは多くの弥生時代中期の遺物が出土しており、本来は多くの遺構が存在したものと思われる。その後、弥生時代後期から 6 世紀前半の遺物はほとんど無く、6 世紀後半～ 7 世紀は須恵器坏等が少量出土する程度である。8 世紀前半になると遺物の出土量も増え、遺構も SK6026 や SD6005 等が見られるようになり、その中で SK3008 は板石を組み合わせた石棺状の遺構であるが、全体が南西側に傾斜しており、埋葬施設とするにはやや疑問が残る。Ⅰ区には砂丘直上に茶褐色砂質土が部分的に乗っており、これは弥生時代から古代にかけての旧表土と考えられ、この中には弥生時代中期と古代の遺物が多く含まれる。周辺は南側 40 ｍの砂丘尾根上に存在する博多 1 号墳の築造により地形の改変を受けたものと思われるが、本調査区内ではその影響は見られない。11 世紀後半になると白磁碗Ⅴ類を中心とする遺物が出土しはじめ、その後は現代まで遺構が存続して営まれる。遺構としてはⅠ区では基壇 A・B や SX2181 とそれを囲む石垣、廃滓土坑、粘土貼付土坑、Ⅱ区では区画の溝と塀、近世墓等がある。Ⅰ区北側の SX2181 は砂丘面から 1.5 ｍ低い凹みで壁面に 2168 と 2169 の石垣を築いている。P42 で触れた可能性 1 について砂丘面までの深さは第 3 図では 3 箇所しか記してないが、他の確認トレンチや本調査でも北側に向けて傾斜する。もちろんトレンチ調査のため井戸などの深い遺構内を掘り下げた可能性は残るが、全体的に北側に向けて傾斜する傾向がみられる。更に北側の聖福寺内の調査（190 次）では砂丘面までの深さが 1.4 ｍと浅く、本調査区と聖福寺



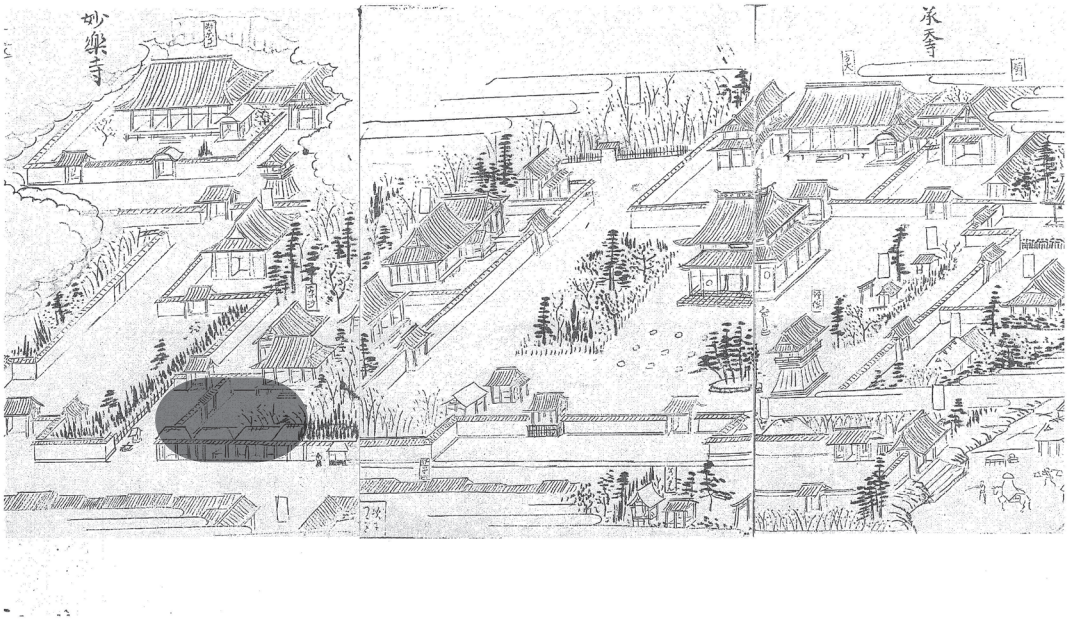
第 76 図　1 面遺構配置図 (1/200)

第 77 図　2 面遺構配置図 (1/200)

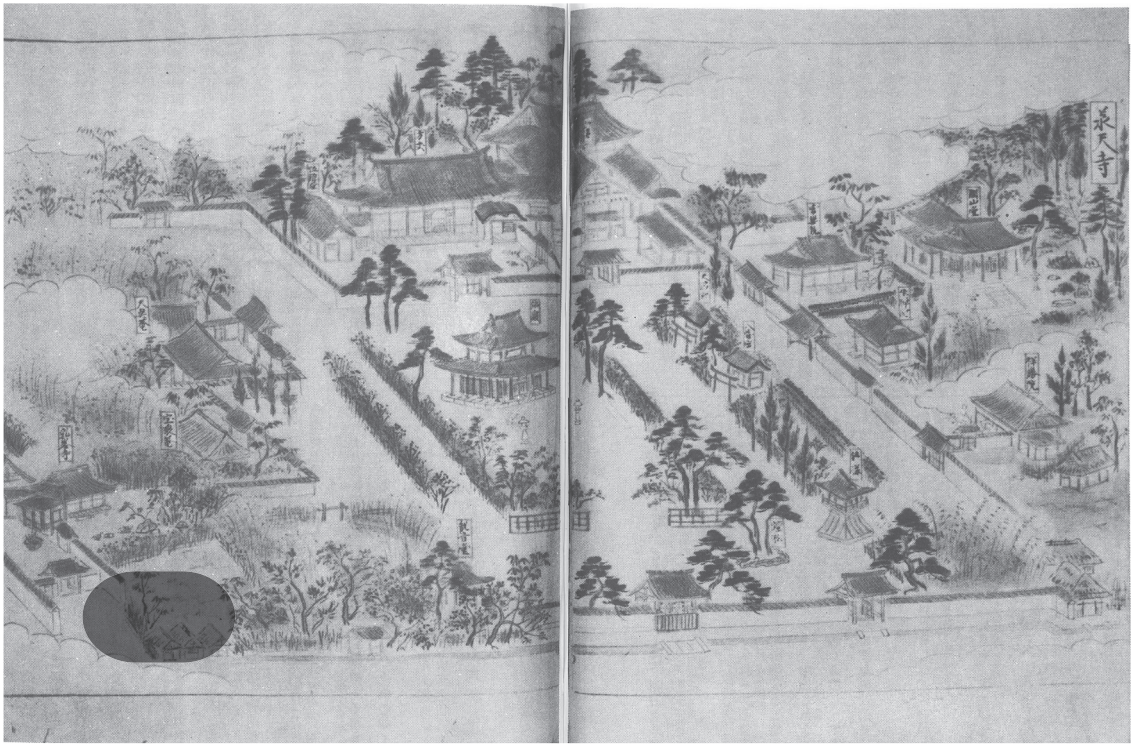


第 78 図　3 面遺構配置図 (1/200)

■は194次調査区推定地



1. 筑前名所図会



2. 筑前國続風土記附録

第 79 図　近世絵図

間には現在の地割りに沿うような南西から北東方向の谷が存在した可能性があり、その一部が本調査区内に張り出しており、谷際まで建物等を造るときにその壁面を保護するため石垣を築いた可能性等が考えられる。SX2181 の性格は今後周辺の調査が進むなかで判明するのを期待したい。その後基壇 A・B が築かれるが第 27 図でみると基壇は SX2181 の南西縁に沿って築かれており、石垣（2168）との関連を伺わせるが、SX2181 埋土は土層によると上下に大きく分かれ、下層は砂丘の砂を多く含む自然堆積、上層は黒褐色～茶褐色砂質土を主とし、堆積途中での掘り込みがみられる。遺物は下層は 12 世紀後半～ 13 世紀前半、上層は 13 世紀後半の遺物が出土しており、完全に埋没するにはかなり時間がかかったものと推定されるため、基壇を築造する為に埋めたとは考えられない。13 世紀後半～ 14 世紀初等の段階では周囲に余分なスペースが無く、埋没しかけた凹みを完全に埋立てて基壇 A・B を築いた結果、石垣（2168）に沿う形になったと考える。SX2181 からは寧波系草花文と連続押圧文の軒先瓦が多く出土した。軒先瓦は図 32 ～ 36 に記載した。これらに伴う平瓦、丸瓦は須恵質で厚さは 1 ㎝とやや薄めである。この丸瓦、平瓦とも多く出土しており、出土量は重量で丸瓦が 128.5 ㎏、平瓦が 455 ㎏を測る。丸瓦はこれまでの調査で完形品の出土例がないが、平瓦は 62 次調査などで出土した完形品 6 点の平均重量が 1.3 ㎏なので、それからすると SX2181 だけでも 350 枚分の平瓦が出土したことになる。この瓦に伴って鴟吻や磚も出土しているが、これらの瓦を多く含む土砂が西側から流れ込んでいることから当初は SX2181 の西側縁近くにあった御堂が倒壊して瓦が流れ込んだと考えた。しかし、整理の結果その多くが小片でほとんど接合しなかったことなどからこれらは、廃絶した建物から直接落ち込んだのではなく、一度整地等に使用された瓦が土砂と共に流れ込んだ可能性が高いと考えている。

Ⅱ区表土剥ぎ中に近世前半の墓石が 23 基出土した。本調査地点は 79 図の上図では寺院の境内、下図では畑となっており、墓は描かれていない。絵図がどこまで事実に基づくは不明だが、それを基にすると絵図が描かれた 18 世紀末から 19 世紀初めには墓が廃絶して畑になったか、もしくは墓石と甕棺墓は無関係で 19 世紀以降に墓が造られ始めた可能性も考えられる。また同時に出土した板碑は表面が荒れていて読めない文字があるが、年号は永徳元年（1381）か正徳元年（1711 年）で、くずし方から永徳元年の可能性が高いと考える。博多から箱崎にかけて多くの板碑が存在しており、その初源は 13 世紀代で形態は自然石に種子を刻んだものが多いとされる。今回出土した板碑も自然石で種子を刻んでおり特徴が近い。もし正徳元年とすると墓石に伴って建てられたものと考えられる。

第 76 ～ 78 図で遺構の分布をみると両区とも第 1 面は遺構の密度が薄い。これは第 79 図のように寺院の境内もしくは畑であったためと思われる。第 2 面では細かな柱穴が多いが『聖福寺古図』では承天寺と聖福寺の中間部分に建物が密集しており、その状態に近いと思われる。第 3 面は上層からの掘込みで残りが悪いが砂丘直上で弥生時代中期と 7 世紀末～ 8 世紀後半の遺構を確認した。Ⅱ区 3 面の東端に位置する SD6005 の方位は南北で９～ 10 世紀の官衙に伴う可能性がある。11 世紀以降は溝や SX2181、粘土貼付土坑、基壇 A・B とも主軸は現在の地割り線に平行する。博多遺跡群では太閤町割り以前の区画は現在の地割りと 40 ～ 50°前後ズレがあるが、ここでは太閤町割りとその前で主軸方向は変わらない。承天禅寺とその子院である乳峯寺の境内内であったため、町割りの影響を受けなかったものであろうか。

表2

遺構番号	性格	略号	時代	遺物	備考
1007	土坑	SK	13世紀	龍泉窯系青磁片、白磁碗Ⅴ類、常滑甕、瓦質鉢(中世)、土師坏(小片多　糸)、土師皿(小片多　糸)、鉄滓、	
1010	土坑	SK	14世紀	天目碗、陶器壺、瓦質擂鉢、青磁片、白磁皿片、土師椀、土師質鉢、土師坏・皿(糸　小片多)、平瓦(須恵質縄目→ナデ)、石製硯	
1013	溝	SD	16世紀	龍泉窯系青磁碗(16C)、白磁皿Ⅸ類、白磁小片、瓦質鉢(12C後半)、土師坏・皿(糸　小片多)、土器片(弥生)、鉄釘	
1020	土坑	SK	14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(1点)、龍泉窯系青磁坏Ⅲ類、(1点)、白磁片(2点)、染付片(1点)、陶器耳壺(1点)、陶器大甕片(4点)、陶器壺(2点)、須恵器大甕、須恵器鉢(13C中～14C前)、須恵質片口鉢(小片1点)、土師質大甕(平行タタキ)、瓦質片(鉢か)、土師坏(17枚以上　他小片多　灯明皿4～5枚)、土師皿(14枚以上　他小片多)、滑石製石鍋、鉄製品(不明)、鉄滓(椀型滓)、	
1020下層	土坑	SK	14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、青磁皿(13C)、白磁碗Ⅸ類、白磁壺、陶器壺(小片)、須恵質捏鉢(14C)、瓦質鉢、土師質甕、土師坏(糸　小片多)、土師皿(糸　破片少)、黒色B類椀、須恵器高台付坏(8C)、鉄滓(椀型滓　5点ほど)	
1026			中世	白磁碗(小片1点)、白磁皿(小片1点)、陶器擂鉢(小片2点)、須恵器坏蓋(6世紀)、土師坏・皿(小片　糸)、羽口、鉄滓(多)	小片のみで実測可能な遺物無し
1037	基壇A祭祀		13世紀末～14世紀前半	白磁壺(2点　別個体)、須恵器片(1点)、土師坏(糸　20点以上)、土師皿(糸　小片多)	土師坏・皿は破片が多く出土
1039	土坑	SK	16世紀？	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁皿Ⅸ類、陶器大甕片、土師皿(大2枚　径10.3cm　灯明皿、中1枚8.7cm、　小4枚8.3cm、小片多)、土師坏(多　完形に近い7枚　13.5cm前後)、土師坏(高台無し　16世紀？)、土師質盤？(火鉢？)、鉄滓(多)、銅銭片(5点)、	土師坏墨書(外面口縁近くに「器」、内面底部との境に一周漢字が並ぶ
1042	祭祀土坑	SK		土師坏(2枚　合わせ口)	基壇Bに伴う祭祀か
1050	土坑	SK	14世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、天目碗、陶器壺、須恵器甕、平瓦(須恵　縄目)、土師坏・皿(小片多)、土器片(小片多)、鉄片、	
1055	土坑	SK	近世後半	青花(皿、猪口、小碗)、白磁碗、陶器甕、陶器皿、須恵器甕、須恵器坏蓋(8C)、土師皿(口径計測可1点　7cm)、平瓦(瓦質　ナデ)、七輪、滑石石鍋片、鉄滓	
1057	粘土貼付土坑	SK	16世紀	白磁青花皿(16世紀　小片数点)、刷毛目白色釉陶器碗(朝鮮？)、陶器盤、陶器壺、陶器甕、須恵質擂鉢、土師質擂鉢、瓦質火鉢、土師皿(糸　小片)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ、土師質　ナデ)、鉄滓	
1067	粘土貼付土坑	SK	16世紀	龍泉窯系青磁碗細形蓮弁文C群・碗Ⅱ類、天目碗、白磁碗、白磁合子、白磁小碗、青白磁梅瓶、陶器小盤Ⅰ-2b、陶器壺、陶器大甕、須恵器甕、瓦質捏鉢、土師坏(小片多)、土師皿(小片　多)、土鍋、土師質火鉢、土器片(小片多)、滑石片、銅銭(1枚)、瓦(瓦質　ナデ)、石製硯(赤間石)、鉄滓、炉壁、	
1071	土坑	SK			
1073	井戸	SE	14世紀	白磁(小片　1点)、陶器壺Ⅳ類、陶器耳壺、陶器盤Ⅰ-1類、陶器小盤Ⅰ-2b、陶器鉢Ⅰ類、陶器鉢、渥美大甕片、陶器壺(瀬戸焼き？)、土師坏(多量　糸)、土師皿(糸)、瓦質捏鉢、土師質鉢、土師質坏蓋(8世紀)、土師甕(古墳後期～古代)、滑石製石鍋片、瓦質玉(平玉？)、陶器玉(平玉？)、丸瓦(1点　須恵質　縄目→ナデ)、平瓦(土師質、陶製瓦質、須恵質　いずれも小片　縄目もしくはナデ)、羽口、鉄滓(椀型滓　5～6点　その他多)、鉄製品(板状　1点、釘大2本、小　約35本)、	陶器片多く出土土師坏片は多いが小片で接合しない。
1073井筒	井戸	SE	14～15世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、青磁皿(14～15C)、青磁香炉(14～15C)、同安窯系青磁碗、白磁碗(14～15C？)、白磁碗Ⅳ・Ⅷ類、白磁皿Ⅸ類、白磁鳥形片、白磁、朝鮮青磁片、土師坏(ヘラ切り1点、　糸切り破片多　30点分上)、土師皿(糸　破片多)、土師質高台付坏(1点)、	土師坏・皿の口縁・内面に煤が付着したものが12点と多い
1073井筒掘方	井戸	SE	14世紀	須恵器鉢(破片多　13C後半～14C)、須恵器(大甕、坏蓋、坏、高台付坏　8世紀)、常滑大甕(13C)、陶器擂、瓦質鉢、土鍋(12～14C)、甑取手、甕(弥生時代中期)、不明土製品、石製硯、白磁観音像？袖部小片	瓦質捏鉢・擂鉢破片多
1082	土坑	SK	12～13世紀	青磁片、白磁片、須恵器坏(6世紀後半)、土師坏(小片多　糸)、土師皿(小片多　糸)、土師器甕(小片)、鉄滓	
1090			13末～14前半	龍泉窯系青磁碗Ⅳ類、白磁鉢？、白磁皿Ⅸ類、須恵質捏鉢(2個体以上)、瓦質捏鉢、土師質捏鉢、片口土師質擂鉢、土師坏(25枚以上　糸)、土師皿(15枚以上)、	土師皿灯明2点、土師坏3点
1091	土坑	SK	近世～近代	染付(小片　1点　近世～近代)、瓦(？)、土師坏(糸・3枚以上)、土師皿(小片　2点以上)、羽口(1点)、鉄滓(1点)、	染付
1108	土坑	SK	13世紀後半？	白磁碗、白磁合子、陶器壺、陶器大甕、瓦質片口擂鉢(13C)、土師坏(糸　破片多　口径12.5cm前後)、土師皿(小片多)、甕(弥生)、炉壁、鉄滓(多量)、鉄釘(多)、	
1113			16世紀	青磁碗(16C)、龍泉窯系青磁碗Ⅱ・Ⅲ類、白磁片、土師坏(糸　小片)、土師皿(糸　小片)、土師質鉢(12C)、瓦質鉢、土師質磚？、鉄滓、土器片	
1115上	土壇B葺石		14世紀	白磁片(小片1点)、陶器片(小片4点)、須恵器壷？、瓦質鉢(13C)、土師質火鉢、、土鍋、平瓦(瓦質　ナデ)、土師坏(糸　破片多)、土師皿(2点7.5cmと8cm、　小片多)、瓦玉？、鉄釘	
1115下	石列				土壇B基礎
1116	粘土貼付土坑	SK	16世紀	龍泉窯系青磁碗蓮弁文C群、白磁碗、白磁壷、茶褐釉陶器片、土師坏・皿(小片)	
1118	石列		14世紀	龍泉窯系青磁碗(16世紀　混入)、白磁碗(小片)、土師坏(糸　小片)、	土壇B上グリ石
1119	礎石群		14世紀		土壇A上
1121 基壇盛土(黄褐色土)			14世紀	白磁碗Ⅴ類、、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器坏、不明須恵器片、土師坏(小片　10枚弱)、土師皿(小片多)、土師器鉢、鉄釘(2本)、砥石、石硯(赤間石)、	
1121基壇盛土(黄褐色土)下の旧表土(黒色土)			14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁高台付皿(景徳鎮　14C)、白磁壷、青花高台付皿(元？)、茶褐釉陶片、陶器大甕、須恵質鉢、瓦質鉢、瓦器椀、須恵器鉢(13末～14C)、須恵器高台付坏(8C)、土師坏・皿(糸　破片多　坏2点は内面に煤付着)、不明土製品、鉄釘(5本)、高坏(やよい時代中期)	基壇建物の基壇下の旧表土
1123	粘土貼付土坑	SK			
1126	石列		14世紀	土師坏(小片)、土師皿(小片)	土壇A基礎
2001	粘土貼付土坑	SK	13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、白磁皿、陶器片、瓦質鉢、土師坏(糸)、	
2002	土坑	SK	14世紀後半	白磁皿Ⅸ類、白磁壷？、陶器小片、須恵器坏、瓦質鉢(12～13C)、土師坏(糸　12cm前後、小片多)、土師皿(8cm、小片多)、焼土塊、釘	
2003	土坑	SK	13世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器大甕、須恵器甕、瓦質擂鉢(13C？)、土鍋(土師坏(底面1/2以上遺存が70枚程度最小11cm、最大13cm、12cm前後が多い。 その他小片多　　灯明皿4点)、高台付土師坏(高台高3.4cm)、土師皿(底面1/2以上遺存が31枚、破片多量　計測可23点のうち16点8cm前後、3点9cm弱、4点7.5cm前後、1点は推定最大径4. 8cmで口縁は内湾する)、甕(弥生時代)、	土師皿1枚は底部に焼成後穿孔
2012	祭祀土坑	SK	13世紀末～14世紀前半	白磁碗'(11～12C)、不明土製品(地鎮具)、土師坏(多)、土師皿(多)、陶器甕、陶器片、須恵鉢(13末～14C)、平瓦(縄目、土師質)、鉄釘、石玉(径4.6cm)、鉄滓、	土師坏・皿はこまかく割れて出土　基壇Aに伴う祭祀土坑
2015	井戸	SE	14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類、白磁碗(破片多)、白磁壷、白磁合子、白磁皿Ⅸ類、陶器耳壺、陶器片(多種の甕壷片多い)、須恵器大甕、須恵器はそう、須恵質鉢、瓦質鉢(14C　破片多)、土師質甕、瓦器椀、土鍋、土師質擂鉢、土師坏(12cm、小片多)、土師皿(小片多)、平瓦(須恵質　縄目)、滑石鍋片、鉄滓、鉄釘(3本)、	
2015掘方	井戸	SE	14世紀	天目碗、白磁碗(破片多　Ⅳ・Ⅴ類が主)、白磁皿Ⅸ類、龍泉窯系青磁碗Ⅱ・Ⅲ類、陶器甕、陶器盤Ⅱ・Ⅲ類、陶器大甕、茶褐釉陶器片(破片多)、陶器鉢Ⅰ-2b、須恵器(坏蓋、高台付坏、甕or壷←破片多、鉢)、土師坏、平瓦(縄目、ナデ　破片多)、瓦質鉢(13C)、瓦質釜(14世紀)、土鍋(12～13C)、甕(弥生時代)	
2015井筒	井戸	SE	14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器鉢、瓦質鉢(12？)、須恵器鉢(14C)、陶器大甕(常滑)、土師坏(小片多)、土師皿(1点　8cm)、鉄滓	
2016	粘土貼付土坑	SK	中世	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、陶器碗、陶器小碗、須恵器(壺？、甕、高台付坏)、、土師坏(糸　小片　多)、土師皿(糸　1点　口径8cm、黒曜石	
2017	土坑	SK	13世紀末～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁碗、白磁皿Ⅸ類、陶器盤、須恵器(甕、坏、平瓦-縄目)、土鍋、瓦質鉢(12C後半？)、土師坏(糸)	
2019	土坑	SK	古代末～中世初頭	白磁小片、陶器盤(鉄絵)、須恵器片(壷か甕)、土師坏・皿(糸　小片　多)、甕(弥生時代)、	
2032	土坑	SK	中世	須恵器坏(古代)、土師坏(糸　小片多　1点焼成前穿孔が2カ所以上ある小片有り)、土師皿(糸　小片多　口径1点計測可　8.5cm)、	
2048	土坑	SK	14世紀	白磁皿小片、白磁皿Ⅸ類、陶器大甕、瓦質擂鉢、土師坏・皿(糸　小片多)、甕(弥生時代)、滑石石鍋片、鉄釘(4本)	
2074	土坑	SK	15世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗(朝鮮)、白磁皿Ⅸ類、陶器擂鉢(15世紀後半)、土師質擂鉢、陶器片(甕？)、須恵質鉢、土師坏、土師皿(3点6.5cm前後で器高1.3cm　1点は灯明皿　、小片多)、土鍋、瓦器片、平瓦(須恵質→縄目とナデ、土師質→ナデ)、鉄片	
2075	土坑	SK	中世	陶器小片、土師皿(糸　完形1点　径8.4cm、　小片　多)、土師質甕(古墳時代)、	
2098	土坑	SK	15から16世紀？	瓦質？擂鉢、土師坏(12cm前後)、土師皿(糸)、鉄片	
2100	土坑	SK	13世紀末～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、白磁皿Ⅸ類、陶器壷、須恵器甕、須恵器坏蓋、須恵質鉢(13C)、土師坏(径計測可7枚12cm前後、小片多　30～40枚程か)、土師皿(径8cm前後、　底部が1/2以上残存が35枚程、小片多全部で50～60枚程か)、高坏、甕(弥生時代)、平瓦(土師質　縄目)、滑石製石鍋片、鉄滓、	

表3

遺構番号	性格	略号	時代	遺物	備考
2117	土坑	SK	14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁壺？、白磁皿Ⅸ類、褐釉陶器片(甕と壺か)、須恵器(甕・坏　6C後半、坏蓋・高台付坏8C、鉢14C)、瓦質鉢(13C？)、土師坏(ほぼ完形5点径11.～12.5cm　破片多30～40枚分か)、土師皿(完形7点　径7.5cm　1点　8cm前後　4点、　8.5cm　2点　その他小片多数)、甕(弥生時代中期)、鉄釘(20本前後)、毛抜き？、不明鉄製品、羽口、鉄滓(多)	
2118	土坑	SK	12世紀後半	龍泉窯系青磁碗、白磁碗・皿片、白磁合子、陶器鉢Ⅰ-1b(12C中)、須恵器大甕、土師質捏鉢、土師坏(糸小片多　30枚以上)、土師皿(糸　小片50枚分以上か)、脚付土師皿(1枚)、土師質瓦(縄目)、滑石石鍋片(12C後半)、瓦器玉、土錘、甕(弥生時代中期)、羽口(3点)、鉄滓(椀型滓　10点以上　小片は多数出土)、鉄釘(15～20本)、銅銭(3枚)	
2121	土坑	SK	中世	土師坏(3枚+小片多(灯明皿の破片1点)、土師皿(5枚+小片多)、	
2122	土坑	SK	中世	土師皿	
2150	土坑	SK	13C中頃～14世紀初頭	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、茶褐釉陶器壺、土師坏(小片)、高坏(古墳時代)、平瓦(須恵　縄目)	
2163	井戸	SE	13世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗Ⅷ類、白磁壺、陶器盤、陶器碗、陶器甕(常滑)、須恵器(大甕、甕、はそう？、鉢)、瓦質擂鉢、土師坏(小片)、土師皿(7.5cm前後)、瓦(丸と平　須恵質　縄目→ナデ)、鉄釘、鉄滓	
2164	土坑	SK			
2166	土坑	SK	12世紀末～13世紀	丸瓦(草花文瓦頭　2点)、平瓦(連続押圧文瓦頭　1点)	
2168裏込め	石組み		12世紀末～13世紀	平瓦(須恵　縄目→ナデ)、	2181擁壁
2169	石組み		12世紀末～14世紀	白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、青磁皿？、陶器大甕、陶器壺、須恵器坏蓋、須恵器高台付坏、瓦質片(器壁1cm)、土師椀、土師坏、甕(弥生中期)、土器小片(弥生)、平瓦(須恵　縄目)、	2181擁壁
2173上層	土坑	SK	13世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類・坏Ⅲ類、瓦質鉢、土師皿(小片多　径6.5～8cm、灯明皿片有)、土師坏(小片　多　灯明皿有り)、土錘(長3.5cm)、平瓦(須恵　縄目、ナデ)、鉄滓、石硯未製品(赤間石)、	
2173	土坑	SK	13世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類・浅型碗、白磁皿Ⅸ類、白磁碗(小片　多)、、陶器(大甕？)、須恵器鉢(13C後半)、土師質釜(13C)、瓦質擂鉢(13C)、土師坏(破片　数十枚分　灯明皿片多)、土師皿(破片多　灯明皿有)、土錘(1点)、羽口、鉄滓(椀型滓　10点前後)、鉄片(多　釘、刀子等)、炉壁	
2174	土坑	SK	13～14世紀	白磁耳壺、白磁皿、褐釉陶器壺、陶器盤、須恵質(甕、坏蓋、鉢)、土師椀、土師坏(9点　11.5cm前後、1点12.2cm　小片多)、土師皿8点　7.5cm前後　小片多)、平瓦(土師質　縄目)、甕(弥生中期)	
2176	土坑	SK	13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗Ⅳ類、白磁皿Ⅸ類、陶器片、陶器耳壺、陶器皿、陶質擂皿、須恵器(大甕、坏蓋、坏、高台付坏)、瓦質鉢、土鍋(12c)、須恵質瓦(丸・平　縄目)、瓦器椀、土師坏(糸　40枚以上)、土師皿(糸　小片多)、弥生土器(甕、高坏、甕棺　中期後半)、銅銭(1枚)、鉄製毛抜き、鉄製品(釘、その他)、	底面や口縁に煤付着(土師坏　7枚、土師皿1枚)
2179井筒	井戸	SE	13世紀後半～14世紀前半	茶褐釉陶器小壺、陶器壺(13C後半)、須恵器壺、甕(弥生中期)、須恵器鉢、土師坏(糸　小片)、土師皿(糸)土器片、銅銭(1枚)	
2179掘方	井戸	SE	13世紀中頃～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、白磁皿Ⅸ類、陶器大甕・壺(小片　多)、須恵器(大甕、鉢-13C半ば～14世紀)、瓦玉？(瓦質)、瓦質鉢、土鍋(12c)、土師坏(糸　破片多))、土師質甕、高坏、甕(弥生中期)、鉄滓	
2180	土坑	SK	古代末～中世初頭	白磁壺、陶器片、須恵器(甕、高台付坏)、土鍋、土師坏(糸　　径　不明)、瓦(平　縄目→なで)、	
2181上層	不明(池？)	SX	13世紀後半	白磁碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ類、白磁皿Ⅱ・Ⅳ・Ⅷ・Ⅸ類、白磁壺Ⅲ類、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、龍泉窯系青磁皿、土鍋(12世紀中・14世紀前)、	
2181下層	不明(池？)	SX	12後半～13世紀前半	天目碗、白磁碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ類、白磁皿Ⅱ・Ⅳ・Ⅷ類、白磁壺Ⅲ類、青白磁碗、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2a・Ⅰ-4b類、龍泉窯系青磁皿、同安窯系青磁碗、陶器耳壺、陶器鉢Ⅰ-1b、陶器盤Ⅰ-1b、陶器壺Ⅳ類、陶器大甕(渥美窯　12C後半　破片多)、陶器大甕片(破片多　多種)、滑石製石鍋(破片多　12～13C)、須恵器(大甕　破片多、高台付坏、坏蓋、)、土師坏(糸・破片多)、土師皿(糸　破片多)、甑取手、甕(弥生中期)滑石製模造鏡片？(スタンプ？　鏡面にあたる部分に掘り込み無し、紐に鉄の棒)	
2188掘方	井戸	SE	13世紀前半	須恵器甕、土師皿(糸　小片　5点)、平瓦(縄目→ナデ)、	
2188井筒掘方	井戸	SE	13世紀前半	龍泉窯系青磁小碗Ⅱ類((1点　1/2遺存　調整・施釉丁寧　13C前半)、甕(弥生中期)、	
2190	粘土貼付土坑	SK	古代末	白磁片、陶器片、須恵器片、瓦器片、土器片、丸瓦(須恵　ナデ)、釘	いずれも小片
2191			12世紀後半	白磁碗Ⅳ類、陶器片、須恵器鉢、滑石片、	
2192	粘土貼付土坑	SK	13世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、陶器鉢Ⅰ-1b、陶器片(小片多、壺が多め)、須恵器大甕、須恵器高台付坏、土師皿(糸)、甕(弥生時代)、土器小片	
2195井筒	井戸	SE	13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁皿Ⅸ類、土鍋、平瓦(須恵質　ナデ)、	
2195掘方	井戸	SE	13世紀後半～14世紀前半	土器小片(3点)	
2200井筒	井戸	SE	古代末	白磁片(1点)、土師質坏蓋(8C)、土器片(2点　弥生)	
3001			弥生時代中期前半)	青磁碗片、土師椀、須恵器片、土師坏(小片5点)、甕(弥生時代中期前半　小片多)、器台(弥生中期)	青磁等は混入
3002	祭祀孔		弥生時代中期	器台(1点)、甕(2点　同一個体だが接合せず)	
3005	土坑	SK	弥生時代	土器小片(4点　弥生時代甕か)	
3008			8世紀	須恵器甕、須恵器坏、土師器甕(不明)、土器片(弥生～古墳)	
3009	土坑	SK	12世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁皿Ⅷ-2b、陶器鉢Ⅰ-1b、陶器盤、陶器耳壺、陶器大甕、須恵器(大甕、高台付坏　8C、鉢　12C)、土鍋(12C後半)、土師皿(糸)、土師器坏蓋、甕(弥生中期)、瓦(丸・平とも縄目→ナデ　7kg)、滑石石鍋片	
3043	土坑	SK	12世紀後半	白磁碗Ⅴ類、白磁皿Ⅷ類、陶器盤、陶器耳壺、陶器大甕、須恵器甕、須恵器片、土師坏(破片多　20～30枚灯明皿　3点)、土師皿(破片　多)、平瓦(須恵　縄目→ナデ)、鉄釘(1本)、	
4002	溝	SD	中世末～近世	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗(小片のみ)、茶褐釉陶器大甕、須恵器(大甕、甕、高坏、坏、高台付坏、坏蓋)、土鍋、土師坏(糸　小片多)、土師皿(糸　小片多)、土師器甕(古墳時代)、甕(弥生時代中期)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ)、丸瓦(須恵質　ナデ)、焼土塊、滑石	
4003	土坑	SK	16世紀	龍泉窯系青磁碗(雷文、蓮弁文碗C群-16C)、白磁碗、白磁小碗、染付片(元代？)、陶器碗、陶器大甕、須恵器大甕、土師坏・皿(小片多)、土鍋(14C)、土師質擂鉢、瓦質擂鉢、羽口、炉壁、瓦(平・丸　1点ずつ　瓦質　ナデ)、鉄釘(5本)、碗型滓(1点)	
4006	溝	SD	近世	染付碗、陶器碗、須恵器甕、須恵器坏蓋、瓦質捏鉢、土師質擂鉢、土師質片口鉢、土師坏(糸)、丸瓦(瓦質1点、土師質1点)、鉄片	
4011・4012	土坑	SK	12世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、青磁皿、陶器片、須恵器甕、土師坏・皿(糸　小片)、平瓦(須恵　ナデ)、	
4013	溝	SD			
4015	近世甕棺墓	SK	近世	白磁碗(小片　2点)、土師坏(糸　小片多)、土師皿(糸　小片多　口径計測可1点　8.6cm)、鉄釘(1本)	
4019	土坑	SK	13世紀後半～14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁皿Ⅸ類、白磁碗Ⅷ類、陶器壺、陶器甕、須恵器壺？、須恵器捏鉢、土師坏・皿(小片)、土器片	
4020	土坑	SK	古代末～中世	土師坏・皿(糸　小片)、土器片	
4023	土坑	SK	古代末～中世	白磁片、　平瓦(須恵　縄目→ナデ、　土師質　ナデ)、陶器大甕片、土師坏(糸　小片)、土師皿(糸　小片)、鉄滓	
4024	土坑	SK	14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁皿Ⅸ類、陶器盤底部、黒色土器A類椀、土鍋(14C)、土師坏(糸　小片多)、土師皿(小片多　20枚弱か　口径計測可　4点　7.5～8.5cm)、　平瓦(土師質　縄目→ナデ)、	
4024下層	土坑	SK	14世紀前半	龍泉窯系青磁坏Ⅲ類・碗Ⅱ類、白磁皿Ⅸ類、陶器鉢、陶器壺、瓦玉(2点)、土師坏(糸　小片多)、土師皿(糸)、土鍋、丸瓦(土師質　縄目→ナデ)、須恵器片、滑石石鍋片	
4027	火葬墓	SK	近世	素焼き蓋　径12.2cm+直口壺　口径9.4cm　器高6.6cm(骨壺　近世)、染付碗(1点)、陶器大甕、土師坏、土師甕、鉄滓	遺物はいずれも小片のみ
4045			近世？	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、陶器片、土師質大型火鉢、移動式竈？、瓦質捏鉢、須恵器坏、器台(羽口？径2cmの棒に粘土を巻き付けて器台状を呈す。胎土に砂をほとんど含まない)、土師皿(7cm弱)、平瓦(須恵質ナデ)、	
4052	土坑	SK	近世	染付碗器碗(近世)、龍泉窯系？青磁輪花碗、龍泉窯系青磁坏Ⅲ類、白磁碗Ⅳ類、白磁皿Ⅸ類、白磁壺、陶器壺Ⅴ類、陶器小壺(茶入)、陶器盤片、陶器片、須恵器(大甕、甕、高台付坏)、土師坏(小片多)、土師皿(小片多)、瓦質擂鉢、須恵器鉢(13C)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ、波状押圧文瓦に伴う)、鉄製品(釘、刀子等)	
4058	土坑	SK	13世紀	陶器壺Ⅳ-1b(13C)、須恵質鉢(1点)、土師坏(糸　20枚以上　灯明皿　1枚)、	
4058	近世甕棺墓	SK	近世前半		遺構番号がダブリ
4063	土坑	SK	14世紀後半か	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、青磁皿、白磁合子、陶器小碗(釉　被熱　白色化)、陶器小片(甕・壺か)、瓦質鉢、平瓦(土師質　縄目→ナデ)、土師椀(小片)、土師坏(糸　破片多　30枚以上か　径12.5cm前後　灯明皿　4枚以上)、土師皿(糸　破片多　径8cm前後)　、土器片(主に弥生時代甕か)	
4064	土壙墓・木棺墓	SK	14世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、陶器片、土師坏(糸　破片多、口径計測可1点　13cm)、土師皿(市破片多　口径計測可1点　8cm)、土器片(弥生土器　多)	

表4

遺構番号	性格	略号	時代	遺物	備考
4093	近世甕棺墓	ST	近世		
4094	近世甕棺墓	ST	近世	青磁碗、陶器耳壺、白磁碗、土師坏(糸)、焼土片、鉄釘(1本)	
4095	近世甕棺墓	ST	近世		
4097	土坑	SK	不明	鉄釘(2本)、青銅片	
4101	近世甕棺墓	ST	近世		
4102	土坑	SK	中世	白磁碗、須恵器高台付坏、平瓦(須恵質　縄目→ナデ)、土師坏(糸)、土師皿(糸　口径計測2点　8cm)、	
4105	近世甕棺墓	ST	近世	土器片(2点)、鉄釘	
4106	土壙墓・木棺墓	SK			
4107	土壙墓・木棺墓	SK	13世紀中頃～14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、白磁碗、白磁皿、須恵器大甕(小片)、土師坏・皿(糸　小片)、土器小片(弥生？)	
4121	土坑	SK	14世紀	白磁碗Ⅱ・Ⅳ類、瓦質捏鉢、土師坏・皿(糸　小片)	
4125	土坑	SK	15世紀後半～16世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器壺小片(3点　別個体)、須恵器甕、土師器甕(小片)、土鍋(小片)、炉壁(製鉄)、土師坏・皿(糸小片多)、滑石石鍋片、平瓦(須恵　縄目→ナデ)、銅銭(1枚)、鉄釘(2本)	
4140	土坑	SK	近世	染付碗、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、青磁小碗、白磁碗Ⅴ類、白磁皿Ⅸ類、白磁合子、白磁壺、白磁皿、陶器盤Ⅰ-1b、陶器壺Ⅳ類、陶器大甕、陶器擂鉢(近世以降)、須恵質(捏鉢、高台付坏、土師坏(小片　多)、土師皿(小片多)、滑石製品、鉄釘(3本)	
4146			15後半～16前半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、白磁皿Ⅸ類、陶器坏、陶器大甕片、陶器盤、瓦器片、土師坏(多量)、土師皿(多量)、焼土塊、	土師皿(8cm前後)
4147	土壙墓・木棺墓	SK			
4148	土壙墓・木棺墓	SK	12世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、陶器小盤Ⅰ類、陶器甕、瓦質片(瓦？)、土師坏・皿(小片)	
4152	近世甕棺墓	ST	近世		
4153	近世甕棺墓	ST	近世		
4154	近世甕棺墓	ST	近世		
4155	近世甕棺墓	ST	近世	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器片、陶器大甕(近世甕棺墓)、土師坏・皿(小片)、土器片、鉄釘(4本)、キセル、鉄製品(鉄製品を螺旋状に撒いて径1.5cm、長さ7cmの棒状にしている。	
4156	近世甕棺墓	ST	近世	陶器大甕	
4157	土壙墓・木棺墓	SK	近世		
5001	井戸	SE	14世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(複)、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類？、白磁皿(Ⅸ類・その他)、天目碗(複)、黒釉瓶？褐釉甕？、陶器大甕(多)、陶器小盤Ⅰ-2b、須恵器坏蓋(5点　8世紀)、須恵器高台付坏(8世紀)、須恵器鉢(複　13～14世紀)、須恵器大甕(複)、須恵器高坏、須恵器坏、瓦器椀、瓦質鉢(破片多　1点片口)、土釜(3点、2点はミニチュア？)、羽口、土師椀、土師坏(破片多　糸　1点灯明皿)、土師皿(多　糸Ⅸ、土師器高台付坏(8世紀)、土鍋((複　12c中～14c中Ⅸ、石鍋(13～14)、鉄滓、鉄釘(多)高坏(弥生時代中期)、石玉(砂岩)	
5001井筒	井戸	SE	14世紀後半	龍背窯系青磁碗Ⅲ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁壺、須恵質瓦(縄目→ナデ・布目)、陶器小片(2点)、陶器大甕(2点)、須恵器鉢、須恵器坏蓋(8C)、瓦器椀、瓦質鉢、土鍋、土師坏(糸 破片多小片のみ)、土師皿(糸 破片少)	
5001-B井筒	井戸	SE	14世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁皿Ⅸ類、陶器甕(小片)、陶器盤、須恵器坏蓋(8世紀)、須恵器高台付坏(8世紀)、柄(瓦質)、土師坏(2点　糸)	
5001-C井筒	井戸	SE	13世紀中頃～14世紀	陶器甕(小片4点)、陶器鉢、須恵器高台付坏(8世紀)、瓦質擂鉢(小片多)、瓦質捏鉢、土師坏(糸)、土師皿(小片多　糸)、	小片で実測不可
5001掘方	井戸	SE	13世紀中頃～14C	染付片、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁皿Ⅸ類、白磁合子、陶器大甕(小片多)、陶器壺、須恵質鉢(13世紀後半)、須恵器坏蓋(8世紀)、須恵器高台付坏(8世紀)、須恵器坏、須恵器坏蓋(8世紀)、須恵器高坏、土鍋(13後半～14世紀)、土師皿(小片多　糸)、土師皿(小片多　糸)、瓦器椀、瓦(土師・須恵、縄目・布目)、土師質甕(古墳？)、甕(弥生時代中期)、焼土塊、鉄釘(6本)、鉄滓(1点)、	いずれも小片
5002					
5013	土坑	SK	13世紀後半～14C前	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類(1点ずつ)、白磁碗(1点)、白磁皿Ⅸ類(1点)、茶褐釉陶器壺(1点)、陶器大甕片(1点))、須恵質片口鉢(14C前後)、土師坏(9枚以上)、土師皿(2枚以上　1枚灯明皿)、鉄釘(1点)、鉄滓(1点)、炉壁(1点)	
5015	土坑	SK	14世紀後半	天目碗、龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗Ⅳ類、白磁碗(外面露胎に墨書)、白磁合子？、白磁片、陶器盤Ⅱ類、陶器甕、陶器鉢、須恵器(甕、鉢、坏蓋、土師坏(糸　小片のみ)、土師器甕、土鍋(13世紀)、炉壁(青銅付着)、滑石片、鉄釘	
5030	溝	SD	14世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅲ・Ⅳ類、白磁小皿、茶褐釉陶器片、陶器大甕、須恵器坏蓋(8C)、瓦質椀、土師坏(糸　小片)、土師皿(ヘラ切り)、甕(弥生中期)、土器片(弥生～古代)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ)、	
5059	土坑	SK	13後半～14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁壺、白磁皿Ⅸ類、陶器盤、須恵器(大甕、坏蓋、高台付坏)、瓦器椀、瓦質鉢、土師坏(糸　12cm前後、破片コンテナ1箱分　1点灯明皿)、土師質高台付坏(台高2.5cm)、土師皿(糸　破片少)、鉄滓、釘	
5114	井戸	SE	13～14世紀	龍泉窯系青磁碗片、青磁香炉？、白磁碗(Ⅳ類・その他)、白磁皿Ⅸ類(複)、陶器壺Ⅳ類(13C)、陶器大甕、陶器茶褐釉瓶、陶器茶褐釉壺、須恵器大甕、陶器擂皿、須恵器鉢(複　)、須恵器甕、瓦質鉢、土師坏(多糸)、土師皿(糸)、須恵質平瓦(7点　縄目圧痕→ナデ-布目)、滑石製石鍋片、鉄釘(1点)	
5114掘方	井戸	SE	13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗・皿(小片)、白磁碗、白磁皿Ⅸ類、陶器大甕、陶器茶褐釉壺、陶器盤(小片)、須恵器大甕、須恵器坏蓋(8世紀)、須恵器高台付坏(複　8世紀)、須恵質鉢、瓦器椀(小片)、土師椀、土師坏(小片多糸)、土師皿(小片多　糸)、土師質甕、土鍋(13世紀)、須恵質瓦(平　縄目圧痕　5点)、硯	
5114上層と掘方	井戸	SE	13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系青磁(碗Ⅱ類・皿Ⅰ-2類)、陶器片、須恵器甕、土鍋、土師坏・皿(小片多　糸I,棒状土製品、滑石製石鍋片、砥石、	
5114井筒	井戸	SE	13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系青磁碗(Ⅰ・Ⅱ類小片)、白磁碗(小片3点)、陶器大甕、陶器火鉢、陶器片、須恵質擂鉢(破片多12～13C)、須恵器鉢(8世紀)、土師坏(　)、土師皿(糸)、土師質甕、土鍋、土師質火鉢、瓦(須恵質　縄目圧痕→ナデ　3点、瓦質　1点、土師質　1点)、羽口、滑石製石鍋、砥石(砂岩)、甕(弥生時代中期)、	
5115	土坑	SK	13中～14世紀	龍泉窯系青磁碗小片、青磁碗(高麗？)、青磁合子、白磁碗(Ⅳ類・その他小片)、白磁皿Ⅸ類(小片他)、陶器鉢1-1b、陶器耳壺、陶器小盤1-2b、陶器大甕、陶器甕(小片他)、須恵質鉢(複　12・13世紀)、須恵器坏蓋(多　8世紀)、須恵器高台付坏(7末～8世紀)、須恵器甕、瓦質擂鉢、土師坏(多量　糸)、土師皿(多量　土師質鉢(小片)、須恵質平瓦(小片多、縄目圧痕一部なで)、土師質瓦(平　ナデ-布目)、焼土塊、鉄釘(1本)、鉄滓、滑石片、	
5117	土坑	SK	14世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、青磁坏Ⅲ類、青磁皿、青磁合子、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁皿Ⅸ類、白磁皿小片、陶器大甕(5点　渥美窯が1点)、陶器鉢Ⅰ-1a、須恵器(甕、坏蓋、高台付坏)瓦質捏鉢(12c後半)、、土師坏(糸　径12cm前後)、土師皿(糸　7.5～8cm)、甕(弥生中期)、土器片(小片多　弥生～中世)、滑石製石鍋片、粘土塊	
5149	土坑	SK	15～16世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁皿Ⅷ-2・Ⅸ類、須恵器坏蓋(8世紀)、土師坏(糸　12cm前後、小片多)、土師皿(8cm前後と6.5が1枚、小片多)、瓦器椀、甕(弥生時代)、鉄片、焼土塊	
5151	柱穴状遺構	SP		遺物無し	柱痕跡に焼土詰まる
5171	柱穴状遺構	SP		遺物無し	柱痕跡に焼土詰まる
5176	土坑	SK	13世紀後半～14世紀前半	白磁皿Ⅸ類、白磁碗小碗？、陶器盤、瓦質擂鉢、須恵器鉢、土鍋、平瓦(須恵　ナデ)、滑石製石鍋片、土師坏・皿(破片　多)、	
5185	土坑	SK	13世紀	土師坏(静止糸　口径14cm、その他小片10点)、須恵器坏、須恵器坏蓋、須恵器小片、	
5197	井戸	SE	13世紀前半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、陶器甕？、須恵器大甕、須恵器高台付坏(8世紀)、土師質火鉢？、土師坏・皿(糸)、土師甕、平瓦(須恵質・土師質　両方とも縄目圧痕)、土師質せん、滑石製石鍋片、鉄製品	
5197上層	井戸	SE	13世紀後半	陶器壺、陶器大甕、龍泉窯系青磁碗片、白磁片、須恵器坏蓋(8世紀)、須恵器高台付坏(8世紀)、須恵器坏、須恵器甕、須恵質瓦(ナデ・縄目-布目)、瓦玉、土師質鉢(13世紀後半)、土師坏・皿(小片多　糸)、土師甕、土鍋、高坏、鉄釘、鉄片	
5197掘方	井戸	SE	13世紀後半	瓦質鉢(2点別個体　13世紀？)、土師坏(糸)、土師甕(1点)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ、土師質　ナデ)、高坏脚部、鉄釘(1点)	

表5

遺構番号	性格	略号	時代	遺物	備考
5197－井筒A	井戸	SE	13世紀後半	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁ⅢⅨ類、陶器甕(常滑　13C後半)、陶器壺、須恵器坏、須恵質磚、土師質鉢、土師坏(糸)、土師皿(小片　糸)、須恵質瓦(縄目－布目)、鉄釘、	
5197－井筒B	井戸	SE	13世紀後半	白磁合子、陶器片、須恵器甕(小片1点)、須恵器甕(縄目－布目　1点)、土師皿・坏(小片　糸)、土師甕(小片)、高坏(脚部小片)、焼土塊、鉄釘	
5206	土坑	SK	8世紀	須恵器高台付坏(8世紀　4個体以上)、須恵器坏蓋(7～8世紀　3個体以上)、須恵質坏、須恵大甕(複数)、土師器坏蓋、瓦質？高台付坏、瓦質坏、土師質甕(古代　3個体以上、土師質高台付坏、甕(弥生時代中期)	
5211	溝	SD	13世紀後半～14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁ⅢⅨ類、陶器大甕、須恵器甕、土鍋？、土師坏(糸　小片)、土器片(弥生～古代)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ)	
5230	土坑	SK	14世紀	青磁小碗(12C後半？)、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗Ⅳ類、白磁ⅢⅨ類、白磁合子、陶器壺Ⅴ類、陶器大甕、陶器鉢Ⅰ-1b、土師坏(糸　小片多、ヘラ切り　少)、土師皿(糸)、土器片(弥生～中世、土器玉、平瓦(須恵質　縄目→ナデ)、滑石片、石製硯、鉄滓	
5231掘方	井戸	SE	12世紀中頃	龍泉窯系青磁碗、越州窯系青磁碗、白磁碗Ⅳ類、白磁皿、陶器小碗、須恵器高坏、須恵器高台付坏(8世紀多)、須恵器坏蓋(8世紀　多)、須恵器甕、瓦器椀、瓦質坏、瓦質坏蓋、平瓦(須恵質　多、土師質　少)、丸瓦(須恵質　1点)、土師器高台付坏(8世紀)、土師甕(多　古墳～古代)、土鍋(12世紀中頃)、土師坏(ヘラ・糸)、土師皿(糸切り？)	瓦は縄目圧痕が多い
5231上層	井戸	SE	12世紀中頃	白磁碗、青磁碗、白磁壺、瓦(須恵、土師　凹圧文瓦に伴うもの)、須恵器甕(複)、土師質甕、滑石製石鍋片、	
5231井筒	井戸	SE	12世紀中頃	染付(中世後半～近世)、同安窯系青磁碗、青磁皿、白磁碗、白磁皿、茶褐釉陶器片、陶器片(大型甕or壺)、須恵器坏蓋(小片多　8世紀)、須恵器坏(ヘラ)、須恵器高台付坏(複　8世紀)、須恵器大甕(複)、須恵器鉢、黒色土器B類片、瓦器椀、土師坏(小片　糸)、土師皿(小片多　糸)土師質高台付坏(8世紀前半)、土師質甕、滑石製石鍋(13世紀)、瓦(須恵質　4点　縄目圧痕　薄手・瓦質　厚め)	染付片は混入か
5244	土坑	SK	15世紀後半	龍泉窯系青磁碗(15世紀？)、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗Ⅳ類、白磁碗小片、白磁ⅢⅨ類、白磁小片、陶器大甕、陶器壺、陶器耳壺？、須恵器坏蓋(小片多　8～9世紀)、須恵器坏(8～9世紀)、須恵器鉢(13世紀)、須恵器大甕、土師器甕(古墳～古代)、甕(弥生時代中期)、土師坏(多　糸)、土師皿(多　糸)、瓦(小片　縄目圧痕、須恵質、土師質は1点のみ)、移動式竈片、石(石英長石斑岩？)、鉄滓、銅滓？、炉壁、釘、石錘(滑石製)、石玉	
5281	炉	SK	13世紀後半～14世紀前半	白磁ⅢⅨ類、白磁片、陶器大甕、瓦器椀、瓦質火鉢、瓦質鉢(12～13C)、土師質鉢(13C後半？)、土師坏(糸)、土師皿(小片　糸、1点高台付)、平瓦(瓦質　縄目)、釘	
5282	土坑	SK	13世紀	青磁碗小片、白磁碗小片、白磁皿(Ⅸ類・その他)、陶器盤Ⅱ類？(複)、陶器瓶、茶褐釉陶器片(小片　複)、常滑窯甕(13世紀？　被熱)、須恵器高台付坏(小片多　8世紀)、須恵器鉢(12末～13前)、須恵器甕(小片)、瓦器片、土師坏(少片多　4点は灯明皿として使用)、土師皿(小片多　糸)　銅製品、	
5307	土坑	SK	13世紀後半～14世紀前	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、白磁碗、白磁ⅢⅨ類、陶器碗、陶器鉢Ⅰ-2a(13C前半)、陶器壺Ⅳ-1b、須恵質捏鉢(13c後半)、瓦質捏鉢、須恵器(大甕、甕、坏蓋、長頸壺？)、土師坏(糸　小片多)、土師皿(糸　小片多)、土器片(弥生～古代)、平瓦(須恵質　縄目→ナデ)、滑石製石鍋	
5308	土坑	SK	12世紀後半	白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、陶器鉢、陶器片、須恵器坏蓋(8C)、須恵器坏、鉄釘(2本)、平瓦(須恵質　縄目)、	
5313		SK	8世紀前半	須恵器高台付坏、須恵器坏蓋、土師坏？、土師甕、土器片(弥生～古代	
5316	土坑	SK		石製紡錘車	
6001上層	井戸	SE	13世紀後半？	龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ・小碗類、白磁碗、白磁壺、茶褐釉陶器片、須恵器(壺？、坏蓋、高台付坏)、土鍋(12c後半～13C前)、土師坏・皿(糸　小片多)、平瓦(須恵　縄目、瓦質　ナデ？)、甕(弥生)、土器片(多)、羽口、鉄釘(2本)、鉄片	
6001掘方	井戸	SE		土師坏(糸　小片1点)、丸瓦(須恵質　ナデ)	
6005	溝	SD	11世紀後半～12世紀前	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(極小片)、須恵器(甕-古墳末～古代、坏蓋、高台付坏-8C、黒色土器A類椀(4点)、瓦器椀(小片1点)、土師器碗、土師質高台付坏、甕(弥生時代・古墳末～古代)、滑石片	
6006	土坑	SK	古代末	陶器大甕(小片)、陶器鉢、土師坏・皿(糸　小片多)、須恵質瓦(丸　4点　縄目→ナデ、平　4点　縄目→ナデ)、土師質瓦(平　ナデ)	
6010	井戸	SE	12世紀	白磁ⅢⅣ類、須恵器坏、陶器大甕、陶器壺、瓦器椀、陶器盤(墨書)、須恵器(墨書)、平瓦(須恵　2点　縄目→ナデ)、土師坏(少　糸)、土師皿(少　糸)、焼土塊、鉄製品、	土師坏・皿少ない、青磁
6011	土坑	SK	8世紀	須恵器坏蓋(多　8世紀)、須恵器高台付坏(多　8世紀)、須恵器甕、土師質？(生焼けの須恵器か　坏蓋、高台付坏)、土師甕(小片多　古代)、土師質坏蓋(小片多　8世紀？)、平瓦(須恵質1点　8世紀前後)、高坏(弥生時代)、	片は混入か 須恵質瓦は草花文丸瓦瓦頭に伴う
6013	土坑	SK	8世紀前半	須恵器坏蓋(8C前半　径19cm弱　天井に墨痕　硯として使用か　胎土・焼成は良好)、須恵器坏、須恵器壺、土師坏	土師坏・皿少ない
6016			8世紀？	須恵器(大甕　2点、坏蓋　1点)、瓦器小片(1点)、土器小片(1点　弥生か)、鉄釘(1点)	瓦器小片は混入か
6019	土坑	SK	古代末	須恵器坏蓋、須恵器坏、陶器壺、土師坏(糸　小片)	
6020	土坑	SK	9世紀前半	土師器坏(完形　1点　ヘラ切り　口径12.3cm、器高3.3cm)、須恵器片、	土師坏・皿無し
6022	土坑	SK	古代	須恵器片、陶器玉(径3cm)、土器片(弥生？)	
6023	井戸	SE	11後半～12世紀	白磁片(11後半～12世紀)、須恵器坏蓋(8世紀末～9世紀)、須恵器坏、須恵質甕(複)、瓦器椀、土師椀、土師質高台付坏(8世紀)、土師坏(ヘラ切り)、土師質甕、丸瓦(須恵質　1点)、土器片(不明)	
6023上層	井戸	SE	12世紀後半～13世紀	青磁小碗、白磁碗Ⅱ・Ⅳ類、須恵器鉢(複数)、須恵器坏蓋(8世紀)、須恵器瓶？、須恵甕(小片多)、須恵器高台付坏(8世紀前半)、瓦質坏、瓦質片(小片)、土師椀、黒色土器？、土師坏(ヘラ・糸)、土師質高台付坏(8世紀前半)、土師甕(小片　多)、滑石製石鍋片(11世紀)、平瓦(須恵質　1点)、	
6023掘方	井戸	SE	古代	須恵器大甕、須恵器提瓶？、土師器甕、土器片	
6027	土坑	SK	8世紀	須恵器坏、土師質坏蓋(数点)、平瓦(土師質　ナデ)、土器片(小片　弥生甕)、	
6035	土坑	SK	12世紀後半	白磁碗Ⅴ類、土師器甕(小片　古墳～古代)	
6042	土坑	SK	8世紀	須恵器坏(8C)、須恵甕、須恵器坏蓋(6C後半)、製塩土器片？、土器片(弥生～古墳時代)	
6057上層	井戸	SE	13世紀後半～14世紀	龍泉窯系青磁碗、白磁碗、白磁ⅢⅨ類、陶器盤、陶器壺(小片)、陶器鉢(13C)、陶器大甕、須恵器(大甕、坏、高台付坏、坏蓋　いずれも8C)、土師質盤？、瓦質鉢、瓦(瓦質→縄目、須恵→縄目、ナデ、土師→ナデ)、 須恵　滑石石鍋、鉄釘	
6057井筒	井戸	SE	13世紀後半～14世紀	須恵器鉢(14C)、土師皿片(糸　3点)	
6057A	井戸	SE	13世紀後半～14世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	
6057B	井戸	SE	13世紀後半～14世紀	須恵器大甕	
6057C	井戸	SE	13世紀後半～14世紀	平瓦(瓦質　小片1点)	
6059	土坑	SK	8世紀前半	土師質高台付坏(1点　口径15.5cm、胎土・焼成・調整いずれも良好、外底部に「×」の線刻、土器片(古墳時代か)	
6061	土坑	SK	古墳時代？	土器片(3点　古墳時代か)	
6062	土坑	SK	8世紀後半	須恵器(坏蓋　破片多-8C後半、坏-8C・6C後半、高台付坏、盤、、甕、提瓶)、甕(古墳、弥生時代中期)、土器片(多　弥生中期～8世紀)、	
6068	井戸		12世紀後半～13世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁碗、陶器大甕(渥美窯、常滑窯　12世紀後半)、須恵器大甕？)、瓦質片(器壁厚1.3cm)、須恵器高台付坏、瓦質捏鉢、土鍋、土師坏(糸　破片多)、土師皿(径7～8cm)、丸瓦(土師質　縄目)、平瓦(須恵質　縄目)、	
6068井筒	井戸		12世紀後半～13世紀	龍泉窯系青磁碗Ⅱ類、陶器大甕(渥美窯　12世紀中頃　6点)、須恵器(大甕、甕、高台付坏)、土鍋、土師坏・皿(糸　小片)、 平瓦(土師質　縄目→ナデ)、	
6072					
6074			7世紀後半	須恵器大甕、須恵器坏蓋(6世紀後半)、須恵器坏、土師質坏蓋(7世紀後半)、甕(弥生中期)	